

NECパーソナルコンピュータ

PC-9800シリーズ

98 NOTE

98

ソフトウェア補足ガイド

NEC



---

# ソフトウェア補足ガイド

---

## ご注意

- (1)本書の内容の一部または全部を、無断で他に転載することは禁止されています。
- (2)本書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。
- (3)本書の内容は、万全を期して作成しております。万一、ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- (4)運用した結果の影響については、(3)項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。
  - ・本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® 95および本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでご使用ください。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windows NTは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

OS/2、OS/2 Warp、WIN-OS/2は、米国IBM Corporationの商標です。

CIRRUS LOGICは、米国シーラス・ロジック社の登録商標です。

FontAvenueは、日本電気オフィスシステム株式会社の登録商標です。

瑞筆は、日本電気オフィスシステム株式会社の登録商標です。

その他の会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

Photo CD portions copyright Eastman Kodak Company 1995

© NEC Corporation 1996

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

BN661A

# はじめに

このマニュアルで紹介するのは、別冊の『Microsoft® Windows® 95 ファーストステップガイド』の補足情報です。

MS-DOSやWindowsの知識を持っている方を対象に、さらに本機を使いこなすために必要な機能、知識および注意事項を説明しています。

本書は、次の機種を対象にしています。

- ・ PC-9821Na12/S8、Na12/S10F
- ・ PC-9821Nb10/5、Nb10/S8、Nb10/S10F

## ■本書の表記について



### ●本文中のキー表記について

キーボードのキーは、次のように枠で囲んで表記しています。

例：  キー

### ●本文中の記号について

本文中の記号には次のような意味があります。

 注意	操作の際に注意していただきたいことを表します。
 参考	操作の際に参考にするるとよい点を表しています。

### ●画面上の文字の表記について

[ ]で囲んである文字は、画面に表示されるダイアログボックス、ボタンなどの名前を表しています。

例：[OK] ボタン

## ●コマンドの書式で使用する記号について

本書では、コマンドの書式などに次の記号を使用しています。

< >	この中の項目は、必ず入力します。
[ ]	この中の項目は、必要に応じて入力します。
	この記号で区切られた項目のうち、どれか一つを入力します。

## ●用語の表記についてのご注意

本書では以下の用語についての表記が、『ガイドブック』や他のOSのマニュアルおよび画面メッセージと異なります。

『ガイドブック』他での表記	本マニュアルでの表記
フロッピーディスク	フロッピーディスク
固定ディスク	ハードディスク
インタフェース	インターフェイス

## ●モデルについて

本書では機種(モデル)によって次のような呼び方をしています。

### FAXモデム内蔵モデル

PC-9821Na12/S10F、PC-9821Nb10/S10F

### CD-ROMドライブ内蔵モデル

PC-9821Na12、PC-9821Nb10/S10F、PC-9821Nb10/S8

## ■このマニュアルの構成

このマニュアルは、次の内容で構成されています。

### 第1部 本機の機能を利用する

Windows アプリケーションをよりよくお使いになるための情報が説明されています。

Windows アプリケーションを利用するときに、該当する部分をお読みください。

- 1 Windows 95 チュータ**  
Windows 95の入門ソフトウェア「Windows 95 チュータ」の内容と使い方について説明しています。
- 2 本機の便利な機能**  
本機特有のWindows 95の機能やWindows 95使用時の注意事項などを説明しています。
- 3 MS-DOS コマンド、ドライバの利用**  
Windows 95のMS-DOSプロンプトやMS-DOSモードで利用できるコマンドやドライバの使い方、注意事項などを説明しています。
- 4 環境設定ユーティリティについて**  
MS-DOSモードの動作環境や本機のメモリスイッチの設定を変更する機能について説明しています。
- 5 ハードウェアの利用**  
Windows上でサウンド機能や周辺機器を利用する方法と注意事項などを説明しています。
- 6 インターネットの利用**  
FAXモデム内蔵モデル以外のモデルで、インターネットに接続する方法を説明しています。

### 第2部 他のソフトウェアを利用する

別売のOSをアップグレードしたり、利用する際の注意事項を説明しています。

別売のソフトウェアを利用するときに、該当する部分をお読みください。

- 1 MS-DOS を利用する**  
本機でMS-DOS 6.2、MS-DOS 5.0A、MS-DOS 3.3Dを利用する際の情報を説明しています。
- 2 Windows を利用する**  
本機でWindows 3.1、Windows 3.1 (英語版)、Windows NTを利用する際の情報を説明しています。
- 3 OS/2 を利用する**  
本機で日本語MS OS/2 1.21B、OS/2 J2.11、OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版を利用する際の情報を説明しています。
- 4 その他のソフトウェアを利用する**  
本機でN<sub>88</sub>-日本語BASIC(86)やMS LANマネージャリモートアクセスサービスを利用する際の情報を説明しています。

# 目次

はじめに.....	iii
■本書の表記について .....	iii
■このマニュアルの構成 .....	v

---

## 第1部 本機の機能を利用する

---

<b>第1章 Windows 95チュータ .....</b>	<b>2</b>
1.1 Windows 95チュータの内容 .....	2
1.2 Windows 95チュータを利用する .....	3
<b>第2章 本機の便利な機能 .....</b>	<b>6</b>
2.1 コンピュータウイルスに備える～JADE ScanVakzin Limited.....	6
■コンピュータウイルスとは .....	6
■JADE ScanVakzin Limitedを使ってウイルスを検査する .....	7
2.2 かな漢字変換(NECAIIME95)を利用する .....	9
2.3 フォントを利用する～FontAvenueフォント .....	11
■TrueType版FontAvenueフォントのご紹介 .....	12
■TrueType版FontAvenueフォントのJIS文字セットを切り替える .....	13
■WIFE版FontAvenueフォントをTrueType版FontAvenue フォントで代替するには.....	14
■Windows 3.1で作成したFontAvenueの外字をWindows 95に 移行する .....	15
■WIFE版FontAvenueフォントについて .....	17
■FontAvenueボードの注意事項 .....	18
2.4 パソコン通信をする～PC-VANナビゲータ .....	19
■PC-VANにユーザ登録する .....	19
■PC-VANを利用する .....	23
2.5 文章をパソコンに読ませる～テキストリーダー .....	27
2.6 文章を英文にする～日英辞書引き君(単文変換版) .....	29
2.7 イメージスキャナ ユーティリティを使う .....	32
■機器の設定をする .....	32
■読み込む画像の設定を変更する .....	34

■ 画像を読み込んで編集する .....	35
■ イメージスキャナ ユーティリティの注意事項 .....	37
2.8 カラーイメージ ユーティリティを使う .....	38
■ ディスプレイの設定 .....	39
■ イメージデータを編集する .....	39
■ カラーイメージ ユーティリティの注意事項 .....	40
2.9 ディスクの内容を見る～FD/CD表示 .....	41
■ FD/CD表示を利用する .....	41
2.10 オーディオCD/ビデオCD/フォトCDを再生する～98プレーヤ .....	44
■ CDを再生する .....	44
■ オーディオCDを聴く .....	45
■ ビデオCD(カラオケCD)を見る .....	47
■ オーディオCD/ビデオCDの再生順序を指定する .....	49
■ フォトCDを見る .....	50
2.11 英語モードフォントを使用する .....	53
2.12 LANシリーズのデータを見る～LANPLAN/G、LANFILE、 LANWORDファイルのクイック表示 .....	55
2.13 DOS APインストーラ .....	57
■ MS-DOSアプリケーションをインストールしてショートカットを 作成する .....	58
■ MS-DOSアプリケーションのショートカットを作成する .....	63
■ MS-DOSアプリケーションのショートカットのデバイスドライバ、 環境変数を変更する .....	63
■ DOS APインストーラの注意事項 .....	64
■ 手作業によるアプリケーションの登録 .....	64
■ アプリケーションを利用する際の注意 .....	66
2.14 密度変換ユーティリティを使用する .....	67
2.15 その他の機能を利用する .....	68
■ Windowsアプリケーションの自動インストールを利用する .....	68
■ アプリケーションからのFAX送信を利用する .....	68
■ 通信速度を指定する場合のご注意 .....	69
■ メディアプレーヤーを利用する場合のご注意 .....	69
■ ビデオCD(カラオケCD)を再生する場合のご注意 .....	69
■ CD-ROMを利用する場合のご注意 .....	69
■ MS-DOSアプリケーション上での98スライドパッドの操作について	70
■ アプリケーションの追加と削除についてのご注意 .....	70

<b>第3章 MS-DOSコマンド、ドライバの利用</b> .....	<b>71</b>
3.1 USKCGMコマンド .....	71
3.2 AVGDRVコマンド、AVSDRVコマンド .....	76
■AVGDRVコマンドについて .....	76
■AVSDRVコマンドについて .....	77
3.3 日本語入力機能 .....	79
3.4 CD-ROMドライバ .....	80
<b>第4章 環境設定ユーティリティについて</b> .....	<b>83</b>
4.1 DOS環境設定ユーティリティ .....	83
■CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATを編集する .....	83
4.2 98環境設定ユーティリティ .....	87
<b>第5章 ハードウェアの利用</b> .....	<b>89</b>
5.1 サウンド機能を利用する .....	89
5.2 PCカードを利用する .....	90
■32ビットまたは16ビットPCカードサポートを選択する .....	90
■32ビットでPCカードを利用する .....	90
■16ビットでPCカードを利用する .....	91
5.3 ジョイスティックを利用する .....	96
5.4 ドッキングステーション、および拡張バス変換コネクタを利用する .....	97
5.5 周辺機器用のドライバを利用する .....	97
<b>第6章 インターネットの利用</b> .....	<b>98</b>
6.1 インターネット接続の設定をする .....	98
■接続するための準備 .....	98
■モデムを設定する .....	99
■NECのインターネットサービス「mesh」と契約する .....	100
■接続するための設定を行う～インターネットセットアップ ウィザード .....	104
6.2 インターネットに接続する .....	109
■ [パスワードの保存] チェックボックスを有効にする .....	110
■メールを使うための設定を行う .....	111

---

## 第2部 他のソフトウェアを利用する

---

<b>第1章 MS-DOSを利用する</b> .....	<b>116</b>
1.1 MS-DOS 6.2/5.0Aの利用 .....	116
1.2 MS-DOS 6.2での複数台CD-ROMドライブの利用 .....	121
1.3 MS-DOS 5.0Aでの本機内蔵CD-ROMドライブの利用 .....	123
1.4 MS-DOS 6.2の機能 .....	124
1.5 MS-DOS 5.0Aの機能 .....	127
1.6 固定ディスク起動メニュープログラムについて .....	130
1.7 MS-DOS 3.3Dの利用 .....	131
1.7.1 MS-DOS 3.3Dをアップグレードする .....	131
1.7.2 MS-DOS 3.3Dでの本機内蔵のCD-ROMドライブの利用 .....	133
<b>第2章 Windowsを利用する</b> .....	<b>135</b>
2.1 Windows 3.1の利用 .....	135
■Windows 3.1のアップグレード .....	135
■表示解像度の設定 .....	136
■サウンド機能の設定 .....	137
■Windows 3.1の強化機能 .....	139
■Windows 3.1の注意事項 .....	141
2.2 Windows 3.1 (英語版) の利用 .....	142
■Windows (英語版) をアップグレードする .....	142
■本機内蔵のサウンド機能を使用する .....	144
2.3 Windows NT 3.51の利用 .....	145
<b>第3章 OS/2を利用する</b> .....	<b>151</b>
3.1 日本語MS OS/2 Ver1.21Bの利用 .....	151
3.2 OS/2 J2.11の利用 .....	152
■ディスプレイの設定 .....	152
■拡張電源管理の設定 .....	153
3.3 OS/2 Warp V3-日本語版およびOS/2 Warp Connect V3-日本語版 の利用 .....	153
■ディスプレイの設定 .....	153
■CD-ROMの設定 .....	156
■サウンドの設定 .....	156

<b>第4章</b>	<b>その他のソフトウェアを利用する .....</b>	<b>157</b>
4.1	N88-日本語BASIC(86)の利用 .....	157
4.2	LANマネージャ リモートアクセスサービスで38400bpsの 通信速度を利用する .....	158
4.3	PCカードサポートソフトウェアの利用 .....	161

---

## 付録

---

<b>付録A</b>	<b>本機の便利な機能.....</b>	<b>164</b>
	ツール一覧 .....	164
<b>付録B</b>	<b>固定ディスク起動メニュー.....</b>	<b>166</b>
	固定ディスク起動メニュー .....	166

## 第1部

# 本機の機能を利用する

Windowsをよりよくお使いになるための機能や情報、  
周辺機器の利用方法について説明します。

- 第1章 Windows 95チュータ
- 第2章 本機の便利な機能
- 第3章 MS-DOSコマンド、ドライバの利用
- 第4章 環境設定ユーティリティについて
- 第5章 ハードウェアの利用
- 第6章 インターネットの利用

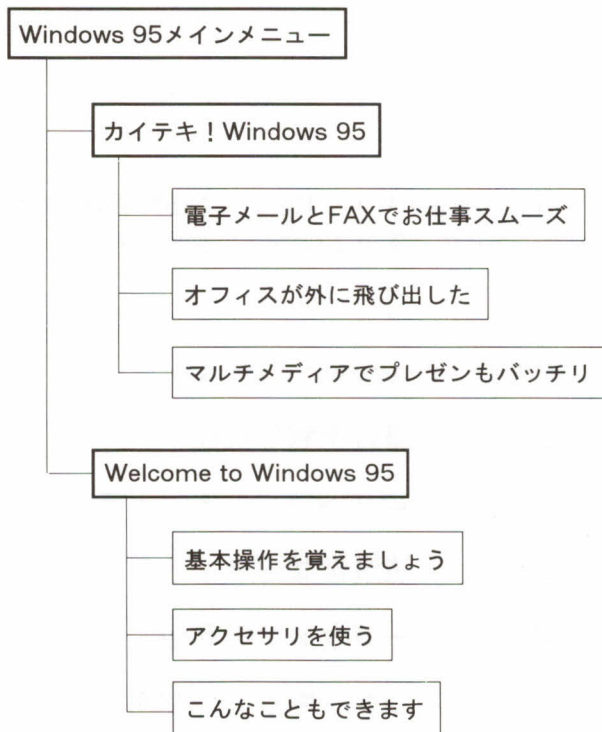
# 第1章 Windows 95チュータ

PC-9821Nb10/5では、Windows 95 チュータは添付されていません。

Windows 95チュータは、初めてWindows 95を利用する方のための入門ソフトウェアです。基本的な使い方と操作方法を登場する人物の説明によって紹介されるため、視覚的にWindowsの基本操作を覚えていくことができます。特に利用方法は、実際の利用シーンを想定してストーリーが展開されますので、どのようにWindows 95を活用したらよいか、楽しくすぐに理解できるようになっています。また、項目をマウスでクリックするだけですべての操作が行えますので、初めての方でも簡単に利用することができます。

## 1.1 Windows 95チュータの内容

Windows 95チュータの構成は、次の表のとおりです。



## 1.2 Windows 95チュータを利用する

Windows 95チュータを利用するには、次のCD-ROMを用意します。

- ・「チュートリアルCD-ROM」

### ●Windows 95チュータの起動

Windows 95チュータを起動します。

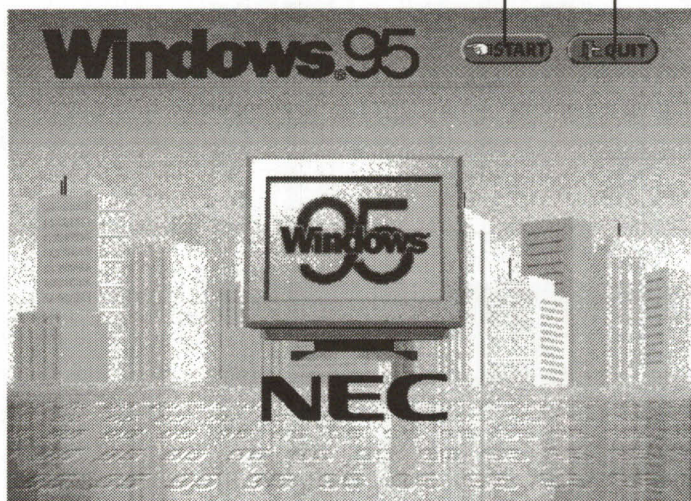
- ・本機に添付の「チュートリアルCD-ROM」をCD-ROMドライブに挿入し、デスクトップの[Windows 95チュータ]をダブルクリックします。Windows 95チュータが起動して、Windows 95チュータのオープニング画面が表示されます。



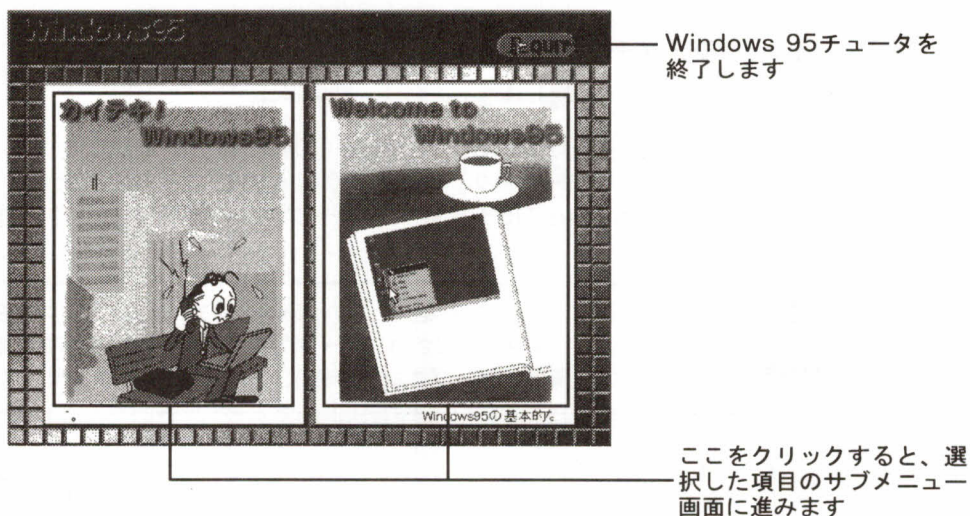
[Windows 95チュータ]の起動時、[Windows 95チュータ]アイコンを続けてダブルクリックしないでください。オープニング画面が黒く表示されることがあります。この場合、オープニングが終了すると正常な画面に戻ります。

メインメニュー画面に進みます。

Windows 95チュータを終了します。



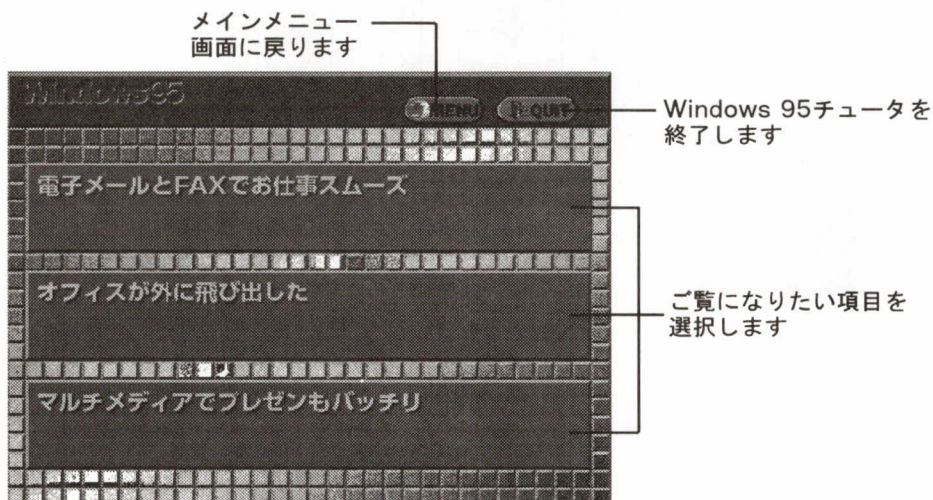
オープニング画面に続いて、Windows 95チュータのメインメニュー画面が表示されます(表示されない場合は、[START]ボタンを押してください)。これ以降の操作については、「カイツキ! Windows 95」または「Welcome to Windows 95」を参照してください。



## ●カイツキ! Windows 95

Windows 95チュータの「カイツキ! Windows 95」の画面に進みます。

- ・画面左側[カイツキ! Windows 95]のイラスト部分をクリックすると、カイツキ! Windows 95のオープニング画面が動き出した後、「カイツキ! Windows 95」のメニュー画面が表示されます。

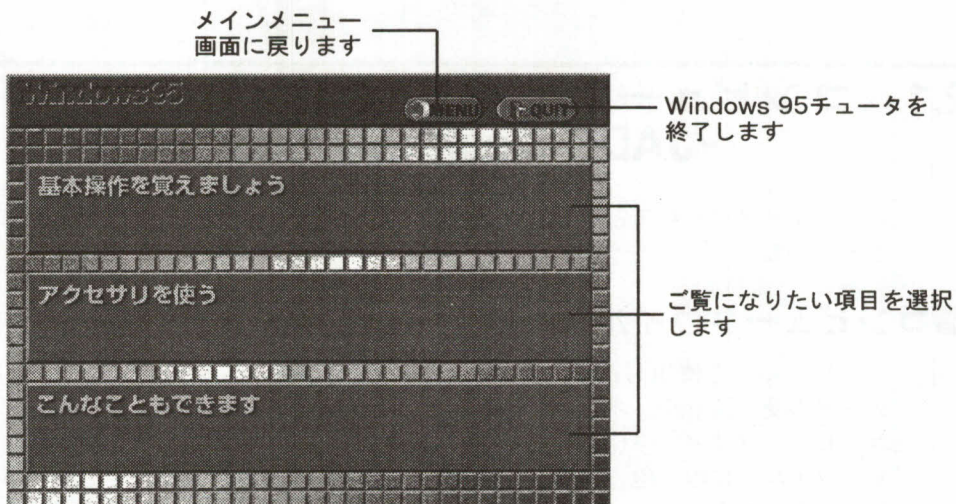


いずれかの項目を選択すると、それぞれの画面でキャラクターが登場し、Windows 95の使い方を説明します。

## ●Welcome to Windows 95

Windows 95チュータの「Welcome to Windows 95」の画面に進みます。

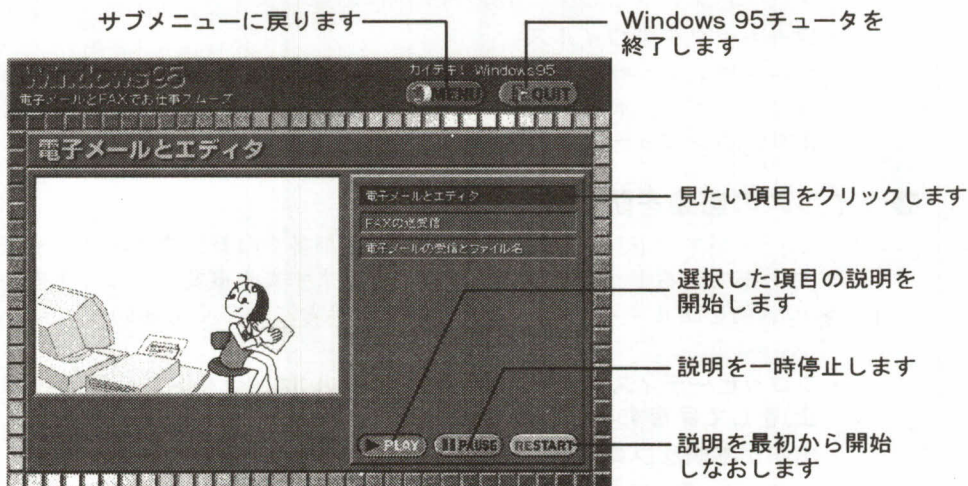
- ・ [Welcome to Windows 95]のイラスト部分をクリックすると、「Welcome to Windows 95」のメニュー画面が表示されます。



いずれかの項目を選択すると、それぞれの画面でキャラクターが登場して、Windows 95のさまざまな使い方をていねいに説明していきます。

## ●電子メールとFAXでお仕事スムーズ

- ・ [カイトキ! Windows 95]のメニューから、[電子メールとFAXでお仕事スムーズ]を選択します。  
見たい項目を選択して、[PLAY]ボタンをクリックすると、説明が始まります。



---

---

# 第2章 本機の便利な機能

---

---

## 2.1 コンピュータウイルスに備える ～JADE ScanVakzin Limited

コンピュータウイルスとはどんなものか、コンピュータウイルスの予防方法と、検査するためのアプリケーションソフトについて説明します。

### ■コンピュータウイルスとは

コンピュータを使用した日常業務で、フロッピーディスクや光ディスクを使用したデータの受け渡しや、ネットワークを通じてデータのやりとりを繰り返していると、コンピュータウイルス(以降、ウイルス)に感染したデータを受け取る危険性があります。ウイルスには、他のプログラムを修正して自分自身を複製して付着するもの、感染するだけで実害のないもの、データ破壊を引き起こすもの、長期間潜伏して突然暴れ出すものまでさまざまなタイプが存在します。

ウイルスは、その感染方法によって次の3種類に分けられます。

#### ・ファイル感染型ウイルス

一般に、実行型ファイル(拡張子がCOMやEXE)に感染するタイプのウイルスです。ファイル感染型ウイルスに感染したファイルを実行すると、メモリに常駐するか直接的に他の実行型ファイルにウイルスコードを付着させます。

#### ・マクロ感染型ウイルス

アプリケーションソフトのマクロ機能を使って作られたウイルスのことです。ワープロ文書などのデータファイルに感染します。

#### ・ブートセクタ型ウイルス

ハードディスクやフロッピーディスクのブートセクタ(IPL)に感染するタイプのウイルスです。本来のブートセクタの内容をウイルス自身と置き換えることにより、コンピュータ起動時にメモリの中に常駐して感染活動を行います。

### ●ウイルスの感染を防ぐ

コンピュータがネットワークに接続される機会が多くなり、ウイルスの感染を少しでも防ぐことができるように対策を立てることがますます重要になってきています。ウイルスの感染を防止するために、次の方法を参考にしてください。

- ・フロッピーディスクのマスター(オリジナル)は、ライトプロテクト(書き込み防止)をして保管する
- ・出所が不明なフロッピーディスクやプログラムは使用しない
- ・入手したプログラムはウイルス検査を済ませてから使用する
- ・パーソナルコンピュータのウイルス検査は定期的に行う

また、ディスクのバックアップを取っておくと、万一ウイルスに感染した場合でも、ウイルス駆除後の復旧作業が楽になります。ただし、復旧には、感染前のバックアップが必要になるので、頻りにバックアップとScanVakzin Limitedを使ったウイルス検査を行うことが必要になります。

## ■JADE ScanVakzin Limitedを使ってウイルスを検査する

本機では海外のコンピュータウイルスを含め、約7500種類以上のウイルスを発見するアプリケーションソフトJADE ScanVakzin Limitedを使って、指定したドライブやフォルダの検査を行うことができます。また、スケジューラ(自動ウイルス検査(SCW95.EXE))によって指定したタイミングで検査することができます。

### ●ウイルスの検査

ScanVakzin Limited(SVW95.EXE)を起動して、本機に接続されているディスク内のウイルスを検査します。

- ①[スタート]メニューの[プログラム]—[NECユースフルパック]から[JADE ScanVakzin Limited]を選択します。

画面の各ボタンの内容については、以下のとおりです。

詳しい使い方については、JADE ScanVakzin Limitedのヘルプを参照してください。

項目	内容
[ウイルス検査]	ウイルスの検査を実行します。
[設定]	検査条件を設定します。
[終了]	JADE ScanVakzin Limitedを終了します。
[ドライブ]	ウイルス検査を行うドライブを指定します。
[対象ファイル]	ウイルス検査を行うファイルを指定します。



検査対象ファイルとして圧縮ファイルを指定した場合は、圧縮されたファイルを自動的に解凍して検査します。

### ●スケジューラの起動

定期的にウイルスを検査するにはスケジューラを使います。本機にはスケジューラが[スタート]メニューの[プログラム]—[スタートアップ]に登録されていますので、Windows 95が起動するとタスクバーに表示されています。スケジューラを起動するには、タスクバーにある[スケジューラ(JADE ScanVakzin Limited)]を選択します。スケジューラの設定画面が表示されますので、ウイルス検査を行う時間を設定してください。設定の詳細については、スケジューラのヘルプを参照してください。

## ● ウイルスを発見した場合

ウイルスの感染状態は、次の通りです。

- ・ **感染** 該当ファイルに既知のウイルスが感染しています。
- ・ **破壊** 該当ファイルがウイルスによって破壊されています。
- ・ **疑惑** 該当ファイルにウイルスが感染している可能性があります。

ウイルスの駆除には、該当ファイルを削除して、マスターまたはバックアップから再インストールすることが一番安全で確実な方法です。なお、疑惑が表示されている場合、または感染したウイルスがブートセクタタイプの場合には上記手段が使用できませんので、復旧については本機添付の別紙の連絡先までお問い合わせください。

2次感染を防ぐため、ウイルスが発見された場合は、使用した媒体(フロッピーディスク、ハードディスク、MOなど)をすべてウイルス検査する必要があります。

## ● ウイルスの被害届について

日本では、企業でも個人でもウイルスを発見した場合は、所定の機関に届け出ることが義務づけられています。ウイルスの届け出先として、情報処理振興事業協会という通産省の外郭団体(通称IPA)がウイルス技術調査室を設けていて、そこを届け出先として指定しています。これは、ウイルスの対策基準として平成7年7月に通産省から官報で告知されたもので(平成7年7月7日付け通商産業省告示第429号)、届け出をしなくても罰則の規定はありませんが、今後の対策や被害状況を正しく把握するためにも積極的に報告してください。届け出の内容は、今後の被害対策のための貴重な情報となります。

届け出先(IPA)については、本機に添付されている別紙を参照してください。

## 2.2 かな漢字変換(NECAIIME95)を利用する

本機では、日本語を入力するための機能として、NECAIIME95を利用できます。ここでは、NECAIIME95について説明します。



PC-9821Nb10をお使いの場合、購入時の状態では、かな漢字変換としてMS-IME95が選択されています。

日本語入力システムの切り替え方法は、『Microsoft Windows 95 ファーストステップガイド』を参照してください。

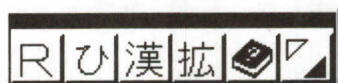
また、[コントロールパネル]の[キーボード]を起動し、[言語]タブ画面で標準の日本語入力システムを切り替えることができます。

### ●NECAIIME95ツールバーについて

NECAIIME95には、入力や変換などの日本語モードの状態を示したり、環境を設定したりするのに便利なNECAIIME95ツールバーがあります。

ツールバーに表示されるボタンの種類は、環境設定で変更することができます。また、ツールバーはドラッグして自由に画面上を移動することもできます。

出荷時の設定で表示されるツールバーと各ボタンの機能は次のとおりです。



ローマ字入力、かな入力の状態を示します。ボタンをクリックして一覧から選択してください。



現在の入力モードを表示します。入力モードには、全角ひらがな、全角カタカナ、全角英数、半角カタカナ、半角英数があります。



現在の入力方式を表示します。入力方式には、漢字に変換する、半角確定入力、固定入力があります。



環境設定のダイアログボックスを表示します。










NECAIIME95に関するオンラインヘルプを表示します。このオンラインヘルプには、日本語入力の基礎や関連知識などについて情報がありますので、ぜひ参照してください。



ツールバーの表示を切り替えます。ボタンをクリックすることにより、初期状態のツールバーと全ボタン表示のツールバーが切り替わります。

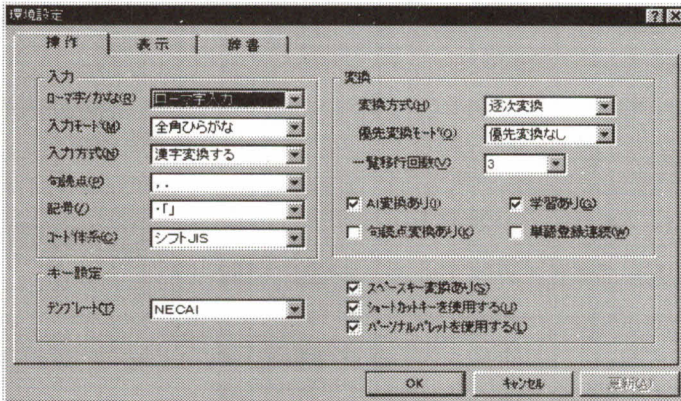
全ボタン表示にすると、次のようなボタンがツールバーに追加されます。



-  ファンクションガイドの表示/非表示を切り替えます。
-  文字の変換や修正など、日本語入力の基本的な機能を一覧から選択することができます。選択できる機能は、変換、各種変換、1文字確定、取り消し、削除、カーソル移動、文節移動、文節区切り、確定です。
-  単漢字入力の機能を一覧から選択することができます。選択できる機能は、部首変換、音読み変換、画数変換、コード入力、記号入力です。
-  辞書切り替えのダイアログボックスを表示します。
-  単語登録および削除を行うダイアログボックスを表示します。また、変換候補の削除を行うこともできます。
-  辞書保守ユーティリティを起動します。
-  優先変換モードを表示します。優先変換モードには、優先変換なし、口語優先、複合語優先があります。

## ●環境設定について

環境設定ダイアログボックスはNECAIIME95ツールバーの[拡]ボタンをクリックするか、キーボードの[F・10]キーを押すと表示できます。



入力モード、入力方式など、日本語入力の基本的な設定を行う場合は[操作]タブを、ツールバーの表示を変更する場合は[表示]タブを、使用する辞書の設定を行う場合は[辞書]タブを、それぞれクリックし、自分の使いやすい環境に整えてください。

## 2.3 フォントを利用する～FontAvenueフォント

FontAvenueフォントは、高品質な日本語の画面表示やプリンタ出力を実現します。Windows95から、FontAvenueはTrueType版フォントを提供します。また、本機にはWindows 3.1との互換用として、WIFE版FontAvenueフォントも添付しています。



WIFE版FontAvenueフォントを利用する場合は、後述の「■WIFE版FontAvenueフォントについて」に従ってインストールしてください。

## ■TrueType版FontAvenueフォントのご紹介

本機にインストールされているTrueType版FontAvenueフォントの用途・特長を説明します。

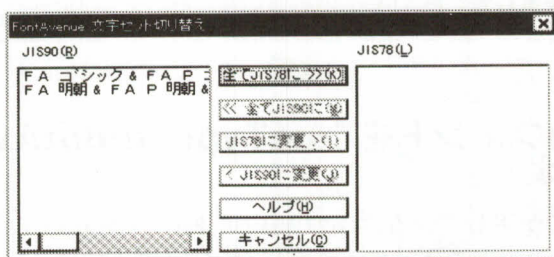
TrueType版 FontAvenue フォント	サンプル	内 容
FA 明朝	愛あ	文書の本文から小見出しまでに適しています。
FA P 明朝	愛あ	文字形状に合わせた字詰めによって、より美しく、読みやすい文章を作成できます。
FA ゴシック	愛あ	文章の見出し、強調およびプレゼンテーション用に適しています。
FA P ゴシック	愛あ	文字形状に合わせた字詰めによって、より美しく、読みやすい文章を作成できます。
FA <small>ふみゆう</small> 文結明朝	愛あ	FA 明朝の漢字に和風のかなを組み合わせた書体です。手紙、案内状、俳句などに適しています。
FA <small>ふみゆう</small> 文結ゴシック	愛あ	FAゴシックの漢字に和風のかなを組み合わせた書体です。手紙、案内状、俳句などに適しています。
FA クリアレター	愛あ	FA 明朝の漢字に別デザインのかなを組み合わせた書体です。多目的の使用に適しています。
FA ぼぼる	愛あ	FAゴシックの漢字にポップ風のかなを組み合わせた書体です。チラシ、絵本などに適しています。
FA ゴシックB	愛あ	FAゴシックの線幅を太くした書体で、文書のタイトル・大見出し、小さな垂れ幕などに適しています。
FA 丸ゴシックM	愛あ	見出し・OHPなどの他、本文にも適しているソフトな書体です。
FA 教科書M	愛あ	小学校教育に関連する文書などの他、賞状・名刺などに適しています。
FA 瑞筆行書M	愛あ	挨拶状・案内状などに適した、流麗で伸びやかな文字です。
FA 隷書M	愛あ	年賀状など、フォーマルな文書に適する一方で、広告・遊び文書などの用途にも使える書体です。
FA ポップB	愛あ	人目を引き付けやすいデザインによって広告などに使用される、遊びイメージの強い書体です。

## ■ TrueType版FontAvenueフォントのJIS文字セットを切り替える

Windows 95のTrueType版FontAvenueフォントは、JIS90モードに設定されています。JIS78モードへ切り替えるには、[FontAvenue文字セット切り替え]を使用します。

### ● FontAvenue文字セット切り替えの起動

動作中の全てのアプリケーションを終了してから、[スタート]メニューの[プログラム]-[NECユースフルパック]にある[FontAvenue文字セット切り替え]を起動します。全てアプリケーションを終了するよう、メッセージが表示されますので[OK]ボタンをクリックしてください。[FontAvenue文字セット切り替え]ウィンドウが表示されます。本機購入時のTrueType版FontAvenueフォントは、JIS90モードに設定されているので、[JIS90]に表示されます。



### JIS78文字セットへの切り替え

- ・ フォントをすべてJIS78文字セットに切り替える場合  
[全てJIS78に>>>]ボタンをクリックします。
- ・ 特定のフォントをJIS78文字に切り替える場合  
[JIS90]のフォントを選択して[JIS78に変更>>]ボタンをクリックします。



複数のフォントを選択する場合は、**CTRL**または**SHIFT**を押したままフォントを選択します。

### JIS90文字セットへの切り替え

- ・ フォントをすべてJIS90文字セットに切り替える場合  
[<<<全てJIS90に]ボタンをクリックします。
- ・ 特定のフォントをJIS90文字セットに切り替える場合  
[JIS78]のフォントを選択して[<JIS90に変更]ボタンをクリックします。



- ・ [FontAvenue文字セット切り替え]を起動している間はフォントの削除や追加を行わないでください。
- ・ 他のアプリケーションがフォントファイルを使用している時は、文字セットを切り替えることができません。他のプログラムをすべて終了してから実行してください。また、フォントが他のコンピュータ上にあると切り替えることができない場合があります。
- ・ TrueType版FontAvenueフォントを印刷した場合、FontAvenue JIS文字セット切り替えで指定した文字セットと、プリント結果の文字セットが一致しない場合があります。これは、プリンタドライバ等の設定により、TrueType版FontAvenueフォントが、プリンタの内蔵フォントに置き替えて出力されたことが原因です。このような場合には、文字セットの不一致が発生したフォントを、プリンタの内蔵フォントで置き替えないように、プリンタの設定を変更してください。

## ■ WIFE版FontAvenueフォントをTrueType版FontAvenueフォントで代替するには

本機では、既存の文書などで使用している従来のWIFE版FontAvenueフォントを、TrueType版FontAvenueフォントで代替するように設定されています。この設定では、以下のようにフォントが代替されます。

WIFE版		TrueType版
FA 明朝	→	F A 明朝
明朝-L FA	→	F A 明朝
FA ゴシック	→	F A ゴシック
ゴシック-M FA	→	F A ゴシック
ゴシック-B FA	→	F A ゴシック B
丸ゴシック-M FA	→	F A 丸ゴシック M
教科書-M FA	→	F A 教科書 M
瑞筆行書-M FA	→	F A 瑞筆行書 M



- ・ TrueType版FontAvenueフォントがインストールされていない場合は、適当なフォントに自動的に代替されますが、体裁が崩れる場合があります。
- ・ WIFE版FontAvenueフォントがインストールされている場合、代替機能は働きません。

## ■Windows 3.1で作成したFontAvenueの外字をWindows 95に移行する

Windows 3.1で作成したWIFE版FontAvenueフォントの外字は、[FontAvenue外字コンバータ]を使用してWindows 95用の外字として利用することができます。



[FontAvenue外字コンバータ]で外字を利用するには、Windows3.1の[FontAvenue外字エディタ]の[補助機能]メニューの[外字データのFD媒体への退避]コマンドで作成したフロッピーディスクを用意する必要があります。

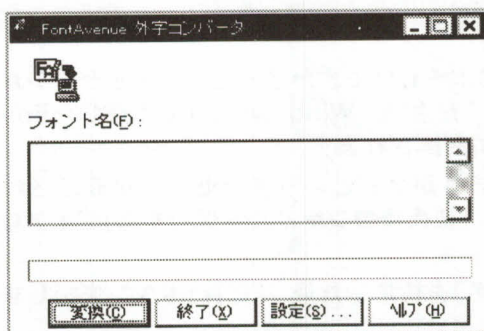
### ●Windows 3.1で作成したFontAvenue外字のWindows 95への移行

Windows 3.1で作成したFontAvenue外字をWindows 95用の外字に変換します。

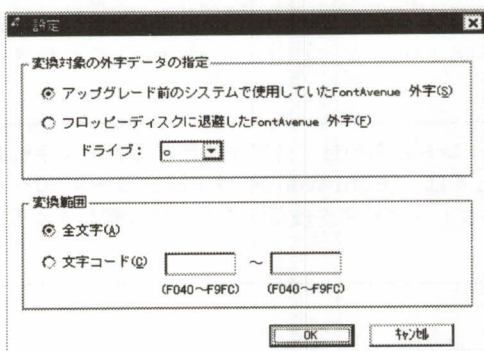
- ①[スタート]メニューの[プログラム]—[NECユースフルパック]から[FontAvenue外字コンバータ]を起動します。[FontAvenue 外字コンバータ]ウィンドウが表示されます。



FontAvenue外字が見つからない場合は、“アップグレード前のシステムで使用していたFontAvenue外字が見つかりません”というメッセージを表示します。[OK]ボタンを押すと、[FontAvenue 外字コンバータ]ウィンドウが表示されます。



- ②変換対象を変更する場合や変換範囲を変更する場合は、[設定]ボタンを押します。[設定]ダイアログボックスが表示されます。



- ③[変換対象の外字データの指定]で[アップグレード前のシステムで使用していたFontAvenue外字]または[フロッピーディスクに退避したFontAvenue外字]の[ドライブ]を選択します。また、[変換範囲]で[全文字]または[文字コード]の範囲を設定します。



- ・[フロッピーディスクに退避したFontAvenue外字]を選択する場合は、事前にFontAvenue外字ファイルの入ったフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入しておいてください。
- ・[フロッピーディスクに退避したFontAvenue外字]は、Windows 3.1で[FontAvenue外字エディタ]の[補助機能]メニューの[外字データのFD媒体への退避]コマンドで作成したFontAvenue外字ファイルだけが変換できます。

- ④[OK]ボタンを押すと、変換するFontAvenue外字が[フォント名]の一覧に表示されます。
- ⑤[フォント名]の一覧に表示されているFontAvenue外字を選択した後、[変換]ボタンを押します。



複数のフォントを選択することはできません。

- ⑥「指定したフォントを変換してよろしいですか？」というメッセージが表示されるので、[OK]ボタンを押してください。Windows 3.1で作成したFontAvenue外字がWindows 95用の外字に変換されます。
- ⑦「変換したファイルを保存しますか？」というメッセージが表示されるので、[OK]ボタンを押してください。[変換後のファイルを保存する]ダイアログボックスが表示されます。
- ⑧[保管される場所]と[ファイル名]を指定した後、[保存]ボタンを押します。変換したファイルが保存されます。

## ●変換したFontAvenue外字の外字エディタへの取り込み

変換したFontAvenue外字を外字エディタに取り込んでWindows 95で利用できるようになります。手順については、[外字エディタ]のヘルプを参照してください。



WIFE版FontAvenueフォントとあわせて外字を使用すると、文字位置がずれる場合があります。詳しくは、[FontAvenue 外字コンバータ]のヘルプの、「トラブルシューティング」－「外字を使用すると文字位置がずれる」の項目を参照してください。

## ■WIFE版FontAvenueフォントについて

WIFE版FontAvenueフォントは、Windows3.1に標準搭載されていたフォントです。

従来WIFE版FontAvenueフォントをご利用いただいていた方のために、CD-ROMドライブ内蔵モデルをお使いの場合は、添付の「チュートリアルCD-ROM」に、PC-9821Nb10/5をお使いの場合は、内蔵ハードディスクに、FA 明朝、FA ゴシックの2種類の書体を添付しています。なお、初めてFontAvenueフォントをご利用になる場合は、より高品質なTrueType版FontAvenueフォントをお勧めします。

WIFE版FontAvenueフォントファイルは、[FontAvenueインストーラ]からインストールしてください。

### ●FontAvenueインストーラを利用する

WIFE版FontAvenueフォントを利用する際に、追加、再登録、フォント名と高さの設定、文字飾りの設定、削除、JIS文字セットの切り替えを行うには、[FontAvenueインストーラ]を使用します。



FontAvenue外字は使用できません。

---

### ●FontAvenueインストーラの起動

[スタート]メニューの[プログラム]—[NECユースフルパック]から[FontAvenueインストーラ]を起動すると、[FontAvenueインストーラ]ウィンドウが表示されます。[FontAvenueインストーラ]の操作方法については、オンラインヘルプを参照してください。



- ・ CD-ROMドライブ内蔵モデル添付のWIFE版FontAvenueフォントを使用する場合は、CD-ROMドライブにCD-ROMドライブ内蔵モデル添付の「チュートリアルCD-ROM」をセットし、[FontAvenueインストール]の[追加]ボタンをクリックして、[インストール媒体のドライブ]に次のように指定します。

〈CD-ROMドライブ名〉:¥USEFULPK

- ・ PC-9821Nb10/5で、本機添付のWIFE版FontAvenueフォントを使用する場合は、[FontAvenueインストール]の[追加]ボタンをクリックして、[インストール媒体のドライブ]に次のように指定します。〈ドライブ名〉にはWindows 95がインストールされているドライブ(通常は「A:」)を指定してください。

〈ドライブ名〉:¥WINDOWS¥SYSTEM

- ・ PC-9821Nb10/5で、WIFE版FontAvenueフォントを、「フォントも削除する」を選択して削除した場合、再追加するには、バックアップしたディスクからのシステムの再セットアップが必要です。
- ・ [FontAvenueインストール]を起動する際には、あらかじめすべてのアプリケーションを終了させてください。
- ・ [FontAvenueインストール]には、TrueType版FontAvenueフォントのインストール機能はありません。
- ・ WIFE版FontAvenueのフォントがインストールされていない状態では、[FontAvenueインストール]ウィンドウ表示直後、[追加]ダイアログボックスが表示されます。
- ・ ネットワーク上のCD-ROMドライブおよびフロッピーディスクドライブからは、フォントを追加できません。
- ・ 登録先のディレクトリ名がロングファイル名の場合、フォントを追加できません。
- ・ WIFE版FontAvenueフォントのJIS文字セット切り替えが正常に動作しない場合は、以下の操作を行ってください。

- ①他のアプリケーションを終了させます。
- ②[FontAvenueインストール]を起動して、文字セット切り替えが正常に実行できないフォントを選択します。
- ③[削除]ボタンを押し、[削除]ウィンドウで「ファイルも削除する」チェックボックスを選択しないで[はい]ボタンを押しします。
- ④Windows 95を再起動します。
- ⑤[FontAvenueインストール]を起動して、文字セット切り替えが正常に行われないフォントを選択します。
- ⑥[再登録]ボタンを押しします。
- ⑦Windows 95を再起動します。

## ■FontAvenueボードの注意事項

FontAvenueボード(PC-9801-89)は、使用できません。

## 2.4 パソコン通信をする～PC-VANナビゲータ

PC-VANは、NECが運営する国内最大のパソコン通信です。「最新の情報を知りたい!」「ネットワークを通して友達の輪を広げたい!」というような目的に、PC-VANのサービスは最適です。パソコン通信でPC-VANを利用するはじめての方のために、PC-VANへの入会からPC-VANサービスへの接続、利用まで、PC-VANナビゲータで行うことができます。

### ●パソコン通信をするには

FAXモデム内蔵モデルでパソコン通信をするためには、本機のFAXモデムカードと電話回線とを接続する必要があります。これらの接続方法については、『ガイドブック』を参照してください。

その他のモデルでパソコン通信をするためには、本機とモデムまたはモデムカードと電話回線とを接続する必要があります。これらの接続方法については、「ガイドブック」およびモデムまたはモデムカード添付のマニュアルを参照してください。

パソコン通信をPC-VANで利用するにはPC-VANへのユーザ登録やサービスの利用方法を知る必要があります。これらについては、以降の各項を参照してください。

### PC-VANの利用

パソコン通信サービス「PC-VAN」へユーザ登録すると、「PC-VAN」のサービスが利用できます。ユーザ登録やサービスの利用は、PC-VANナビゲータを使うことで、簡単に行えます。

PC-VANを利用するためには、あらかじめユーザ登録をする必要があります。

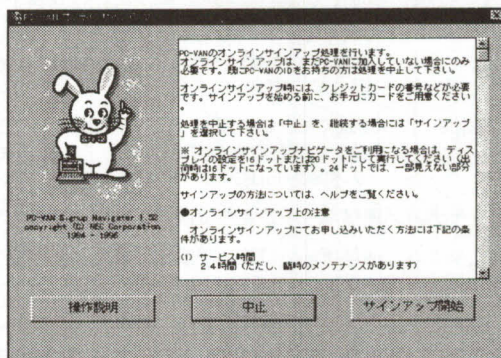
なお、すでにPC-VANへユーザ登録されている場合は、「PC-VANを利用する」に進みください。

## ■PC-VANにユーザ登録する

[オンラインサインアップ]を利用して、PC-VANへユーザ登録します。

- ①[スタート]メニューの[プログラム]—[コミュニケーション]から[オンラインサインアップ]を起動します。

[PC-VANオンラインサインアップ]画面が表示されます。

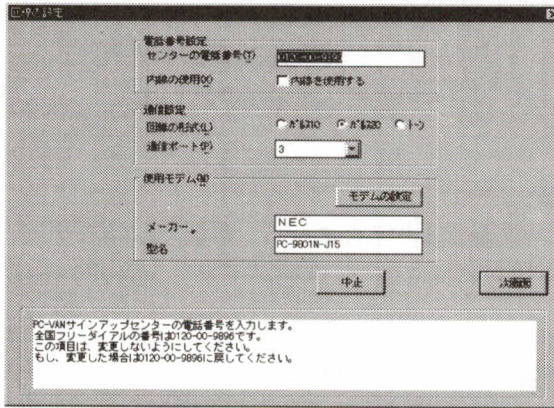


- ②[サインアップ開始]ボタンをクリックします。

[会員規約の確認]ダイアログボックスが表示されて、会員規約が表示されます。

③会員規約に同意して料金表やサービス内容を確認した後、[会員規約に同意し処理を継続]ボタンをクリックします。

[回線の設定]ダイアログボックスが表示されます。



ご利用になる環境に合わせて、以下の設定を行ってください。

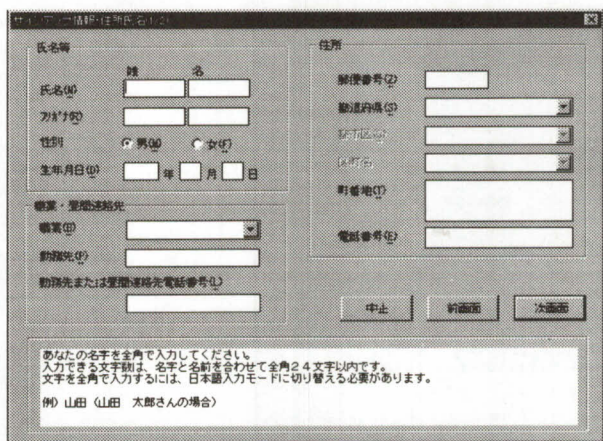
[回線の設定] ダイアログボックスの項目

項目		設定方法
[電話番号設定]	[センターの電話番号]	フリーダイヤルの電話番号が設定されていますので、変更しないでください。
	[内線の使用]	0発信の内線からご利用の場合には、[内線を使用する]の欄にチェックしてください。 ※ 0発信以外の内線発信の場合には、内線の欄をチェックせずに、センター番号欄で、「0120」の前に内線発信番号を追加してください。 例) 9発信の場合： 9,0120-00-9896
[通信設定]	[回線の形式]	トーンまたはパルスの中から、ご利用の電話回線に合わせて設定してください。
	[通信ポート]	使用するCOMポート番号を設定します。FAXモデム内蔵モデルの場合、本機購入時は「3」に設定されています。
[使用モデム]	[モデムの設定]	[モデム/通信ポート設定]ダイアログボックスが表示されます。 メーカー：FAXモデム内蔵モデルの場合は、「NEC」が設定されています。その他のモデルではリストから選択してください。 型名：FAXモデム内蔵モデルの場合は、「PC-9801N-J15」が設定されています。その他のモデルではリストから選択してください。
	[メーカー]	[モデム/通信ポート設定]で設定されている内容です。
	[型名]	[モデム/通信ポート設定]で設定されている内容です。



ご利用のモデムのメーカーがリスト中不在の場合は、メーカーを「ATモデム」に、型名を「汎用」にしておいてください（詳細はご利用のモデムのマニュアルをご覧ください）。

- ④すべての項目を入力したら[次画面]ボタンをクリックします。  
 [サインアップ情報・住所氏名(1/2)]ダイアログボックスが表示されます。



以下の内容を入力してください。漢字や全角文字を入力する際は日本語入力モードをオンにしてください。

[サインアップ情報・住所氏名 (1/2)] ダイアログボックスの項目

項 目		設定方法
[氏名等]	[氏名] [フリガナ] [性別] [生年月日]	漢字で入力してください。 半角カナ文字で入力してください。 該当する項目をクリックしてください。 半角文字で入力してください。
[職業・ 昼間連絡先]	[職業] [勤務先] [勤務先または昼間連絡 先電話番号]	[↓] ボタンを押し、一覧から選択してください。 漢字で入力してください。 半角文字で入力してください。 例) 03-1234-5678
[住所]	[郵便番号] [都道府県] [都市区]  [区町名]  [町番地] [電話番号]	半角文字で入力してください。 [↓] ボタンを押し、一覧から選択してください。 [↓] ボタンを押し、一覧から選択してください。 ※ 政令指定都市の場合は[市]は表示されません。[区]を選択してください。 [↓] ボタンを押し、一覧から選択してください ※ [都市区]で選択した都市によっては選択不要場合があります。 漢字で入力してください 半角文字で入力してください。 例) 03-1234-5678

⑤すべての項目を入力したら、[次画面]ボタンを押します。

[サインアップ情報・住所氏名(2/2)]ダイアログボックスが表示されます。

引き続き、以下の内容を入力してください。

[サインアップ情報・住所氏名 (2/2)] ダイアログボックスの項目

項 目		設定方法
[加入方法]	[利用明細書送付] [入会方法] [マニュアル] [月額料金の料金制]	該当する項目を選択してください。 [優待会員]を選択してください。 該当する項目を選択してください。 該当する項目を選択してください。
[機種情報]	[使用機種名] [通信速度]	[↓] ボタンを押し、[PC-9800 シリーズ]を選択してください。 [↓] ボタンを押し、一覧から選択してください。
[クレジットカード]	[カード種別] [カード番号] [有効期限] [名義人氏名]	[↓] ボタンを押し、一覧から選択してください。 半角文字で入力してください。 半角文字で入力してください。 漢字で入力してください。
[優待会員情報]	[ID] [パスワード]	添付の「PC-VAN ウェルカムキット」を参照し、半角文字で入力してください。 ※ 「入会方法」で [優待会員] を選択した方のみ入力します。 添付の「PC-VAN ウェルカムキット」を参照し、半角文字で入力してください。 ※ 「入会方法」で [優待会員] を選択した方のみ入力します。

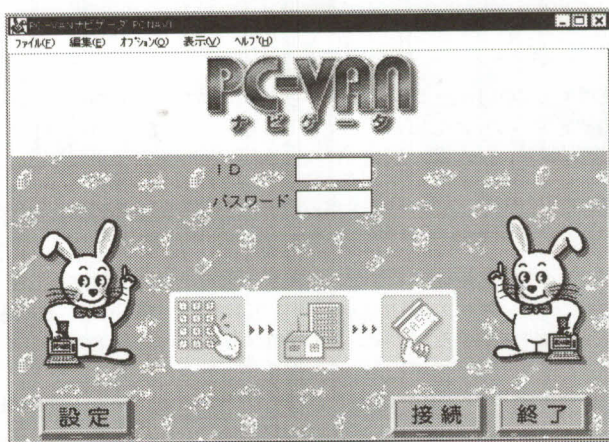
- ⑥[登録]ボタンを押します。
- ⑦「サインアップ処理を開始してよろしいですか?」という確認のメッセージが表示されますので、[はい]ボタンをクリックします。
- ⑧最後に、もう一度会員規約の同意を確認しますので、同意する場合は[はい]ボタンをクリックします。  
入力した個人情報を通信ソフトが自動的にPC-VANへ転送します。
- ⑨サインアップの最後に、あなたのIDと仮パスワードが表示されます。忘れないように、必ずメモしてください。
- ⑩IDとパスワードを確認後、[確認]ボタンをクリックすると、サインアップ処理が終了します。  
オンラインサインアップを行うと、PC-VANナビゲータのIDとパスワードの項目に、今表示されたIDと仮パスワードが自動的に登録されます。

## ■PC-VANを利用する

### ●PC-VANナビゲータの起動

[PC-VANナビゲータ]を起動して、PC-VANを利用します。

- ①[PC-VANナビゲータ]を起動します。  
[スタート]メニューの[プログラム]をポイントし、[コミュニケーション]から[PC-VANナビゲータ]をクリックします。

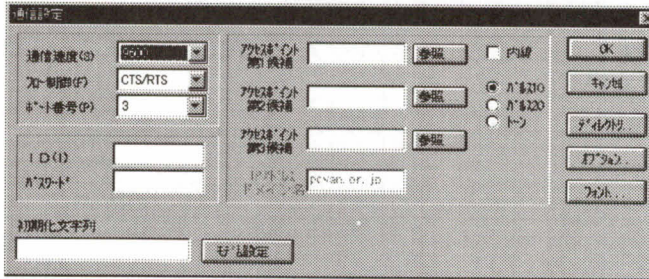


うまく起動しないときは、他のアプリケーションをすべて終了させてから再起動してください。

## ●PC-VANへの接続

パソコン通信を利用して、PC-VANに接続します。

- ①はじめてナビゲータを起動した場合は、[設定]ボタンを押してください。[通信設定]ダイアログボックスが表示されます。以下の項目をご自分の通信環境に合わせて設定してください。



[通信設定] ダイアログボックスの項目

項 目	設定方法
[通信速度]	右側の [↓] ボタンを押すと、通信速度のリストが表示されますので、この中から選択します。初期値は 9600bps に設定されています。ここで設定される通信速度はモデム-パソコン間の通信速度です。PC-VANのアクセスポイントの通信速度とは異なります。
[フロー制御]	右側の [↓] ボタンを押すと、フロー制御方法のリストが表示されますので、この中から選択します。初期値の「CTS/RTS」のままにしておいてください。
[ポート番号]	使用する COM ポート番号を指定します。FAX モデム内蔵モデルの場合は、初期値の「3」にしておいてください。TELNET 接続を行なう場合は、「TELNET」に設定します。
[ID、パスワード]	PC-VAN の ID とパスワードを入力します。ここで ID とパスワードを設定すると、初期画面の ID とパスワード欄に反映されます。
[アクセスポイント 第1候補～第3候補]	お近くの PC-VAN+ のアクセスポイントの電話番号の設定をしてください。 [参照] ボタンをクリックするとアクセスポイント選択画面が表示されますので、接続するアクセスポイントの [地区名] と [速度] を選択します。[アクセスポイント第1候補] は必ず指定してください。 内線使用 : 0 発信の内線からご利用の場合には、[内線] の欄にチェックしてください。 ダイヤルの種別 : パルス (10) / パルス (20) / トーンの中から、ご利用の電話回線に合わせて設定してください。
[IP アドレス/ドメイン名]	[ポート番号] で「TELNET」を指定した場合のみ入力できます。PC-VAN の IP アドレスまたはドメイン名を設定します。ドメイン名は「pcvan.or.jp」となります。
[初期化文字列]	初期化文字列を表示します。通常は、空白のままにしておいてください。

項 目	設定方法
[モデム設定]	<p>メーカー：FAXモデム内蔵モデルの場合は、「NEC」が設定されています。その他のモデルでは、リストから選択してください。</p> <p>型名：FAXモデム内蔵モデルの場合は、「PC-9801N-J15」が設定されています。その他のモデルでは、リストから選択してください。</p> <p>※ ご利用のモデムがリスト中不在の場合は、メーカーを「ATモデム」に、型名を「汎用」にしておき、必要に応じて「初期化文字列」を設定してください。</p> <p>初期化文字列を設定する場合は、先頭の「AT」は省略してください。</p>
[ディレクトリ]	<p>ログファイルやダウンロードファイル、アップロードファイルを格納するディレクトリを指定します。ディレクトリの設定方法は、次の2つがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入力欄に直接キーボードから入力する。</li> <li>・[参照] ボタンを押して、リスト中から選択する。</li> </ul>
[ログファイル]	<p>ログファイルを格納するディレクトリを指定します。「PC-VANナビゲータ」では、ログファイルが自動的に作成され、ディスクに保存されます。初期値は「A：¥PCNAVI」です。ログファイルのファイル名は、「PC-VANナビゲータ」を起動した日付となります。</p>
[ダウンロード]	<p>PC-VANからダウンロードするファイルを格納するディレクトリを指定します。JPEG画像をオンライン表示した後、保存するときも、ここで設定したディレクトリに保存されます。</p>
[アップロード]	<p>PC-VANへアップロードするファイルを格納するディレクトリを指定します。</p>
[オプション]	<p>他アプリケーションとの連動機能を使用するかどうかを選択します。</p>
[音声読み上げを利用する]	<p>音声読み上げ機能を使用するかどうかを選択します。使用する場合は、×マークを付けます。この機能を使用すると、メールの本文を音声で聞くことができます。</p> <p>※ 音声読み上げ機能は、「テキストリーダ」を使用します。</p>
[辞書引きを利用する]	<p>辞書引き機能を使用するかどうかを選択します。使用する場合は、×マークを付けます。この機能を使用すると、メールやニュースなどで英単語の意味が分からないときに、アプリケーションを切り替えることなく、辞書を引いて調べることができます。</p> <p>※ 辞書引き機能は「英日ちよっと辞書引き君」を使用します。FAXモデム内蔵モデル以外のモデルでは、別途購入する必要があります。辞書引き機能については、「英日ちよっと辞書引き君」のヘルプを参照してください。</p>
[翻訳機能を利用する]	<p>翻訳機能を使用するかどうかを選択します。使用する場合は、×マークを付けます。この機能を使用すると、メールやニュースなどで英語の内容が分からないときに、アプリケーションを切り替えることなく、翻訳することができます。</p> <p>※ 翻訳機能は「英日翻訳アダプタ」を使用します。FAXモデム内蔵モデル以外のモデルでは、別途購入する必要があります。翻訳機能については、「英日翻訳アダプタ」のヘルプを参照してください。</p> <p>※ 辞書引き機能と翻訳機能を同時に使用することはできません。辞書引き機能と翻訳機能を共に「使用する」に設定した場合は、辞書引き機能のみが利用可能となります。</p>

項 目	設定方法
[項目選択はダブルクリックにする]	項目の選択をダブルクリックにするかどうかを選択します。使用する場合は、×マークを付けてチェックします。この機能を使うと、項目の選択を「ダブルクリック」で行います。
[WWW 連携プログラムの指定]	PC-VANナビゲータ Ver1.51は、WWWブラウザとの連携機能を持っています。連携機能を使う場合は、連携させるWWWブラウザの実行ファイル名をフルパス名で指定します。この機能を使うと、PC-VANを通してインターネット上のホームページにアクセスすることができます。  ※ PC-VANナビゲータと連携させることのできるWWWブラウザは、連携機能を付加したブラウザのみです。
[CD信号を監視しない]	PC-VANナビゲータ動作中に、CD信号を監視するかどうかを選択します。監視しない場合は、×マークを付けてチェックします。
[フォント]	フォントを指定します。

- ②設定終了後、[通信設定]画面で[OK]ボタンをクリックしてください。
- ③[ID]、[パスワード]に自分の番号を入力した後、[接続]ボタンをクリックすると、[PC-VANナビゲータ]が自動的にPC-VANのセンターに電話をかけて、PC-VANサービスに接続します。画面が切り替わり、PC-VANからのお知らせが表示されます。
- [マップ]アイコンを選択してメニューを選んでいくことによってPC-VANの数多くのサービスを利用することができます。



PC-VANメインメニュー画面以降のメニューの選択方法については、[PC-VANナビゲータのヘルプ]を参照してください。

## 2.5 文章をパソコンに読ませる～テキストリーダ

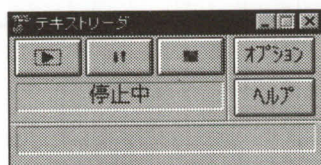
テキストリーダは、クリップボードにコピーされた文章(テキストデータ)を、音声で読み上げます。キーで入力した文章を、音声で読み上げて確認したい場合などに利用できます。

テキストリーダの操作方法については、次の通りです。

### ●文章(テキストデータ)を読み上げる

文章(テキストデータ)を読み上げます。

- ①文章(テキストデータ)を読み上げたいアプリケーション(たとえば[メモ帳]や[ワードパッド]など)を起動して、文章(テキストデータ)を表示しておきます。
- ②読み上げる範囲をマウスで選択して、[編集]メニューの[コピー]コマンドを選択します。  
クリップボードに文章(テキストデータ)が読み込まれます。
- ③[スタート]メニューの[プログラム]→[NECユースフルパック]から[テキストリーダ]をクリックし、タスクバーの[テキストリーダ]をクリックします。  
[テキストリーダ]が起動します。



- ④[▶]ボタンを押すと、マウスで選択した範囲の文章(テキストデータ)を[テキストリーダ]が読み上げます。



他のアプリケーションがオーディオデバイスを使用しているときには、読み上げはできません。

制御ボタンには次の機能があります。

- [▶] テキストデータの読み上げを開始します。
- [⏸] 読み上げを一時停止します。
- [■] 読み上げを停止します。次の読み上げ時は、テキストデータの最初から開始します。

## ●システム環境の設定を変更する

- ①[オプション]ボタンを押すと、オプションの設定画面が表示されます。  
設定する項目については、次の通りです。

設定	辞書	システム	ボリューム
話者 <input checked="" type="radio"/> 男性 <input type="radio"/> 女性	数字 <input checked="" type="radio"/> 桁読み <input type="radio"/> 棒読み	記号 <input checked="" type="radio"/> 読む <input type="radio"/> 読まない	OK
テンポ： 遅い 速い	アルファベット <input type="checkbox"/> 大/小文字を区別する	区切りモード <input checked="" type="radio"/> 句点 <input type="radio"/> 句読点 <input type="radio"/> リターン <input type="radio"/> 句読点とリターン	キャンセル
ピッチ： 低い 高い			ヘルプ(H)
アクセント： 弱い 強い			テスト(T)

### [設定] ボタンの項目

項 目	内 容
[話者]	読み上げ時の声を男性にするか女性にするかを選択します。
[テンポ/ピッチ/アクセント]	読み上げる速度(テンポ)、声の高さ(ピッチ)、抑揚の強弱(アクセント)を、スライダを操作して調整します。
[数字]	桁読み(「123」を「ひやくにじゅうさん」と読む)か、棒読み(「123」を「いちにさん」と読む)かを選択します。
[記号]	記号を読むか読まないかを設定します。
[アルファベット]	チェックしておく、大文字と小文字を区別して読み上げます。
[区切りモード]	読みの区切りを設定します。最初は、「句点」の箇所ですべて区切って読む設定になっています。

さらに画面上部のボタンをクリックすると、次の設定ができます。詳しくは各画面で[ヘルプ]ボタンをクリックして、ヘルプを参照してください。

項 目	内 容
[辞書]	ユーザー辞書の新規作成や登録ができます。
[システム]	音声出力モードやテキストリーダーを常に前面に表示させるかどうかの設定ができます。
[ボリューム]	ボリュームコントロールが表示されます。

## 2.6 文章を英文にする～日英辞書引き君(単文変換版)

日英辞書引き君(単文変換版)(以降、日英辞書引き君)を使うと、日本語を入力する操作と同じ感覚で、日本語を英語に変換したり、CD-ROM辞書で、変換した英単語の意味を調べたりすることができます。

日英辞書引き君では以下のことができます。

- ・ 単語を辞書引きする
- ・ 日本語の文を英文に変換する
- ・ CD-ROM辞書の検索

ここでは、日本語の文を英文に変換する方法について説明します。



日英辞書引き君の詳しい使用法や設定方法については、日英辞書引き君のヘルプを参照してください。

### ●日本語の文を英文に変換する

#### ① [日英辞書引き君] を起動します。

[スタート]メニューの[プログラム]をポイントし、[NECユースフルパック]から[日英辞書引き君(単文変換版)]をクリックします。

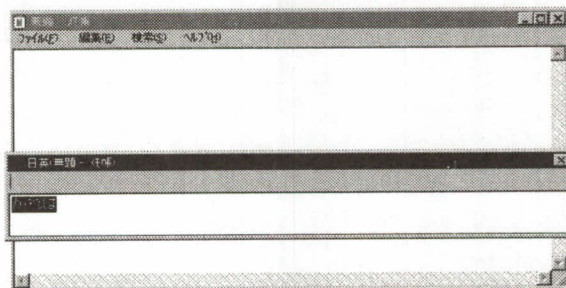
使用方法を説明した画面と、以下のボタンが表示されます。使用方法の画面を終了するには[閉じる]ボタンをクリックしてください。




#### ② [CTRL]+[XFER]キーを押すなどして、日本語入力モードをオンにします。

#### ③ 文章を作成するエディタやワープロを起動します。

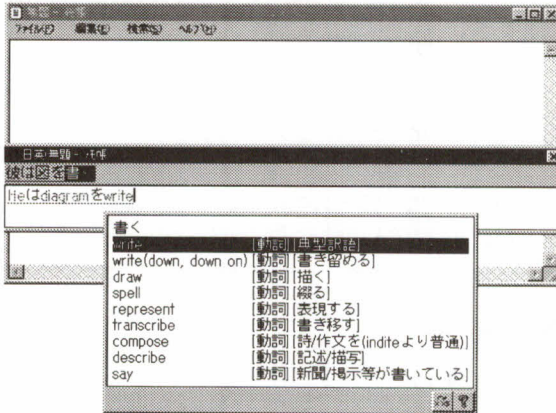
#### ④ 日本語を入力すると自動的に[日英辞書引き君]の変換ウィンドウが表示されます。




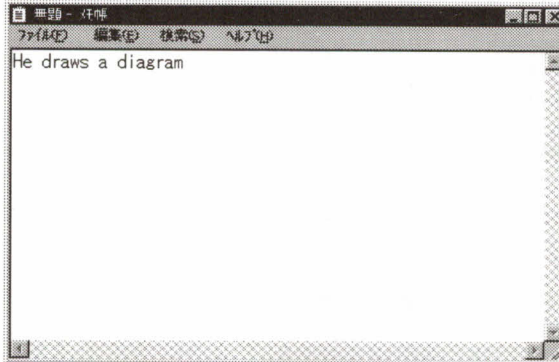



Windows 3.1用のかな漢字変換を使用している場合は、 ボタンをクリックして、[日英辞書引き君]の変換ウィンドウを表示してください。

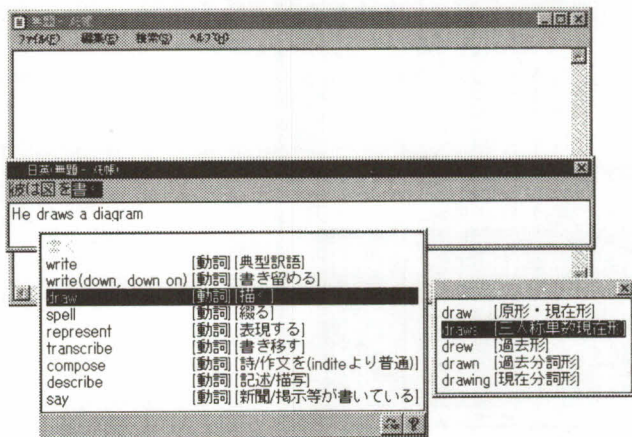
- ⑤ かな漢字変換を確定すると日英の単語変換が行われ、日英混じり文が表示されます。




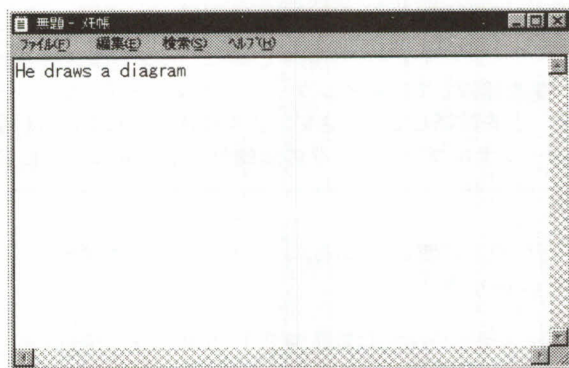
- ⑥  ([英文変換]ボタン)をクリックすると、英語の語順に変換されます。



- ⑦ ←キーを押して、各単語の後ろにカーソルが移動すると、それぞれの単語の別の訳語候補が表示されます。また、この状態で  ([活用変更]ボタン) をクリックするとその単語の活用が表示されますので、マウスでクリックして活用を指定します。



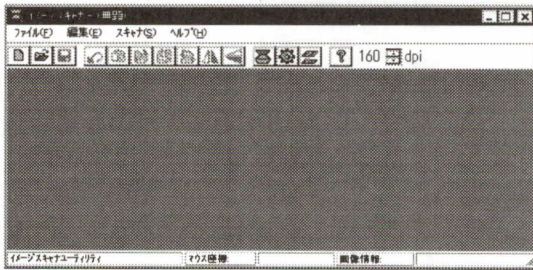
- ⑧  ([確定]ボタン) をクリックすると変換結果が元のエディタやワープロに取り込まれます。



## 2.7 イメージスキャナ ユーティリティを使う

イメージスキャナ ユーティリティは、イメージスキャナから画像を読み込んでデータにし、その画像データを編集するユーティリティです。

[イメージスキャナユーティリティ]を起動するには、[スタート]メニューの[プログラム]をポイントし、[NECユースフルパック]の[イメージスキャナユーティリティ]をクリックします。



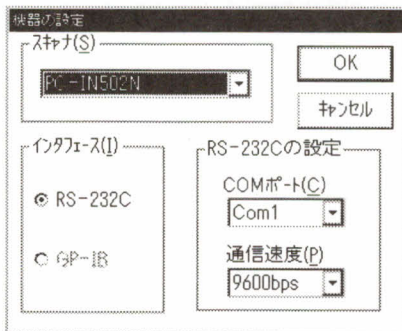
### ■機器の設定をする



イメージスキャナ ユーティリティを使用する前に、イメージスキャナとパーソナルコンピュータを接続しているインターフェイスボードとケーブルが正常に接続されていることを確認してください。正常に接続されていない場合は、正常に接続後、パーソナルコンピュータの起動からやり直してください。

イメージスキャナ ユーティリティをお使いになる前に、お使いのイメージスキャナにあわせて設定を変更する必要があります。

- ・ 機器の設定は [スキャナ] メニューの [機器設定] コマンドで行います。



詳しくはイメージスキャナユーティリティのヘルプを参照してください。  
イメージスキャナの設定は、お使いの機器によって次の2つの設定方法に分けることができます。

機 器	インターフェイス
PC-IN502、PC-IN503G、PC-IN505、PC-IN506、 PC-IN500/4C、PC-IN500/6	RS-232C または GP-IB
PC-IN700/4C、PC-IN700/6C、その他のTWAINを サポートしているスキャナ	TWAIN ドライバでインターフェイスを 設定（設定方法については、ご使用のイ メージスキャナに添付されているマニ ュアルを参照してください）。



モード2の設定方法については、各イメージスキャナに添付されているマニュアルを参照してください。また、イメージスキャナによっては使用できないインターフェイスがあります。

設定の際には、イメージスキャナユーティリティのヘルプの記載事項の他に、次のことに注意してください。

## ● シリアルまたはGP-IBのインターフェイスで使うスキャナの場合の注意

### ・ RS-232Cを使用する場合の注意

- ・ 本機のシリアルコネクタにRS-232Cストレートケーブルでイメージスキャナを接続してください。
- ・ イメージスキャナユーティリティでは、ストップビット1ビットで9600bps、19200bps、イメージスキャナと通信します。
- ・ イメージスキャナ側の設定も、イメージスキャナのマニュアルを参照の上、この設定にあわせてください。
- ・ COMポートは通常「COM1」に設定されています。



- ・ イメージスキャナ側の通信速度の設定方法については、各イメージスキャナに添付されているマニュアルを参照してください。
- ・ 19200bpsで通信中にリードエラー(読み込み不可)が多発する場合は、通信速度を遅くしてください。

## ・ GP-IBを使用する場合の注意

- ・ イメージスキャナとの接続には、GP-IBインターフェイスボード(PC-9801-29N)が必要になります。
- ・ [コントロールパネル]ウィンドウの[システム]の[デバイスマネージャ]を使用して、GP-IBインターフェイスボードで設定しているINT/ROMアドレスが他の機器で使用されていないかどうか確認してください。イメージスキャナ側のGP-IB機器番号は、通常「2」で設定されています。



Windows 95用イメージスキャナ ユーティリティでは、PC-IN503G、PC-IN505、PC-IN500/4C、PC-IN500/6ではSCSIを使用した読み取りはできません。

## ● TWAINをサポートしているスキャナをご使用の場合の注意

イメージスキャナ ユーティリティでは、Windows 95対応の32bit TWAINドライバが提供されているイメージスキャナであれば、使用することができます。

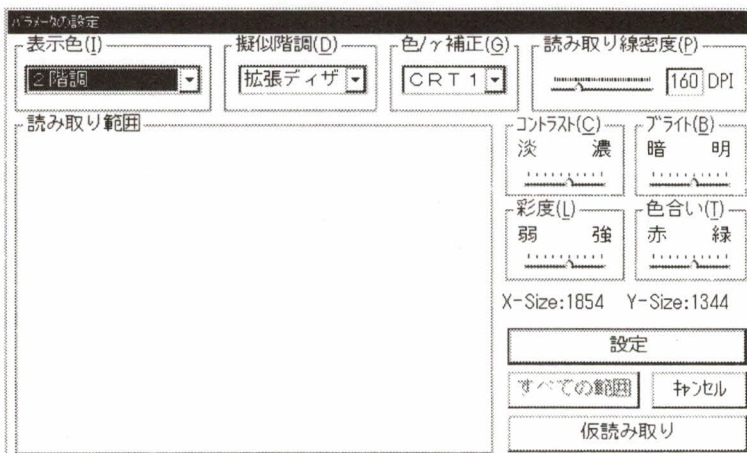


「カラーイメージユーティリティ」または「イメージスキャナ ユーティリティ」がインストールされた状態では、「PC-IN700シリーズ用TWAIN32ドライバ」がインストールされています。このドライバは、PC-IN700/4C、6Cシリーズのイメージスキャナを使用する際に必要なドライバですが、本ドライバの使用時には仮読み込み中およびズーム中の中止はできません。

## ■ 読み込む画像の設定を変更する

スキャナで読み込みの作業を行うとき読み込む前に、画像データをどう読み込むかを設定する必要があります。

[スキャナ]メニューの[パラメータ設定]コマンドを選択すると、[パラメータの設定]ダイアログボックスが表示され、画像データの読み込み方法を設定できます。



詳細については、イメージスキャナ ユーティリティのヘルプを参照してください。



これらの項目はイメージスキャナによっては無効なものや、設定できない項目があります。詳細については、イメージスキャナのマニュアルを参照してください。

## ■画像を読み込んで編集する



イメージスキャナの読み取りの基本手順については、イメージスキャナのマニュアルを参照してください。ここでは、読み取る原稿(画像イメージ)がすでにイメージスキャナにセットされ、イメージスキャナの電源がONであることを前提にしています。

画像データは、基本的には次のような手順で読み込んで編集していきます。

### ●画像データの読み込み

- ①[スキャナ]メニューの[読み取り]コマンドを選択します。設定したイメージスキャナおよびインターフェイスを使用します。[パラメータの設定]ダイアログボックスが表示されます。
- ②画像データを読み込む場合は、[仮読み取り]ボタンを押してください。全画面を一度読み込みます。仮読み込みを行うと、ボタンが[範囲指定の仮読み取り]ボタンに変わります。
- ③読み込む範囲を指定できるようになりますので、全範囲の中から必要な部分だけマウスで範囲を指定して、[範囲指定の仮読み取り]ボタンを押してください。読み込み中に表示されるダイアログボックスで[中止]ボタンを押すと、仮読み込みを中止します。
- ④仮読み込み時の設定で読み込んだ画像データが十分でなかった場合、読み込み条件(表示色、疑似階調、読み取り線密度等)を再度設定し直し、[設定]ボタンを押してください。
- ⑤[スキャナ]メニューの[読み取り]コマンドを選択し、読み込みを開始します。読み込み中に表示されるダイアログボックスで、[中止]ボタンを押すと、読み込みを中止します。



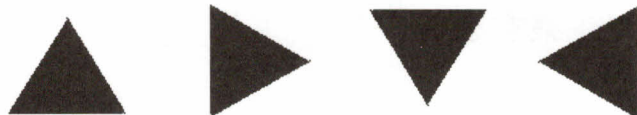
読み込みを中止する場合、イメージスキャナ側のストップボタンでは中止することはできません。また、GP-1Bでは読み込み中は中止することはできません。

## ●画像データを編集する

イメージスキャナユーティリティでは、ウィンドウ内に表示されている画像データを回転させたり反転させたりすることができます。



この部分のボタンを使うと簡単に編集が可能です



画像データ回転前 右90°回転後 180°回転後 左90°回転後



画像データ反転前 左右反転後 上下反転後

また、行った編集を取り消したければ、[編集]—[元に戻す]コマンドで実行直前の画像データを元に戻すこともできます。元に戻せるのは直前に行った作業だけです。

## ●読み込んだ画像データをほかのアプリケーションに貼り付ける

イメージスキャナユーティリティで読み込まれた画像データは、クリップボードにコピーして、ほかのアプリケーションに貼り付けることもできます。

- ①貼り付けたい範囲をマウスでドラッグして指定します。指定した範囲が四角形の枠で囲まれます。
- ②[編集]メニューの[コピー]を選びます。範囲指定を行っていない場合は画像全体が選択されます。



・この方法ではクリップボードにデータがコピーされています。クリップボードにコピーされた画像データについては、Windowsの[クリップボードビューア]を起動して確認してください。

- ③他のアプリケーションの画像データを貼り付けたい場所を指定して、[編集]メニューの[貼り付け]コマンドを選択します。画像データが他のアプリケーションに貼り付けられます。

## ●読み込んだ画像データを保存する

イメージスキャナで読み込んだ画像データを新規に保存します。

- ①[ファイル]メニューの[名前を付けて保存]コマンドを選択します。[ファイル名を付けて保存]ダイアログボックスが表示されます。
- ②読み込んだデータを保存する[ドライブ]、[ディレクトリ]、[ファイル名]、[ファイルの種類]を設定します。
- ③画像ファイルの形式を(\*.BMP、\*.RLE、\*.TIF、\*.IMF)から選択してください。それぞれのデータ形式の違いと特長はイメージスキャナ ユーティリティのヘルプを参照してください。
- ④[OK]ボタンを押してください。

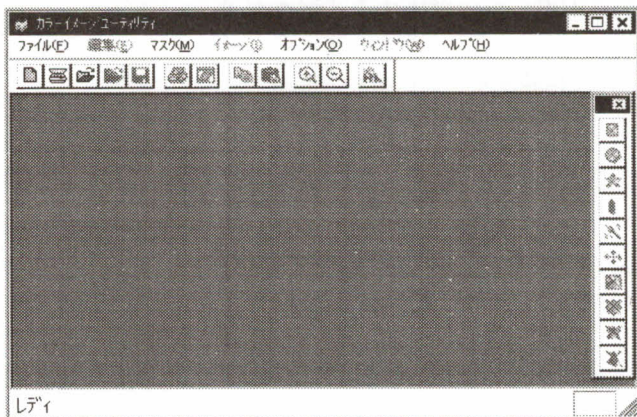
## ■イメージスキャナ ユーティリティの注意事項

- ・ PFF形式(Windows 2.Xに付属している[ペイント]で利用できるファイルの形式)のファイルは、[ペイント]との互換性のために存在しており、Windows 95ではBMP形式が一般的に利用されています。
- ・ IMFF形式(イメージスキャナ ユーティリティ専用のファイル形式)で保管されたカラー画像は、保管時にモノクロデータとなります。IMFF形式のファイルは、従来の[イメージスキャナユーティリティ]との互換性のために存在しており、Windows 95ではBMP形式が一般的に利用されています。
- ・ GP-IBを使用してデータを読み取る場合、[中止]ボタンを使用して読み取りを中断することはできません。また、ROMアドレスD4000-D5FFFの領域がほかのデバイスに使用されていないことを[デバイスマネージャ]で確認してください。

## 2.8 カラーイメージユーティリティを使う

カラーイメージユーティリティでは、イメージスキャナから画像を読み込んでデータ化し、そのデータやPhoto CDなどから読み込んだ写真などのイメージデータを編集するユーティリティです。

[スタート]メニューの[プログラム]をポイントして、[NECユースフルパック]の[カラーイメージユーティリティ]をクリックして起動します。



カラーイメージユーティリティは、イメージスキャナユーティリティよりもさらに高度な編集をすることができます。

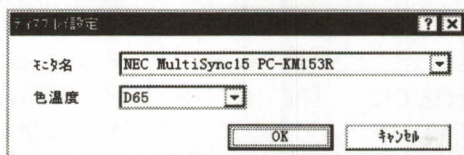
- ・ビットマップ形式、TIFF形式、JPEG形式、Photo CD形式ファイルを読み込むことができます。
- ・高品質のフルカラー(1600万色)画像を扱えます。
- ・コントラスト、彩度、シャープネスを自動調整し、最適表示します。
- ・矩形、楕円、ポリゴン(多角形)、ペン、色によって自由にマスク(指定領域)を作成できます。
- ・マスクで囲まれた特定の色を別の自由な色に変更できます。
- ・OLE 2.0に対応していますので、OLE機能を備えたアプリケーションに画像を貼り付けることもできます。



Windows 95の[ワードパッド]または[ペイント]が削除されていると、[カラーイメージユーティリティ]の起動時に「mfcans32.dllファイルが見つかりません」という内容のエラーメッセージが表示されることがあります。その場合は、[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]でWindows 95の[ワードパッド]、[ペイント]のどちらかをインストールしてください。

## ■ディスプレイの設定

イメージデータを高画質で表示するためには、お使いのディスプレイにあわせてカラーイメージユーティリティのディスプレイ設定の変更が必要です。  
ディスプレイの設定は、[オプション]メニューの[ディスプレイ設定]で行います。



詳しくは、カラーイメージユーティリティのヘルプを参照してください。



色温度がD65またはD50の場合、お使いのディスプレイによっては、画像が全体的にピンク色がかって表示される場合があります。  
この場合は、色温度を「モニタ依存白色」に設定してください。

## ■イメージデータを編集する

イメージスキャナからもデータを読み込むことができますが、ここでは市販されているPhoto CDサンプラーを使用して、Photo CDに書き込まれているイメージデータを読み込んで編集してみます。  
詳しくはカラーイメージユーティリティのヘルプを参照してください。

- ①CD-ROMドライブに、Photo CDサンプラーのCD-ROMを挿入します。
- ②[ファイル]メニューの[開く]コマンドを選択します。[開く]ダイアログボックスが表示されます。
- ③[ファイルの場所]と[ファイル名]を選択した後、[開く]ボタンを押します。Photo CDが読み込まれて[カラーイメージユーティリティ]ウィンドウにイメージデータが表示されます。
- ④[イメージ]メニューの[自動高画質化]コマンドを選択します。イメージデータが変更されて、以前より自然に見えるようになります。  
この他にもカラーイメージユーティリティにはさまざまな編集機能がついていますので、同様にしてイメージデータの加工を行ってください。
- ⑤[ファイル]メニューの[名前を付けて保存]コマンドを選択します。[名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示されます。  
[保存する場所]を選択し、[ファイル名]を入力した後、[ファイルの種類]で保存するファイルの形式 (BMP、TIFF、JPG) を選択して、[保存]ボタンを押します。  
保存できるデータ形式について、詳しくはカラーイメージユーティリティのヘルプを参照してください。

## ■カラーイメージユーティリティの注意事項

- ・イメージスキャナで読み込む場合は、TWAIN32対応のイメージスキャナドライバが必要です(16ビットのTWAINドライバでの読み込みはサポートしていません)。ドライバの入手方法については、各スキャナの発売元にお問い合わせください。また、設定方法については、イメージスキャナに添付されているマニュアルを参照してください。
- ・「カラーイメージユーティリティ」または「イメージスキャナ ユーティリティ」がインストールされた状態では、「PC-IN700シリーズ用TWAIN32ドライバ」がインストールされています。このドライバは、PC-IN700/4C,6Cシリーズのイメージスキャナを使用する際に必要なドライバですが、本ドライバの使用時には仮読み込み中およびズーム中の中止はできません。
- ・NEC製フルカラーイメージスキャナ(PC-IN700/4C、PC-IN700/6C)をご使用の場合、読み取り時のパラメータ設定で、[色/γ補正]、[コントラスト]、[ブライト]、[彩度]、[色合い]の各設定値は、既定値で読み取りした場合に限って自動的に最適化して画像を表示します。
- ・圧縮形式の種類によっては、読み込めないビットマップファイルがあります。
- ・圧縮形式およびマスクを考慮したTIFFファイルは読み込むことはできません。
- ・CMYK形式のJPEGファイルを読み込むことはできません。
- ・Photo CD形式の読み込みでは、Baseサイズ(512×768)以外のファイルは読み込むことはできません。
- ・8ビットモノクロまたは24ビットRGBフルカラー以外のJPEGファイルは読み込むことはできません。
- ・PC-PR820/3のプリンタドライバによっては、独自の色変換が行えない場合があります。

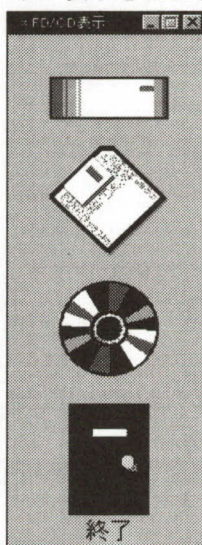
## 2.9 ディスクの内容を見る～FD/CD表示

FD/CD表示では、フロッピーディスクやCD-ROMなどの内容を見たい場合、初めて使用する方でも簡単にディスクの内容を表示できます。また、表示されているファイルを作成したアプリケーションで起動したい場合も、クリックするだけで簡単に起動できます。

### ■FD/CD表示を利用する





FD/CD表示を起動してディスクの内容を表示します。

- ①[スタート]メニューの[プログラム]－[NECユースフルパック]から[FD/CD表示]をクリックし、タスクバーの[FD/CD表示]をクリックします。[FD/CD表示]ウィンドウが表示されます。



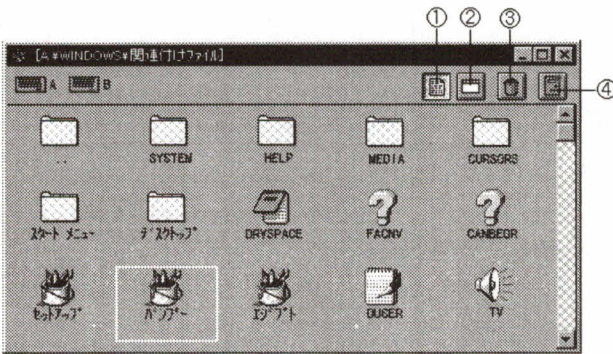
PC-9821Nb10/5をお使いの場合、購入時の状態ではCD-ROMアイコンは表示されません。CD-ROMドライブを接続すると表示されます。

[FD/CD表示] ウィンドウに表示されるアイコン

アイコン	内容
	ハードディスクの内容を表示します。
	フロッピーディスクの内容を表示します。
	CD-ROMの内容を表示します。
 終了	[FD/CD表示]を終了します。

②[FD/CD表示]ウィンドウの各アイコンをクリックすると、ディスクの内容が表示されます。

CD-ROMの場合は、CD-ROMをドライブに挿入すると、自動的に内容が表示されます。



(お使用の環境により、画面の内容は多少異なります)

- ①[関連付けファイル]ボタン……………Windows 95に関連付けられたファイルを表示します。
- ②[プログラムファイル]ボタン……………プログラムファイルを表示します。
- ③[関連付けファイル削除]ボタン……………関連付けファイルを削除できます。
- ④[閉じる]ボタン……………ドライブ内容の表示を終了します。









注意

- ・フロッピーディスクドライブが2台以上接続されている場合、3台目以降のフロッピーディスクドライブの内容は表示されません。
- ・再生用のプログラム(98プレーヤなど)が自動起動するCD-ROMでは、CD-ROMの内容を自動的に表示することはできません。



注意

- ・フロッピーディスクドライブ1台と光磁気ディスク装置(MO)が接続されている場合、光ディスクの内容は、2つ目の[フロッピーディスク]アイコンで表示されます。
- ・PCカードの内容を表示するには、Windowsの[エクスプローラ]を利用してください。
- ・表示されるアイコンは、Windows 95に関連づけられたファイルのアイコンだけです。
- ・長いファイル名のファイルのアイコンは、省略して(...)表示されます。
- ・[関連付けファイル削除]ボタンで削除したファイルは、Windowsの[ゴミ箱]には入りません。

主なアイコン	内容
	上位層のフォルダの内容を表示します。
.. 	下位のフォルダの内容を表示します。
	ビットマップ形式のファイルです。左クリックすると [ペイント] が起動し、ファイルの内容を加工・修正できます。
	テキスト形式のファイルです。左クリックすると [メモ帳] が起動し、ファイルの内容を加工・修正できます。
	ワードパッドで作成した文書ファイルです。左クリックすると [ワードパッド] が起動し、ファイルの内容を加工・修正できます。
	アプリケーションの操作方法などを説明しているヘルプファイルです。左クリックするとヘルプの内容が表示されます。



[FD/CD表示]ウィンドウに表示されるWindows 95に関連づけられたファイルのアイコンには、サウンドデータ(\*.WAV)やビデオデータ(\*.AVI)などもあります。

## ●アプリケーションの実行

- ① ディスクの内容を表示しているウィンドウで、[プログラムファイル]ボタンをクリックします。[プログラムファイル表示]ウィンドウに変わり、それぞれの[アプリケーション起動]アイコンが表示されます。



(お使用の環境により、画面の内容は多少異なります)

- ② 起動する[アプリケーション起動]アイコンをクリックします。選択したアプリケーションが起動します。



FD/CD表示では、ルートディレクトリにセットアッププログラムを持つCD-ROMをCD-ROMドライブにセットすると自動的にセットアッププログラムを検出し、実行する機能を持っています。

## 2.10 オーディオCD/ビデオCD/フォトCDを再生する ～98プレーヤ

オーディオCD、ビデオCD(カラオケCD)やフォトCDに対応した再生用のアプリケーションが起動します。

### ●CDの規格

98プレーヤが対応しているCDの規格は次のとおりです。規格外のCDは再生できない場合があります。

- ・オーディオCD
- ・ビデオCD(Ver1.1)/カラオケCD(Ver1.1)
- ・ビデオCD(Ver2.0)
- ・フォトCD
- ・フォトCDポートフォリオ

### ■CDを再生する

[スタート]メニューの[プログラム]-[アクセサリ]-[マルチメディア]をポイントして、[98プレーヤ]をクリックするとCDの種類に応じて、次のような画面が表示されます。

### ●オーディオCDの場合

総トラック数と総演奏時間が表示されています。

ボタンの操作方法については、後述する「■オーディオCDを聴く」をご覧ください。



## ●ビデオCD(カラオケCD)の場合

総トラック数が表示されます。

ボタンの操作方法については、後述の「■ビデオCD(カラオケCD)を見る」をご覧ください。



プレイバックコントロール機能付きのビデオCDの場合は、プレイバックコントロールウィンドウも表示されます。詳しくは、「■ビデオCD(カラオケCD)を見る」をご覧ください。

## ●フォトCDの場合

1枚目の写真が表示されます。

ボタンの操作方法については、「■フォトCDを見る」をご覧ください。



## ■オーディオCDを聴く

オーディオCD再生時のボタン操作について説明します。

[Option]をクリックすると、98プレーヤの下に、拡張ボタンが表示されます。



### ●基本的な使い方

#### ・再生/一時停止

[▶]ボタン

[||]ボタン

- ・クリックすると、再生が始まります([||]に変わる)。
- ・クリックすると、一時停止します([▶]に変わる)。
- 再度[▶]をクリックすると、一時停止した場所から再生します。

#### ・停止

[■]ボタン

- ・クリックすると再生を停止、または一時停止状態を解除します。



[■]ボタンで停止させた後[▶]をクリックすると先頭の曲に戻って再生を始めます。

#### ・巻き戻し／早送り

[◀◀]ボタン

・再生中、または一時停止中にクリックし続けると巻き戻し、ボタンを離すと再生します。

[▶▶]ボタン

・再生中、または一時停止中にクリックし続けると早送り、ボタンを離すと再生します。



画面の時間表示が変化します。ボタンを離すとそのとき表示されている時間から再生を開始します。

#### ・曲の頭出し

[◀]ボタン

・再生中、または一時停止中にクリックすると、再生中の曲の先頭に戻って再生します。

・再生中、または一時停止中に連続してクリックすると、一曲ずつ再生する曲番号が戻ります。

・停止中に連続してクリックすると、クリックした数だけ戻って再生します。

[▶]ボタン

・再生中、または一時停止中にクリックすると、再生中の次の曲から再生します。

・再生中、または一時停止中に連続してクリックすると、一曲ずつ曲番号が先に進んで再生します。

#### ・CD-ROMトレイのイジェクト

[▲]ボタン

・停止中にクリックするとトレイがイジェクトされ、再度クリックするとトレイが収納されます(本機では使用できません)。



イジェクト機能は、CD-ROMドライブによっては使用できない場合があります。

#### ・98プレーヤの終了

[Exit]ボタン

・クリックすると、終了します。






### ●[Option]ボタンの使い方

#### ・リピート[↺]ボタン

クリックするたびに、リピート再生モードが1曲のみ、全曲へと切り替わり、インジケータが表示されます。

#### ・演奏時間表示切り替え[⌚]ボタン

クリックするたびに、表示ディスプレイ部分の時間表示が、現在のトラック内の演奏経過時間が残り演奏時間に切り替わります。

- ・[Program]ボタン  
再生順序を指定できます。詳しくは、「オーディオCD/ビデオCDの再生順序を指定する」をご覧ください。
- ・ミュート[]ボタン  
左右の音声出力を同時にOFFします。音声出力が左右ともOFFの場合に、このボタンをクリックすると、左右同時にONになります。  
ただし、CDの再生中は使用できません。
- ・音声チャンネル[][]ボタン  
[]ボタンは、左チャンネル、[]ボタンは右チャンネルの音声出力のON/OFFを切り替えます。
- ・[状態設定]ボタン  
[自動再生]チェックボックスを選択すると、98プレーヤの起動時に自動的に再生が始まります。



[元の画像サイズで表示]ボタンと[カラオケ一覧表示]ボタンは利用できません。

## ■ビデオCD(カラオケCD)を見る

ビデオCD再生時のボタン操作について説明します。  
[Option]をクリックすると、98プレーヤの下に、拡張ボタンが表示されます。



### ●基本的な使い方

基本的な操作は、オーディオCDとほとんど同じです。  
前述の「■オーディオCDを聴く」の「●基本的な使い方」をご覧ください。



- ・ビデオCDの再生中にウィンドウサイズをひんばんに変更すると、ビデオの表示が乱れることがあります。このようなときは、98プレーヤをいったん終了させて再起動すると、表示が正常に戻ります。
- ・プレイバックコントロール機能に対応したビデオCDの再生時には、頭出し機能は利用できません。

## ●[Option]ボタンの使い方

### ・リピート[]ボタン

クリックするたびに、リピート再生モードが1プログラムのみ、全プログラムへと切り替わり、インジケータが表示されます。



### ・[Program]ボタン

再生順序を指定できます。詳しくは、「オーディオCD/ビデオCDの再生順序を指定する」をご覧ください。




### ・ミュート[]ボタン

左右の音声出力を同時にOFFします。音声出力が左右ともOFFの場合に、このボタンをクリックすると、左右同時にONになります。

### ・音声チャンネル[][]ボタン

[]ボタンは、左チャンネル、[]ボタンは右チャンネルの音声出力のON/OFFを切り替えます。



カラオケCDでは、カラオケ演奏とボーカル音声は、左右どちらかのチャンネルに分かれて録音されています。ボーカル音声を消すときは、左右どちらか、ボーカル音声録音されているチャンネルの音声を消す必要があります。左右どちらかの音声を消すときは、[]または[]をクリックします。また、[]をクリックすると、両方の音声を消すことができます。

### ・[元の画像サイズで表示]ボタン

ビデオCDの再生時に、ウィンドウのサイズを起動時のサイズに戻します。

### ・[カラオケー覧表示]ボタン

カラオケCDの曲目が一覧表示されます。再生した曲目をクリックし、さらに[演奏]ボタンをクリックすると、すぐに再生が始まります。

### ・[状態設定]ボタン

[自動再生]チェックボックスを選択すると、98プレーヤの起動時に自動的に再生が始まります。

[画像再生時にスクリーンセーバを起動しない]チェックボックスを選択すると、ビデオCDの再生時にスクリーンセーバを起動させないようにします。













・[演奏時間表示切り替え]ボタンは、利用できません。

・プレイバックコントロール機能を用いて独自のメニュー表示を行っているカラオケCDでは、[カラオケー覧表示]ボタン、[リピート]ボタン、および[Program]ボタンは利用できません。

## ●プレイバックコントロールの使い方

プレイバックコントロール機能付きのビデオCDの再生時には、98プレーヤとともにプレイバックコントロールウィンドウが表示されます。



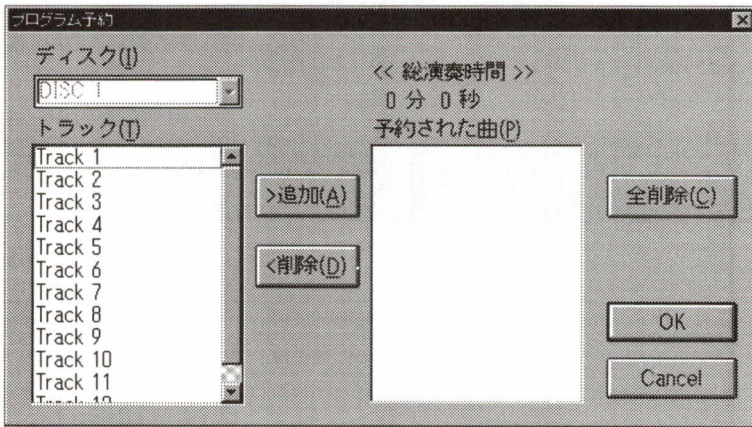
- ・  ボタン  
画面を表示します。
- ・  ボタン  
前画面に戻ります。
- ・  ボタン  
次画面に進みます。
- ・  ボタン  
メニュー画面に戻ります。
- ・  ボタン  
数値を選択するときに使います。  
 の数字ボタンで番号を決定して  ボタンをクリックすると、画面を表示します。
- ・  ボタン  
プレイバックコントロールウィンドウをアイコン化します。
- ・     
番号表示部分をクリックすると、数字ボタンで選択された番号をキャンセルします。



各ボタンの機能は、CD-ROMにより多少異なっていますので、CD-ROM添付の説明書を参照してください。

## ■オーディオCD／ビデオCDの再生順序を指定する

- ①98プレーヤの[Option]ボタンをクリックします。  
98プレーヤの下に拡張ボタンが表示されます。
- ②[Program]ボタンをクリックします。  
[プログラム予約]ダイアログボックスが表示されます。



- ・プログラムの再生中と一時停止中は、[Program]ボタンは使用できません。
- ・プレイバックコントロール機能に対応したビデオCDでは利用できません。

③[トラック]の一覧に表示されているプログラムのどれかをクリックし、[追加]ボタンをクリックします。

[予約した曲]へ、選択したプログラムが登録されます。



予約済みのプログラムを解除するときは、[予約された曲]の一覧から解除したい曲を選択し、[削除]ボタンをクリックします。また、すべての予約を解除するときは、[全削除]ボタンをクリックします。

④[OK]ボタンをクリックします。

予約内容を設定しない場合は[Cancel]ボタンをクリックします。

⑤98プレーヤの[▶]ボタンをクリックします。

登録した順序で再生を始めます。

## ■フォトCDを見る

フォトCD再生時のボタン操作について説明します。

[Option]をクリックすると、98プレーヤの下に拡張ボタンが表示されます。



## ●基本的な使い方

### ・自動表示/停止

- [▶]ボタン クリックすると、自動表示を行います。  
 [■]ボタン クリックすると、自動表示を停止します。

### ・表示

- [◀◀]ボタン クリックする、巻き戻します(ポートフォリオの再生時のみ)。  
 [▶▶]ボタン クリックする、早送りします(ポートフォリオの再生時のみ)。  
 [◀]ボタン クリックすると、1つ前の写真に戻ります。  
 [▶]ボタン クリックすると、次の写真を表示します。

### ・CD-ROMトレイのイジェクト

- [▲]ボタン 停止中にクリックすると、トレイがイジェクトされ、再度クリックするとトレイが収納されます(本機では使用できません)。



イジェクト機能は、CD-ROMドライブによっては使用できない場合があります。

### ・98プレーヤの終了

- [Exit]ボタン 98プレーヤを終了します。

## ●[Option]ボタンの使い方

### ・[Open]ボタン

フォトCDに記録されている写真のファイル名一覧を表示します。表示したいフォトCDのファイル名を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

### ・[List]ボタン

フォトCDに記録されている写真を縮小一覧表示します。写真をクリックすると、拡大表示します。

### ・[Size]ボタン

クリックすると、[PhotoCD画面サイズの設定]ダイアログボックスが表示されます。画面サイズを指定できます。

### ・[Color]ボタン

クリックすると、[表示色数の設定]ダイアログボックスが表示されます。表示色数を指定できます。

### ・[copy]ボタン

クリックすると、表示されている写真をクリップボードビューアへコピーします。



[Copy]ボタンをクリックするたびに、新しい写真データがクリップボードに上書きされ、前にコピーしたデータは消えてしまいます。コピーしたデータは次のコピーを行う前に必ず保存してください。

・[Save]ボタン

クリックすると、[ファイル名を指定する]ダイアログボックスが表示されます。ファイル名を指定して、写真をビットマップ形式のファイル(BMP)として保存できます。

・[Extension]ボタン

JPEGに関する各種設定を行います。詳しくは、[Help]ボタンをクリックして、オンラインヘルプをご覧ください。



フォトCDポートフォリオを再生している場合、[Open]ボタン、[List]ボタンの機能は利用できません。

フォトCDポートフォリオのCDで、[Open]ボタン、[List]ボタンの機能を利用するときは[Extension]ボタンを選び、ダイアログボックス中の「PhotoCDポートフォリオのときはポートフォリオモードで再生」チェックボックスをOFFにして、通常の98プレーヤとして利用してください。

---

## 2.11 英語モードフォントを使用する

日本語モードフォントのまま海外製Windows 95アプリケーションをWindows 95で利用する場合、著作権(©)や登録商標(®)が正しく表示されません。そのため、使用するフォントの一部を英語モードフォントに切り替えて正しく表示する必要があります。また、その逆に英語モードのまま日本語版Windows 95アプリケーションをWindows 95で利用する場合も、正しく表示されない文字があります。それぞれのモードでの表示状態については、次の通りです。

	海外製 Windows 95 アプリケーションを使用	日本語版 Windows 95 アプリケーションを使用
日本語モードフォント	「©」→「ㇿ」、「®」→「ヨ」、 「\」→「¥」	正しく表示される
英語モードフォント	正しく表示される	「ㇿ」→「©」、「ヨ」→「®」、 「¥」→「\」

### ●英語モードフォントへの切り替え

使用するフォントを日本語モードから英語モードに切り替えます。

- ①[スタート]メニューの[設定]—[コントロールパネル]から[フォント]を選択します。[Fonts]フォルダが開きます。
- ②[ファイル]メニューの[新しいフォントのインストール]コマンドを選択します。[フォントの追加]ダイアログボックスが表示されます。
- ③[ドライブ]にWindows 95がインストールされているドライブ(出荷時は「A:」)を指定し、[フォルダ]に「¥WINDOWS¥USFONT」を指定します。
- ④[フォントの一覧]のリストボックスに、「EnglishModeFixedSys (Set #6)」、「EnglishModeSystem (Set #6)」、「EnglishModeTerminal (Set #6)」が表示されることを確認してから、[すべて選択]ボタンを押した後、[OK]ボタンを押します。[Fonts]フォルダ内に英語モードフォントが追加され、英語モードフォントに切り替わります。



使用しているフォントが英語モードのまま、日本語版Windows 95アプリケーションをWindows 95で利用すると、「ㇿ」、「ヨ」、「¥」が正しく表示されなくなります。この場合、英語モードを日本語モードに切り替えてください。

## ●日本語モードフォントへの切り替え

使用するフォントを英語モードから日本語モードに切り替えます。

- ①[スタート]メニューの[設定]—[コントロールパネル]から[フォント]を選択します。[Fonts]フォルダが開きます。
- ②[Fonts]フォルダ内の「EnglishModeFixedSys(Set #6)」、「EnglishMode System (Set #6)」、「EnglishModeTerminal (Set #6)」(実際には名前が短く表示される場合もあります)を選択し、[ファイル]メニューの[削除]コマンドを選択します。「これらのフォントを削除してもよろしいですか?」というメッセージが表示されます。[はい]ボタンを押すと英語モードフォントが削除され、日本語モードフォントに切り替わります。



使用しているフォントが日本語モードのまま、海外版Windows 95アプリケーションをWindows 95で利用すると、著作権(©)や登録商標(®)が正しく表示されなくなります。この場合、日本語モードを英語モードに切り替えてください。

---

## 2.12 LANシリーズのデータを見る

### ～LANPLAN/G、LANFILE、LANWORDファイルのクイック表示

Windows 95では、Windowsベースのアプリケーションで作成されたファイルは、アプリケーションを起動しなくても、クイックビューアでその内容を簡単に表示することができます。本機では、LANシリーズで作成したファイルもクイックビューアで表示することができます。クイックビューアで表示できるLANシリーズのファイル形式については、各項を参照してください。

#### ●ファイルをクリック表示する

ファイルの内容をクリックビューアで表示します。

- ①[スタート]メニューの[プログラム]をポイントし[エクスプローラ]を起動するか、またはデスクトップの[マイコンピュータ]をダブルクリックします。
- ②表示したいファイルを選択した状態で、マウスの右ボタンをクリックしポップアップメニューから[クイックビューア]を選択するか、同じ状態で、[ファイル]メニューからの[クイックビューア]を選択してください。  
[クイックビューア]が起動し、選択されたファイルの内容が[クイックビューア]ウィンドウに表示されます。

#### ●クイック表示するときの注意

##### ・LANPLAN/Gワークシートファイルのクイック表示の注意事項

- ・クイック表示の対象となるファイルは、LANPLAN/G(Windows®版、Windows® 95版、Windows NT™版)ワークシートファイル(\*.DST)または文豪DP-PLANのワークシートファイル(\*.DST)のみです。マクロシートファイル(\*.DMT)やPTOS版LANシリーズ、文豪PLANのファイルをクリック表示することはできません。
- ・クイック表示機能はファイル内容の簡易表示を目的としています。したがって、ワークシートに設定された書式情報(罫線/パターン/文字色等)の一部は省略して表示されます。
- ・最大表示範囲は、20列×50行です。

##### ・LANFILEデータベースファイルのクイック表示の注意事項

- ・クイック表示の対象となるファイルは、LANFILE(Windows®版、Windows® 95版)ディレクトリファイル(\*.DDR)に関連付いているデータベースファイルと送信形式ファイル(\*.DDS)のみです。マクロシートファイル(\*.DDM)や帳票ファイル(\*.DDT)、PTOS版LANFILE、LANFOLDER、文豪CARDのファイルはクイック表示できません。
- ・クイック表示機能はファイル内容の簡易表示を目的としています。したがって、ディレクトリファイルに設定された書式情報(文字色/文字フォント/文字サイズ)の一部は省略して表示されます。

- ・最大表示桁数は100件までです。
- ・ディレクトリファイルに関連付いているファイルがなく、同じディレクトリに同じ名前のデータファイルが存在しない場合、表定義情報のみクイック表示され、データは表示されません。
- ・表定義のみで作成したディレクトリファイルをクイック表示した場合、表定義情報のみクイック表示され、データは表示されません。
- ・1レコードの表示幅が340バイトを超える場合、340バイト以内の項目まで表示します。
- ・ディレクトリファイルに関連付いているデータファイルを読み込んでいるときにエラーが発生した場合、ディレクトリファイルのエラーとしてメッセージが表示されます。

#### ・LANWORD文書ファイルのクイック表示の注意事項

クイック表示の対象となるファイルは、LANWORD(Windows®版、Windows® 95版、Windows NT™版)文書ファイル(\*.DWD)または文豪DP-WORDの文書ファイル(\*.DWD)のみです。PTOS版LANシリーズのファイルをクイック表示することはできません。

## 2.13 DOS APインストーラ

Windows 95の動作環境を変更せず、MS-DOSアプリケーションのインストールを行うことができます。また、既にインストールされているMS-DOSアプリケーションのショートカットを作成したり、使用しているデバイスドライバの内容を確認/修正することもできます。



次のようなMS-DOSアプリケーションは、Windows上では実行できません。

- ・ フロッピーディスクからの起動が必要なアプリケーション  
このようなアプリケーションは、Windowsを終了してMS-DOSモードで再起動してから実行してください。起動方法の詳細については、アプリケーションに添付しているマニュアルを参照してください。
- ・ ADDDRVコマンドに対応していないかな漢字変換機能を利用するアプリケーションや、終了後MS-DOSに戻らないアプリケーション

このようなアプリケーションは、後述の「アプリケーションを利用する際の注意」を参照してください。



ここで「ショートカットを作成する」とは、「[スタート]メニューにアプリケーションを登録する」という意味です。



アプリケーションをインストールする前にアプリケーション添付のマニュアルをよく読んで、アプリケーションがインストール中にコンピュータを自動的にリセットするかどうかを調べてください。

インストール中にコンピュータを自動的にリセットするアプリケーションは、DOS APインストーラではインストールできませんので、MS-DOSモードでコンピュータを再起動して、手作業でインストールしてください。

手作業によるアプリケーションのインストールについては後述の「手作業によるアプリケーションの登録」を参照してください。

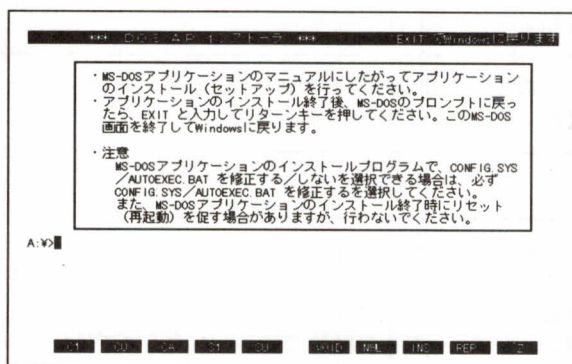
## ■MS-DOSアプリケーションをインストールしてショートカットを作成する

DOS APインストーラを使用して、新しくMS-DOSアプリケーションをインストールした後、ショートカットを作成するには、次の手順で行ってください。

### ●DOS APインストーラでのインストール

MS-DOSアプリケーションをDOS APインストーラを使用してインストールします。

- ①[スタート]メニューの[プログラム]をポイントし、[DOSアプリケーション]から[DOS APの登録]を起動します。  
[DOSアプリケーションの登録]ダイアログボックスが表示されて、インストールに必要な手順や注意事項が説明されますので、確認しながら[次へ]ボタンを押して進めてください。
- ②処理を進めていくと、MS-DOSプロンプトが起動して、MS-DOSモードのDOS APインストーラの画面が表示されます。インストールするMS-DOSアプリケーションのインストール手順にしたがって、インストールを行ってください。



注意

- ・MS-DOSアプリケーションのインストール中にCONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの変更を選択する場面がある場合は、必ず“変更する”を選択してください。
- ・インストールに際して必要なファイルがハードディスクに存在しない場合、以降の操作が正しく実行できない場合があります。



MS-DOSアプリケーションのインストール方法については、MS-DOSアプリケーションに添付されているインストールまたはセットアップ関連のマニュアルを参照してください。

- ③MS-DOSアプリケーションのインストール終了後、EXIT<sup>Ⓜ</sup>と入力するとWindows 95の画面に戻ります。



MS-DOSアプリケーションのインストール後、リセット(再起動)の指示がありますが、絶対に行わないでください。必ずインストール終了後は、EXIT<sup>Ⓜ</sup>と入力して、Windows 95の画面に戻ってください

DOS APインストーラでインストールできなかった場合は、後述の「手作業によるアプリケーションの登録」を参照してインストールしてください。

- ④引き続き、[DOSアプリケーションの登録]ダイアログボックスが表示されて、インストールしたMS-DOSアプリケーションを[スタート]メニューの[プログラム]—[DOSアプリケーション]フォルダに登録する作業が行われますので、これ以降の「インストールしたMS-DOSアプリケーションのショートカットの作成」の処理を進めてください。また、登録しない場合は、[終了]ボタンを押して[DOS APインストーラ]を終了してください。

## ●インストールしたMS-DOSアプリケーションのショートカットの作成

インストールしたMS-DOSアプリケーションのショートカットを作成します。

- ①MS-DOSアプリケーションの起動方法を選択する画面で、[コマンドで起動]または[自動的に起動]のどちらかを選択した後、[次へ]ボタンを押してMS-DOSアプリケーションを起動するコマンド名を入力する画面に進んでください。
- ②コマンド名にはMS-DOSアプリケーションの起動コマンドを入力するか、[参照]ボタンを押して起動用に作成、インストールした実行ファイル(\*.EXE)、バッチファイル(\*.BAT)またはコマンドファイル(\*.COM)を選択した後、[OK]ボタンを押してください。



MS-DOSアプリケーションの起動コマンドについては、MS-DOSアプリケーションに添付されているインストールまたはセットアップ関連のマニュアルを参照してください。

- ③選択したコマンドを表示しますので、確認した後、[次へ]ボタンを押してください。次に、起動するMS-DOSアプリケーションの登録名を指定する画面が表示されるので、アプリケーション名を入力した後、[次へ]ボタンを押してください。
- ④次にMS-DOSアプリケーションの起動に必要なデバイスドライバや環境変数を設定する作業が行われますので、これ以降の「MS-DOSアプリケーションの起動用アイコンのデバイスドライバ、環境変数の設定」の処理を進めてください。ショートカットの作成が必要ない場合は、[終了]ボタンを押して[DOS APインストーラ]を終了してください。



MS-DOSアプリケーションの起動に必要なデバイスドライバや環境変数については、MS-DOSアプリケーションに添付されているインストールまたはセットアップ関連のマニュアルを参照してください。

## ●MS-DOSアプリケーションのデバイスドライバ定義ファイルの編集

インストールしたMS-DOSアプリケーション起動用デバイスドライバ、環境変数を設定します。ただし、MS-DOSアプリケーションのインストール時にCONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATが変更された場合は、この処理は行えません。

- ①[オプション]ボタンを押します。[DOSアプリケーションの登録]ダイアログボックスが表示されます。[デバイスドライバ定義ファイルの編集]プロパティシートが表示されます。



- ②デバイスドライバを新規に追加する場合は、[追加]ボタンを押すと、デバイスドライバを選択する画面が表示されます。[ファイルの場所]、[ファイル名](デバイスドライバ名:\*.DRV)を選択した後、[開く]ボタンを押すと[有効な内容]に新規に追加したデバイスドライバが表示されます。



[追加]は、Windowsの[マイ コンピュータ]または[エクスプローラ]の[表示]—[オプション]を実行して、[すべてのファイルを表示]をチェックしてから行ってください。

- ③すでに設定されているデバイスドライバを削除する場合は、[有効な内容]に表示されているデバイスドライバを選択した後、[無効↓]ボタンを押します。デバイスドライバが[無効な内容]に移動します。一度、削除したデバイスドライバを設定する場合は、[無効な内容]に表示されているデバイスドライバを選択した後、[↑有効]ボタンを押します。
- ④デバイスドライバの設定内容が変更できたら、[更新]ボタンを押してください。デバイスドライバの設定内容が更新されます。引き続き、環境変数の設定内容の変更を行いたい場合は、[DOS AP起動ファイルの編集]タグを押してください。[DOS AP起動ファイルの編集]プロパティシートが表示されますので、これ以降の「MS-DOSアプリケーションの起動ファイルの編集」の処理を進めてください。必要ない場合は、[キャンセル]ボタンを押して「MS-DOSアプリケーションの起動用メモリサイズの設定」の処理に進んでください。



- ・すでに設定されているデバイスドライバを編集したり、パラメータを変更する場合は、[有効な内容]に表示されているデバイスドライバを選択した後、[編集]ボタンを押します。[指定行の修正]ダイアログボックスが表示されます。行の修正をした後、[更新]ボタンを押すと、デバイスドライバのパラメータが更新されます。
- ・他のアプリケーションで使っているデバイスドライバ定義ファイルを共有する場合は、[ファイル変更]ボタンを押して共有するファイルを選択してください。

## ●MS-DOSアプリケーションの起動用ファイルの編集

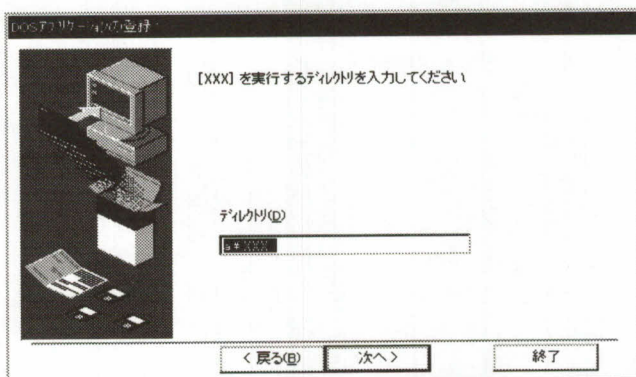
インストールしたMS-DOSアプリケーション起動用環境変数を設定します。

- ①[DOS AP起動用ファイルの編集]プロパティシートで環境変数を新規に追加する場合は、[追加]ボタンを押すと、環境変数を入力するための画面が表示されます。環境変数を入力した後、[更新]ボタンを押すと[有効な内容]に表示されます。
- ②すでに設定されている環境変数を削除する場合は、[有効な内容]に表示されている環境変数を選択した後、[無効↓]ボタンを押します。環境変数が[無効な内容]に移動します。  
削除した環境変数を設定する場合は、[無効な内容]に表示されているデバイスドライバを選択した後、[↑有効]ボタンを押します。
- ③環境変数の設定内容が変更できたら、[更新]ボタンを押して、[OK]ボタンを押してください。環境変数の設定内容が更新されて、[DOSアプリケーションの登録]ダイアログボックスが終了し、メモリサイズを設定する画面に進みます。メモリサイズの設定が必要な場合は、「MS-DOSアプリケーションの起動用メモリサイズの設定」の処理を進めてください。

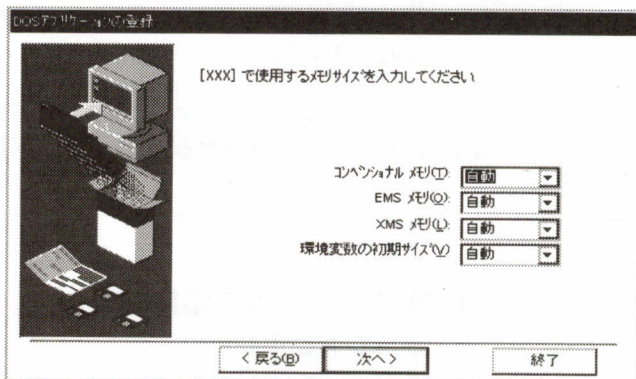
## ●MS-DOSアプリケーションの起動用メモリサイズの設定

インストールしたMS-DOSアプリケーションの起動用メモリサイズを設定します。

- ①[オプション]ボタンを押すと、MS-DOSアプリケーションを実行するディレクトリを設定する画面が表示されます。



- ②実行するディレクトリ名を入力した後、[次へ]ボタンを押します。設定内容が有効になり、メモリサイズを設定する画面に進みます。



- ③[コンベンショナルメモリ]、[EMSメモリ]、[XMSメモリ]、[環境変数の初期サイズ]を設定した後、[次へ]ボタンを押します。コマンド、実行ディレクトリ、メモリサイズの設定を確認する画面が表示されます。
- ④設定を確認した後、[次へ]ボタンを押します。MS-DOSアプリケーションが、[スタート]メニューからアイコンを選択することで起動できるようになります。

## ●MS-DOSアプリケーションを起動する

[スタート]メニューの[プログラム]をポイントし、[DOSアプリケーション]にあるMS-DOSアプリケーションのアイコンを選択してください。起動したいMS-DOSアプリケーションが起動します。または、[DOSアプリケーション]フォルダを開いてMS-DOSアプリケーションのアイコンをダブルクリックしてください。

## ■MS-DOSアプリケーションのショートカットを作成する

DOS APインストーラを使用して、新しくMS-DOSアプリケーションのショートカットを作成するには、次の手順で行ってください。

### ●MS-DOSアプリケーションのショートカットの作成

MS-DOSアプリケーションのショートカットを作成します。

- ①[DOS APショートカットの作成]を起動すると、[DOSアプリケーションの登録]ダイアログボックスが表示されます。
- ②画面に表示される指示にしたがって、[次へ]ボタンを押して処理を進めてください。ハードディスクにインストールされているMS-DOSアプリケーションを起動するコマンドを入力する画面が表示されます。起動コマンドを入力するか、[参照]ボタンを押して起動用に作成、またはインストールされている実行ファイル(\*.EXE)、バッチファイル(\*.BAT)またはコマンドファイル(\*.COM)を選択した後、[OK]ボタンを押してください。
- ③アプリケーション名を設定する画面が表示されますので、アプリケーション名を入力した後、[次へ]ボタンを押してください。以降のデバイスドライバ、環境変数、メモリサイズの設定は、前述の「MS-DOSアプリケーションをインストールしてショートカットを作成する」で行ったのと同じ手順で設定してください。MS-DOSアプリケーションのショートカットが、[スタート]メニューの[プログラム]-[DOSアプリケーション]に登録されます。

### ●MS-DOSアプリケーションのショートカットの起動

MS-DOSアプリケーションのショートカットを起動するには、次の2つの方法があります。

- ・[スタート]メニューの[プログラム]-[DOSアプリケーション]からMS-DOSアプリケーションのショートカットをクリックする
- ・[マイ コンピュータ]や[エクスプローラ]から¥Windows¥スタートメニュー¥プログラムにある[DOSアプリケーション]フォルダを開いて、MS-DOSアプリケーションのショートカットをダブルクリックする

## ■MS-DOSアプリケーションのショートカットのデバイスドライバ、環境変数を変更する

ショートカットのデバイスドライバの内容を変更します。

- ①デバイスドライバの内容を確認するショートカットアイコンを選択します。ショートカットアイコンにマウスカーソルを近づけたまま右クリックするか、または、[エクスプローラ]の[ファイル]メニューを選択し、[デバイスドライバの変更]を選択してください。使用しているデバイスドライバの一覧が表示されます。
- ②以降のデバイスドライバと環境変数の設定については、「MS-DOSアプリケーションのデバイスドライバ定義ファイルの編集」と「MS-DOSアプリケーションの起動用ファイルの編集」の手順を繰り返します。

## ■DOS APインストーラの注意事項

- ・かな漢字変換ドライバのみの登録はできません。
- ・MS-DOSアプリケーションのインストール終了後、自動的にリセットを行う(リセットボタンを押す以外の操作を受け付けられない場合も含みます)MS-DOSアプリケーションは登録できません。
- ・MS-DOSアプリケーションのインストール途中でエラーが発生した場合は、環境設定ファイル(CONFIG.SYS、AUTOEXEC.BAT)は変更されたままの状態になります。
- ・ブロックデバイスを使用するMS-DOSアプリケーションは、正常に動作しないことがあります。
- ・起動コマンドにバッチファイル(\*.BAT)を指定しているアイコンを起動した場合、アプリケーションを終了してもMS-DOSプロンプトが終了しないことがあります。EXIT<sup>Ⓜ</sup>と入力してMS-DOSプロンプトを終了させてください。
- ・MS-DOSアプリケーション固有のかな漢字変換ドライバを使用するMS-DOSアプリケーションは、MS-DOSプロンプトが起動した後でかな漢字変換ドライバを使用する環境を作成(CONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATを変更)し、MS-DOSアプリケーションのインストールを行ってください。
- ・MS-DOSアプリケーションの動作時に必要な設定を手作業で行う場合は、MS-DOSプロンプト終了前に行ってください。

## ■手作業によるアプリケーションの登録

DOS APインストーラでインストールできないアプリケーションは、本項の説明を参考にして登録してください。以下に具体的な操作手順を説明します。あらかじめ、フォーマット済みのフロッピーディスクを1枚用意してください。なお、説明は以下の前提で行います。お使いのシステム構成と異なる場合は、読み替えてください。

- ・Windowsがインストールされている内蔵ハードディスク：Aドライブ
- ・フロッピーディスクドライブ：Bドライブ

DOS APインストーラでインストールしようとして成功しなかった場合は、手順①から順に、そうでない場合は手順⑦からお読みください。

- ①[スタート]メニューの[プログラム]をポイントし、[エクスプローラ]を選択します。[エクスプローラ]ウィンドウが表示されます。
- ②[表示]-[オプション]を選択すると[オプション]ウィンドウが表示されます。[表示]タブを選択し、[すべてのファイルを表示]を選択して、[OK]ボタンを押します。
- ③エクスプローラで[Windows]フォルダを開き、順に[スタートメニュー]、[プログラム]、[DOSアプリケーション]と開いていき、最後に[DATA]フォルダを開きます。
- ④[X\_AUTO.BAT]、[X\_CONF.SYS](Xはドライブ名)の2つのファイルをドラッグアンドドロップでドライブのルートディレクトリにコピーします(元のCONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATは削除しておきます)。

- ⑤コピーしたファイルを選択し、[ファイル]メニューから[名前の変更]を選択して、X\_AUTO.BATはAUTOEXEC.BATに、X\_CONF.SYSはCONFIG.SYSに名前を変更します。
- ⑥コピーしたファイルを選択し、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選択して、[属性]の[隠しファイル]のチェックマークを消します。
- ⑦フォーマット済みのフロッピーディスクをBドライブに挿入し、Windowsの[エクスプローラ]を利用して、AドライブのルートディレクトリにあるCONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの2つのファイルをBドライブにコピーします。
- ⑧Bドライブにコピーしたファイルの名前を、それぞれCONFIG.NEC、AUTOEXEC.NECに変更します。
- ⑨フロッピーディスクを取り出します。
- ⑩起動中のアプリケーションをすべて終了し、[スタート]メニューの[Windowsの終了]を選択し、[MS-DOSモードでコンピュータを再起動する]を選択します。
- ⑪MS-DOSモードで再起動したらアプリケーションをインストールします。




インストール中にCONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATを書き替えてもよいかどうか確認されたら、「書き替えない」を選択してください。確認メッセージが表示されなかった場合は、アプリケーションのインストール終了後、⑦で用意したフロッピーディスクをドライブに挿入して、コマンドプロンプトから次のように入力します。

COPY B:¥CONFIG.NEC A:¥CONFIG.SYS 

COPY B:¥AUTOEXEC.NEC A:¥AUTOEXEC.BAT 

また、アプリケーションのインストール先や起動ドライブとしてAドライブ以外のドライブを指定した場合、そこにCONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATが存在するとそれらのファイルが書き替えられる可能性があります。その場合は、上記手順を参考にして、該当ドライブのCONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATを復元してください。

- ⑫EXIT と入力してコンピュータを再起動します。これ以降は前述の「MS-DOSアプリケーションのショートカットを作成する」を参照してください。

## ■アプリケーションを利用する際の注意



市販のMS-DOSアプリケーションには、使用するMS-DOSのバージョンを指定しているものがあります。ご使用の際には、アプリケーションが動作するMS-DOSのバージョンを確認してください。

### ・ADDDRVコマンドでかな漢字変換用デバイスドライバが組み込めないアプリケーション、または終了してもMS-DOSに戻らないアプリケーションの実行方法

- ①[エクスプローラ]で目的のプログラムのアイコンを選択します。
- ②[ファイル]メニューの[プロパティ]を選択します。
- ③[プロパティ]ウィンドウで[プログラム]を選択し、[詳細設定]ボタンを押します。
- ④[MS-DOSモード]にチェックマークをつけ[新しいMS-DOS設定を指定する]を選択します。
- ⑤[MS-DOSモード用CONFIG.SYSファイル]と[MS-DOSモード用AUTOEXEC.BATファイル]を記述します。
- ⑥[OK]ボタンを押して[プロパティ]のウィンドウに戻ります。
- ⑦[OK]ボタンを押して[プロパティ]のウィンドウを閉じます。
- ⑧[スタート]メニューの[Windowsの終了]を選択し、[MS-DOSモードでコンピュータを再起動する]を選択し、[はい]ボタンを押します。
- ⑨コンピュータが再起動したらアプリケーションを実行します。

### ・登録したアプリケーションの実行環境を詳細に設定するには

各プログラムの[プロパティ]で設定を行います。詳細はヘルプの[キーワード]画面で[MS-DOSプログラム]の項目を検索し参照してください。

### ・登録したアプリケーションにオリジナルのアイコンを割り当てるには

各プログラムの[プロパティ]で設定をおこないます。次の手順でアイコンを割り当ててください。

- ①[エクスプローラ]で目的のプログラムを選択します
- ②[ファイル]メニューから[プロパティ]を選択します
- ③[プロパティ]ダイアログボックスで[プログラム]を選択し、[アイコンの変更]ボタンを押します。
- ④[アイコンの変更]ダイアログボックスでアイコンを選択し、[OK]ボタンを押します。
- ⑤[OK]ボタンを押して[プロパティ]のウィンドウを閉じます。

## 2.14 密度変換ユーティリティを使用する

PC-9821Na12、PC-9821Nb10/S10F、PC9821Nb10/S8に関する情報です。

本機で画面の解像度を640×480ドットで使用していると、表示画面は、通常は本機のカラー液晶ディスプレイの中央に表示され、画面いっぱいには表示されません（画面の上下左右に黒い部分ができます）。

密度変換ユーティリティを使用すると、640×480ドットの解像度を使用している場合でも、ディスプレイの画面いっぱいに拡大して表示されます。

### ● 拡大表示モードに変更する

拡大表示モードに変更するには、次の手順で行います。

- ① 起動しているすべてのアプリケーションを終了します。
- ② [スタート] メニューの [プログラム] にある [アクセサリ] から [密度変換ユーティリティ] を選択します。  
[密度変換ユーティリティ] が起動します。
- ③ 「現在、通常表示モードで動作中です。拡大表示モードに変換します。新しいモードを有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。再起動しますか。」というメッセージが表示されますので、再起動する場合は、[はい] ボタンをクリックします。  
再起動すると、拡大表示モードに変更されています。

### ● 通常のモードに戻す

通常のモードに戻すには、次の手順で行います。

- ① 起動しているすべてのアプリケーションを終了します。
- ② [スタート] メニューの [プログラム] にある [アクセサリ] から [密度変換ユーティリティ] を選択します。  
[密度変換ユーティリティ] が起動します。
- ③ 「現在、拡大表示モードで動作中です。通常表示モードに変換します。新しいモードを有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。再起動しますか。」というメッセージが表示されますので、再起動する場合は、[はい] ボタンをクリックします。  
再起動すると、通常表示モードに変更されています。



- ・ 密度変換ユーティリティが使用できるのは以下の解像度と色数だけです。
  - ・ 640×480ドット 256色
- ・ これ以外の解像度で密度変換ユーティリティを起動すると「現在の解像度/色数ではモードの変更はできません」というメッセージが表示されます。この場合、[OK] ボタンを押してください。
- ・ 拡大表示モードに変更した場合、文字や罫線などの太さが不均一になることがあります。

## 2.15 その他の機能を利用する

### ■Windowsアプリケーションの自動インストールを利用する

本機では、Windowsアプリケーションのインストールプログラム(またはセットアッププログラム)が入っているCD-ROMをCD-ROMドライブにセットすると、自動的にインストールプログラムを検索し、起動することができます。

これにより、Windowsアプリケーションのインストールが簡単に行えます。

一般に、Windowsアプリケーションのインストールプログラムのファイル名は、setup.exe、install.exeなどが多く用いられています。本機の自動インストールを利用できるアプリケーションは、このように一般的なファイル名(setup\*.exe、inst\*.exe：\*の部分は任意)を用いたアプリケーションです。



- ・アプリケーションによっては、本機能が利用できない場合があります。
- ・本機能を利用するには、[FD/CD表示]を起動しておく必要があります。

### ■アプリケーションからのFAX送信を利用する



FAXモデム内蔵モデルでは、以下の手順は必要ありません。FAXモデム内蔵モデル以外のモデルをお使いの場合のみ、以下の手順を行ってください。

Windows 95で[メモ帳]などのアプリケーションから印刷機能を使用したFAX送信を行う場合には、[プリンタ]フォルダに(Windows 95の[スタート]メニューの[設定]にあります)、[Microsoft Fax]を登録してください。登録方法は次のとおりです。

- ①[スタート]メニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]を起動します。
- ②[アプリケーションの追加と削除]を起動し、[Windowsファイル]タブを選択します。
- ③[ファイルの種類]の[Microsoft Fax]のチェックボックスをチェックして[OK]ボタンをクリックします。
- ④コンピュータを再起動するか確認するメッセージが表示された場合は、[はい]ボタンをクリックし、続いてWindows 95を再起動してください。  
メッセージが表示されなかった場合、手順④の操作を行う必要はありません。

これで、[プリンタ]フォルダに[Microsoft Fax]が登録されます。

## ■通信速度を指定する場合のご注意

Windows 95では、従来の通信速度に加えて高速通信を設定できます。ただし、アプリケーションによって使用できる通信速度は異なります。

## ■メディアプレーヤーを利用する場合のご注意

メディアプレーヤーを利用すると、音声データ、MIDIによる音楽データ、CDオーディオ、アニメーションファイルなどを再生できます。

次の手順で、[メディアプレーヤー]を起動して、利用できます。

- ① [スタート]ボタンをクリックし、[プログラム]をポイントします。
- ② [アクセサリ]をポイントします。
- ③ [マルチメディア]をポイントします。
- ④ [メディアプレーヤー]をポイントします。



メディアプレーヤーを利用するには、再生機器に対応したデバイスドライバの組み込みが必要な場合があります。詳しくは、再生機器に添付されているマニュアルをご覧ください。

## ■ビデオCD(カラオケCD)を再生する場合のご注意

本機には、ビデオCDなどの動画データを再生するためのソフトウェアが標準添付されていますが、動画データの再生中に他のソフトウェアを実行させることなどにより、音飛びや画面の乱れが発生する場合があります。

## ■CD-ROMを利用する場合のご注意

CD-ROMから起動しているプログラムを実行中に、CD-ROMを途中で取り出すと以下のようなメッセージが表示されます。

ドライブX: のCD-ROM読み取りエラー

シリアル番号 XXXX-XXXXのCD-ROM\*\*\*\*\*を、  
ドライブX: に入れてください。

CD-ROMがドライブに入っている場合は、クリーニングが必要です。

OKはEnter、キャンセルはEscキーを押してください。 : OK

この場合には、取り出したCD-ROMをCD-ROMドライブにセットしなおして☞キーを押してください。

なお、このメッセージで表示されるシリアル番号は無視してください。

## ■MS-DOSアプリケーション上での98スライドパッドの操作について

Windows 95上でMS-DOSアプリケーションを利用する場合の、98スライドパッドの操作に関する注意事項について説明します。

MS-DOSアプリケーション上で98スライドパッドを使用する場合、[コントロールパネル]の[マウス]で左右のボタンを交換していると、パッドを操作してのタップや、ドラッグを行うことができません。

この場合、次の手順でボタンの設定を初期状態に戻してください。

- ① [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。
- ② [コントロール パネル] を起動します。
- ③ [マウス] を起動します。  
[マウス]のプロパティが表示されます。
- ④ [ボタンの選択] ボックスで「右きき用」を選択します。
- ⑤ [OK] ボタンをクリックします。

これで、MS-DOSアプリケーション上でパッドを操作してのクリックやドラッグを行うことができます。

なお、MS-DOSアプリケーション内で左右のボタンの設定を変更した場合、MS-DOSアプリケーションを終了してWindowsの画面に戻ったとき、パッドを操作してのタップやドラッグができないことがあります。

この場合には再度、Windowsの[マウス]でボタンを設定してください。

98スライドパッドについては、別冊の『ガイドブック』を参照してください。

## ■アプリケーションの追加と削除についてのご注意

[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]では、本機購入時にインストールされているアプリケーションを削除することができますが、アプリケーションによっては、削除すると追加できないものがあります。このようなアプリケーションを追加するためには、本機の再セットアップが必要になります。PC-9821Nb10/5では、再セットアップするためにはシステムのバックアップを行ったディスクまたは別売のバックアップ用のディスクが必要になります。削除する場合は、十分注意してください。

# 第3章 MS-DOSコマンド、 ドライバの利用

この章では、USKCGMコマンド、AVGDRVコマンド、AVSDRVコマンドなど、MS-DOSコマンドやドライバなどの使用方法や注意事項について説明しています。

## 3.1 USKCGMコマンド

USKCGMコマンドは、ユーザが定義する文字パターン(ユーザ一定義文字、または外字)を作成したり、ファイルへの保存やファイルから読み出したりするユーティリティです。また文字パターンをメモリに読み込んだり、プリンタに送って印字したりすることもできます。

### ●USKCGMコマンドの書式

USKCGMコマンドは、次の書式でコマンドプロンプトから実行します。

USKCGM [[<d:>][<パス名>]<ファイル名>][/P]

<ファイル名>を指定すると、指定されたファイルを外字ファイル(ユーザ一定義文字パターンを格納したファイル)として読み込み、その内容をパーソナルコンピュータ本体内のメモリに登録します。また、すべてのパラメータを省略すると、機能を選択するメニューが表示されます。

USKCGM コマンドのオプションスイッチ

スイッチ	機 能
/P	<ファイル名>で指定した外字ファイルの内容をプリンタに送ります。以後そのプリンタはその文字パターンを印字できるようになります。

## ●USKCGMコマンドを使用する

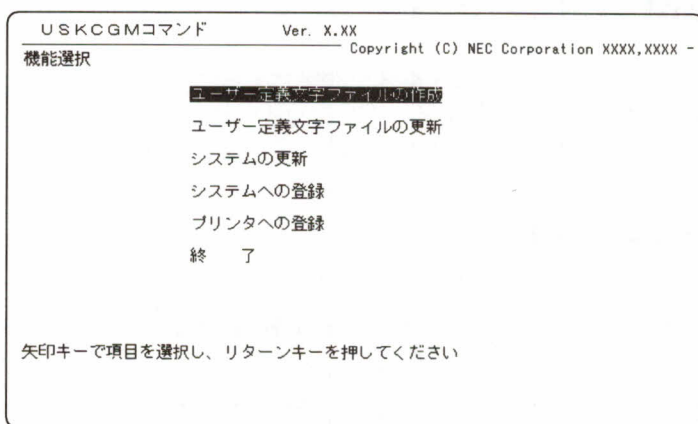
ここでは、メニューを利用してUSKCGMコマンドを実行します。

## ●USKCGMコマンドの起動

コマンドプロンプトからUSKCGMコマンドを起動します。

- ①[スタート]メニューの[プログラム]で[MS-DOSプロンプト]を選択します。[MS-DOSプロンプト]が起動してMS-DOSのコマンドプロンプトが表示されます。
- ②コマンドプロンプトから次のように入力して、ユーザー定義文字管理ユーティリティ(USKCGM)を実行します。ユーザー定義文字管理ユーティリティの機能を選択するメニューが表示されます。

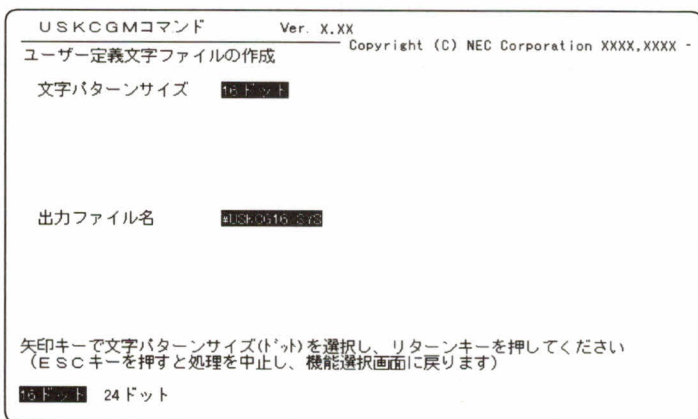
USKCGM 



## ●ユーザー定義文字ファイルの作成

ユーザー定義文字ファイルを作成します。

- ①機能選択画面で、[ユーザー定義文字ファイルの作成]を $\uparrow$ / $\downarrow$ で選択した後、 $\rightarrow$ を押します。ユーザー定義文字ファイルの作成画面が表示されます。



- ②ユーザー定義文字ファイルの作成画面で、[文字パターンサイズ]と[出力ファイル名]を設定します。
- ③ユーザー定義文字ファイルの作成を確認するメッセージが表示されますので、確認の後[Y][↵]を押してください。ユーザー定義文字ファイルが作成されます。

## ●ユーザー定義文字ファイルの更新

ユーザー定義文字ファイルを更新します。

- ①機能選択画面で、[ユーザー定義文字ファイルの更新]を[↑][↓]で選択した後、[↵]を押します。ユーザー定義文字ファイルの更新画面が表示されます。

USKCGMコマンド Ver. X.XX  
Copyright (C) NEC Corporation XXXX,XXXX -

ユーザー定義文字ファイルの更新

入力対象

入力ファイル名

出力ファイル名

矢印キーで入力対象を選択し、リターンキーを押してください  
(ESCキーを押すと処理を中止し、機能選択画面に戻ります)

システム

- ②ユーザー定義文字ファイルの更新画面で、[入力対象]、[入力ファイル名]、[出力ファイル名]を設定します。
- ③ユーザー定義文字ファイルの更新を確認するメッセージが表示されますので、確認の後[Y][↵]を押してください。ユーザー定義文字ファイルが更新されます。

## ●システムの更新

システムを更新します。

- ①機能選択画面で、[システムの更新]を[↑][↓]で選択した後、[↵]を押します。システムの更新画面が表示されます。

USKCGM Ver. X.XX 1 . . . 5 . . . 10 . . . 15 .

現在のコード：7621

文字パターン：

N	前進	0	オフ						
B	後進	1	オン						
C	削除	↑	上へ						
R	反転	↓	下へ						
S	参照	←	左へ						
E	終了	→	右へ						
ESC:処理中止				H	:	ホーム			

JISコード：  
(7621-767E, 7721-777E)

- ②システムの更新画面で、システムの更新を設定します。
- ③システムの更新を確認するメッセージが表示されますので、確認の後 $\boxed{Y}$  $\boxed{\text{↵}}$ を押してください。システムが更新されます。

## ●ユーザー定義文字ファイルのシステムへの登録

ユーザー定義文字ファイルをシステムに登録します。

- ①機能選択画面で、[システムへの登録]を $\boxed{\uparrow}$  $\boxed{\downarrow}$ で選択した後、 $\boxed{\text{↵}}$ を押します。システムへの登録画面が表示されます。

USKCGMコマンド Ver. X.XX  
 システムへの登録 Copyright (C) NEC Corporation XXXX,XXXX -

入力ファイル名 USKCG16.SYS

登録するファイル名を入力してください。(省略した場合はUSKCG16.SYSとなります)  
 (ESCキーを押すと処理を中止し、機能選択画面に戻ります)

>■

- ②システムへの登録画面で、[入力ファイル名]を設定します。
- ③システムへの登録を確認するメッセージが表示されますので、確認の後 $\boxed{Y}$  $\boxed{\text{↵}}$ を押してください。ユーザー定義文字がシステムへ登録されます。



ユーザー定義文字をシステムへ登録するには、コマンドプロンプトから次のように入力する方法もあります。

USKCGM <ドライブ名><パス名><入力ファイル名> $\boxed{\text{↵}}$

## ●ユーザー定義文字ファイルのプリンタへの登録

ユーザー定義文字ファイルをプリンタに登録します。

- ①機能選択画面で、[プリンタへの登録]を $\uparrow$  $\downarrow$ で選択した後、 $\rightarrow$ を押します。プリンタへの登録画面が表示されます。

USKCGMコマンド		Ver. X.XX	Copyright (C) NEC Corporation XXXX,XXXX -
プリンタへの登録			
入力対象	ファイル		
入力ファイル名	#USKCGM.SYS		
登録するファイル名を入力してください(省略した場合はUSKCG24.SYSとなります) (ESCキーを押すと処理を中止し、機能選択画面に戻ります)			
>			

- ②プリンタへの登録画面で、[入力ファイル名]を設定します。  
 ③プリンタへの登録を確認するメッセージが表示されますので、確認の後 $\rightarrow$  $\rightarrow$ を押してください。ユーザー定義文字がプリンタへ登録されます。



ユーザー定義文字をプリンタへ登録するには、コマンドプロンプトから次のように入力する方法もあります。

USKCGM <ドライブ名><パス名><入力ファイル名> /P  $\rightarrow$

## 3.2 AVGDRVコマンド、AVSDRVコマンド

拡張グラフィックドライバ(AVGDRV.SYSまたはAVGDRV.EXE)と拡張サウンドドライバ(AVSDRV.SYSまたはAVSDRV.EXE)を合わせて、拡張マルチメディア対応ドライバといいます。

Windows 95では、これらに該当するマルチメディア機能がインストール時に自動的に組み込まれますが、MS-DOSモードでマルチメディア対応のMS-DOSアプリケーションを使用する場合は、これらのドライバをインストールする必要があります。

### ■AVGDRVコマンドについて

AVGDRV.SYSは拡張グラフィック機能を利用するためのデバイスドライバです。ウィンドウアクセラレータ機能を使用しないで、グラフィック表示を256色以上に表示することができます。AVGDRVコマンドでAVGDRV.SYSを組み込むことによって、拡張グラフィックス機能が利用できるようになります。

### ●AVGDRVコマンドの書式

次の書式で[メモ帳]や[DOS環境設定ユーティリティ]などのテキストエディタを利用して、ADDDRV用定義ファイル、またはCONFIG.SYSに記述します。

DEVICE=[<d:>][<パス名>]AVGDRV.SYS [/E | /C | /S | /R]

AVGDRV コマンドのオプションスイッチ

スイッチ	機 能
/E	ドライバの一部をEMSメモリに組み込み、メインメモリの消費を抑えます。
/C	数値演算コプロセッサを使用します。数値演算コプロセッサが実装されている場合にのみ指定できます。
/S	描画系の機能を切り離して、設定系の機能のみを組み込みます。
/R	拡張グラフィックドライバの常駐を解除します。ただし、ADDDRVコマンドやCONFIG.SYSで設定して組み込んだ場合は、解除できません。

## ●AVGDRVコマンドを使用する

拡張グラフィックドライバは、MS-DOSモードのコマンドプロンプトから常駐プログラムとして組み込むことができます。また、必要ない場合はメモリへの常駐を解除することもできます。

拡張グラフィックドライバの組み込み

拡張グラフィックドライバをメモリに常駐プログラムとして組み込むには、次のように入力してください。

AVGDRV 

拡張グラフィックドライバの解除

拡張グラフィックドライバをメモリから解除するは、次のように入力してください。

AVGDRV /R 

必要に応じてオプションスイッチを設定してください。

## ●AVGDRV.SYS、AVGDRVコマンドの注意事項

- ・AVGDRV.SYS、AVGDRVコマンドは、コンピュータ本体が拡張グラフィックス機能をサポートしている機種のみ、利用することができます。
- ・MS-DOSプロンプトでは、Windows 95のシステムのドライバが動作するため、AVGDRV.SYS、AVGDRVコマンドは使用しないでください。
- ・AVGDRVコマンドのスイッチ/Rでは、ADDDRVコマンドやCONFIG.SYSで組み込んだAVGDRV.SYSを常駐解除することはできません。
- ・AVGDRVで/Eスイッチを指定する場合は、次のことを確認してください。
  - ・ページフレームがC0000H~CFFFFHの連続した64KBであること
  - ・連続した4ページ以上のEMSメモリが使用可能であること

## ■AVSDRVコマンドについて

AVSDRV.SYSは拡張サウンド機能を利用するためのデバイスドライバです。PCM音源を標準搭載している機種、またはPC-9801-86、PC-9801-73相当のサウンドボードを取り付けている機種で利用できます。AVSDRVコマンドでAVSDRV.SYSを組み込むことによって、拡張サウンド機能が利用できるようになります。

## ●AVSDRVコマンドの書式

次の書式で<メモ帳>や<DOS環境設定ユーティリティ>などのテキストエディタを利用して、ADDDRV用定義ファイル、またはCONFIG.SYSに記述します。

DEVICE=[<d: >][<パス名>]AVSDRV.SYS [/E | /F | /P | /R]

## AVSDRV コマンドのオプションスイッチ

スイッチ	機能
/E	ドライバの一部をEMSメモリに組み込み、メインメモリの消費を抑えます。
/F	FM音源機能のみを組み込みます。
/P	PCM音源機能のみを組み込みます。
/R	拡張サウンドドライバの常駐を解除します。ただし、ADDDRVコマンドやCONFIG.SYSで設定して組み込んだ場合は、解除できません。

### ●AVSDRVコマンドを使用する

拡張サウンドドライバは、MS-DOSモードのコマンドプロンプトから常駐プログラムとして組み込むことができます。また、必要ない場合はメモリへの常駐を解除することもできます。

#### ・拡張サウンドドライバの組み込み

拡張サウンドドライバをメモリに常駐プログラムとして組み込むには、次のように入力してください。

AVSDRV 

#### ・拡張サウンドドライバの解除

拡張サウンドドライバをメモリから解除するは、次のように入力してください。

AVSDRV /R 

必要に応じてオプションスイッチを設定してください。

### ●AVSDRV.SYS、AVSDRVコマンドの注意事項

- ・インストール時に2種類のデバイスドライバを同時に選択した場合、デバイスドライバが正しくインストールされないことがあります。必ず1種類のみ選択してください。
- ・AVSDRV.SYSはコンピュータ本体が拡張サウンド機能をサポートしている機種のみ、AVSDRVコマンドは、コンピュータ本体がFM音源とPCM音源をサポートしている機種のみ、利用することができます。
- ・MS-DOSプロンプトでは、Windows 95のシステムのドライバが動作するため、AVSDRV.SYS、AVSDRVコマンドは使用しないでください。
- ・AVSDRVコマンドのスイッチ/Rでは、ADDDRVコマンドやCONFIG.SYSで組み込んだAVSDRV.SYSを常駐解除することはできません。
- ・AVGDRVで/Eスイッチを指定する場合は、次のことを確認してください。
  - ・ページフレームがC0000H～CFFFFHの連続した64KBであること
  - ・連続した4ページ以上のEMSメモリが使用可能であること

## 3.3 日本語入力機能

[MS-DOSプロンプト]上ではWindows95のかな漢字変換、またはDOSかな漢字変換を使用し日本語の入力が行えます。DOSかな漢字変換が組み込まれていない場合は、自動的にWindows95のかな漢字変換が動作し、入力できるしくみになっています。

DOSかな漢字変換の組み込み方法は以下のとおりです。

- ①[スタート]メニューの[プログラム]から[MS-DOSプロンプト]を起動します。
- ②システムメニューの[プロパティ]をクリックします。  
[MS-DOSプロンプトのプロパティ]画面が表示されます。
- ③[プログラム]タブ画面の[バッチファイル]に以下のように入力します。  
**DOSIME.BAT**
- ④[MS-DOSプロンプトのプロパティ]画面で[OK]ボタンをクリックします。

本機ではあらかじめ上記操作でNECAI DOSかな漢字変換を組み込む設定にしております。NECAI DOSかな漢字変換はWindows95のNECAIIME95と辞書を共有しており、登録した単語や学習情報をそのまま使用することができます。辞書を切り替えたい場合は、Windows95のNECAIIME95、環境設定の[辞書]タブで行ってください。

なお、Windows95がインストールされているドライブ(通常は「A:」)のルートディレクトリにあるDOSIME.SYSファイル(ADDDRV用定義ファイル)の内容を書き替えば、お好みのDOSかな漢字変換に変更することもできます。



Windows95上でWindows3.1のかな漢字変換をお使いの場合は、[MS-DOSプロンプト]ではDOSかな漢字変換による日本語入力しか行えません。



ADDDRVによりMS-DOSかな漢字変換を組み込む場合は、Windows 95用の「KKCFUNC.SYS」を使用してください。通常「KKCFUNC.SYS」は、WINDOWSディレクトリにあります。なお、従来のMS-DOS用KKCFUNC.SYSは使用できません。

## 3.4 CD-ROMドライバ

CONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATの編集方法は、「第4章 環境設定ユーティリティについて」の「CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATを編集する」を参照してください。

### ●現在のMS-DOS設定を使う場合

現在のMS-DOS設定を使う場合、MS-DOSモード上でCD-ROMドライブを使用するには、次の手順で行ってください。

- ①CONFIG.SYSに次の内容を追加し、接続されているCD-ROMドライブに対応したCD-ROMドライバを登録します(Windows 95がインストールされているドライブおよびディレクトリをA:¥WINDOWS、インストールしたCD-ROMドライバをNECCD.SYSとします)。

<追加する内容>

```
DEVICE=A:¥WINDOWS¥COMMAND¥NECCD.SYS /D:CD_101
```

- ②AUTOEXEC.BATに次の内容を追加します(CD-ROMを割り当てるドライブをQドライブとします)。

<追加する内容>

```
A:¥WINDOWS¥COMMAND¥MSCDEX /D:CD_101 /L:Q
```



コンピュータ内蔵のCD-ROMドライブとSCSI1モードまたはSCSI2モード用CD-ROMドライブを同時に使用する場合は、上記手順①、②それぞれの<追加する内容>を、次のように読み替えてください。

<手順①で追加する内容>

```
DEVICE=A:¥WINDOWS¥COMMAND¥NECCD.SYS /D:CD_101  
DEVICE=A:¥WINDOWS¥COMMAND¥NECCDB.SYS /D:CD_102
```

<手順②で追加する内容>

```
A:¥WINDOWS¥COMMAND¥MSCDEX /D:CD_101 /L:Q  
A:¥WINDOWS¥COMMAND¥MSCDEX /D:CD_102 /L:R
```

- ③MS-DOSモードを起動します。[Windowsの終了]から[MS-DOSモードでコンピュータを再起動する]を選択するか、[MS-DOSプロンプトのプロパティ]ダイアログボックスの詳細設定で、[MS-DOSモード]および[現在のMS-DOS設定を使う]チェックボックスをONに設定し、MS-DOSプロンプトを起動してください。

## ●外付け用CD-ROMドライブを使う場合

本機で外付け（SCSI-1またはSCSI2モード）用CD-ROMドライブを使用するには次の手順で行ってください。

- ① [スタート] メニューの [プログラム] から [MS-DOSプロンプト] を起動します。
  - ② コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントディレクトリを変更します。  
CD ¥WINDOWS¥COMMAND<sup>Ⓜ</sup>
  - ③ 次のように入力して、NECCD.SYSのファイル名をNECCD.ORGに変更します。  
COPY NECCD.SYS NECCD.ORG <sup>Ⓜ</sup>
  - ④ 次のように入力して、NECCDB.SYSをNECCD.SYSにコピーします。  
COPY NECCDB.SYS NECCD.SYS<sup>Ⓜ</sup>
- 「上書きしますか」のメッセージが表示されたら「y<sup>Ⓜ</sup>」と入力してください。
- ⑤ 「●現在のMS-DOS設定を使う場合」を参照して、CONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATを変更してください。



上記手順を行うと本機内蔵のCD-ROMドライブは使用できなくなります。上記手順を行ったあとで、本機内蔵CD-ROMドライブを使用する場合は、次の手順でCD-ROMドライブを元に戻してください。

- ① [スタート] メニューの [プログラム] から [MS-DOSプロンプト] を起動します。
  - ② コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントディレクトリを変更します。  
CD ¥WINDOWS¥COMMAND<sup>Ⓜ</sup>
  - ③ 次のように入力して、NECCD.SYSを元に戻します。  
COPY NECCD.ORG NECCD.SYS<sup>Ⓜ</sup>
- 「上書きしますか」のメッセージが表示されたら「y<sup>Ⓜ</sup>」と入力してください。

## ●新しいMS-DOS設定を指定する

新しいMS-DOS設定を指定する場合、MS-DOSモード上でCD-ROMドライブを使用するには、次の手順で行ってください。

- ① [スタート]メニューの[プログラム]から[エクスプローラ]を起動し、新しいMS-DOS設定を指定したいプログラムをクリックします。  
プログラム名が反転表示されます。
- ② [エクスプローラ]の[ファイル]メニューから[プロパティ]をクリックします。
- ③ [プログラム]タブをクリックして、[詳細設定]ボタンをクリックします。
- ④ [MS-DOSモード]および[新しいMS-DOS設定を指定する]チェックボックスをONに設定し、CONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATのリストボックスに、次の内容を追加します(Windows 95がインストールされているドライブおよびディレクトリをA:¥WINDOWS、インストールしたCD-ROMドライブをNECCD.SYS、CD-ROMを割り当てるドライブをQドライブとします)。

<CONFIG.SYSに追加する内容>

DEVICE=A:¥WINDOWS¥COMMAND¥NECCD.SYS /D:CD\_101

<AUTOEXEC.BATに追加する内容>

A:¥WINDOWS¥COMMAND¥MSCDEX /D:CD\_101 /L:Q

- ⑤[OK]ボタンをクリックして、[プログラムの詳細設定]画面を閉じます。
- ⑥[OK]ボタンをクリックして、[プロパティ]の画面を閉じます。
- ⑦[エクスプローラ]で新しいMS-DOS設定を指定したプログラムをダブルクリックして、MS-DOSモードで起動します。

### ●CD-ROMドライバの注意事項

インストール時に2種類以上のドライバを同時に選択した場合、ドライバが正しくインストールされないことがあります。必ず1種類のみ選択してください。

---

# 第4章 環境設定ユーティリティについて

---

この章では、ユースフルパックをインストールして利用できる、DOS環境設定ユーティリティ、98環境設定ユーティリティなど、MS-DOS環境設定ユーティリティ追加機能の使用法や注意事項について説明しています。

---

## 4.1 DOS環境設定ユーティリティ

従来からのMS-DOSの環境やMS-DOSアプリケーションを引き続きご利用になる方のために、DOS環境設定ユーティリティを用意しています。DOS環境設定ユーティリティは、システム構築ファイル(CONFIG.SYS)と自動起動ファイル(AUTOEXEC.BAT)をMS-DOSモードで快適にご利用になるための設定を変更します。

Windows 95の起動ドライブのルートディレクトリにCONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATを作成します。既にCONFIG.SYSが存在する場合はそれを更新します。



Windows 95は、従来のWindows 3.XのようにMS-DOSをベースに動作していませんので、CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの設定変更による影響はWindows 95にはありません。

---

### ■ CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATを編集する

CONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATはテキスト形式のファイルなので、[メモ帳]などのテキストエディタで編集/更新することができます。しかし、このDOS環境設定ユーティリティを使用すると、より簡単に編集/更新することができます。

#### ● CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの編集

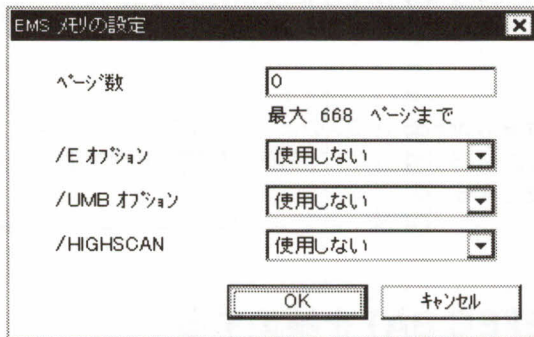
DOS環境設定ユーティリティで、CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATを編集します。

- ①[スタート]メニューの[設定]から[コントロールパネル]を起動します。

- ②[DOS環境]を起動してください。[DOS環境のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。



- ③[設定項目]の[CD-ROM]、[EMSメモリ]、[BREAK]を設定し、[CONFIG.SYSの内容]を変更します。[詳細]ボタンを押すと、[EMSメモリの設定]ダイアログボックスが表示されます。



- ④[ページ数]、[/Eオプション]、[/UMBオプション]、[/HIGHSCAN]を設定した後、[OK]ボタンを押します。
- ⑤編集したい内容を直接入力して設定するには、[編集]ボタンを押してください。[CONFIG.SYSの内容]と[AUTOEXEC.BATの内容]が表示されます。
- ⑥入力した変更内容を有効にするには[保存]ボタンを押してください。[DOS環境のプロパティ]ダイアログボックスに戻ります。
- ⑦今までのCONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの設定を有効にする場合は、[OK]ボタンを押してください。また、元に戻す場合は、[元に戻す]ボタンを押してください。

## ● CONFIG.SYSの設定内容

CONFIG.SYSは、MS-DOSモードで使用するハードウェアの構成やメモリの環境を設定するファイルです。

CONFIG.SYSは、Windows 95の起動するドライブのルートディレクトリに作成されます。CONFIG.SYSの設定項目については、次の通りです。

### ・ CD-ROM

MS-DOSモードで使用するCD-ROMのドライブを組み込みます。次の書式で指定されます。

```
DEVICE=A:¥WINDOWS¥COMMAND¥NECCD.SYS /D:CD_101
```

オプションスイッチ	機 能
/D:CD_101 /L:y	CD-ROMを使用するための指定をします。yはCD-ROMを割り当てるドライブ名です。



MS-DOSモードでCD-ROMを使用するには、CD-ROMドライブを組み込んだ後に、MSCDEX.EXEを実行する必要があります。

<書式例>

```
A:¥WINDOWS¥COMMAND¥MSCDEX.EXE /D:CD_101
```

なお、Windows 95用のCD-ROMドライブがインストールされていなければ、CD-ROMのチェックボックスは選択できません。

### ・ BREAK

プログラムまたは処理の実行を中止する`CTRL`+`C`キーの機能を、ディスクを対象とした読み書き作業などに拡張したり、設定の解除をします。次の書式で指定されます。

```
BREAK=[ ON | OFF ]
```

オプションスイッチ	機 能
ON	プログラムまたは処理の実行を中止する機能を拡張します。
OFF	拡張する設定を解除します。

## ・EMSメモリ

プロテクトメモリをEMSメモリとして使えるようにします。また、コンベンショナルメモリを節約するために、UMBメモリを使用できます。次の書式で指定されます。

DEVICE=A:¥WINDOWS¥EMM386.EXE [RAM | /P=XXX | /E=XXXX-YYYY | /UMB | /HIGHSCAN ]

オプションスイッチ	機 能
RAM	上位メモリの未使用メモリ領域をコンベンショナルメモリのように利用できます。
/P=XXX	使用するページ数を指定します。指定できる範囲は、0～664です。
/E=XXXX-YYYY	UMBとしてアロケートしない範囲を設定します (MS-DOS と同様)。
/UMB	RAM と同等です。
/HIGHSCAN	UMBまたはEMSとして使う上位メモリが使用できるかどうかをチェックするように指定します。

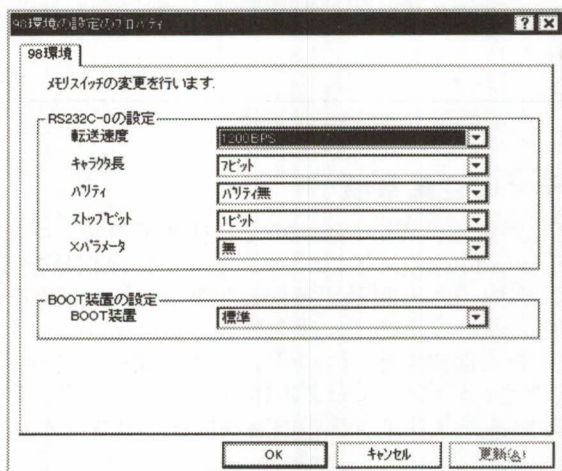
## 4.2 98環境設定ユーティリティ

メモリスイッチの内容を変更/表示します。メモリスイッチとは、コンピュータ本体内の専用メモリに保持されているソフトウェア的なスイッチです。BOOT装置等を変更したいときは、この98環境設定ユーティリティでメモリスイッチの内容を変更してください。

### ● パーソナルコンピュータのシステム環境を設定する

98環境設定ユーティリティで、本機のシステム環境を設定(メモリスイッチの変更)します。

- ①[スタート]メニューの[設定]から[コントロールパネル]を起動します。
- ②[98環境]を起動すると、[98環境の設定のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。



- ③[RS-232Cの設定]の[転送速度]、[キャラクタ長]、[パリティ]、[ストップビット]、[Xパラメータ]と[BOOT装置の設定]の[BOOT装置]を設定します。
- ④設定を有効にする場合は、[OK]ボタンを押してください。変更しない場合は、[キャンセル]ボタンを押してください。

項 目	内 容
[転送速度]	RS-232C の設定で、モデムのデータ転送速度を設定します。複数の速度で通信できるモデムもあるので、モデムのマニュアルを調べて、双方のシステムに使える通信速度を選んでください。
[キャラクタ長]	RS-232C の設定で、2台のコンピュータ間でやり取りされる各データパケットのデータビット数を設定します。
[パリティ]	RS-232C の設定で、転送データのパリティ属性の種類を設定します。
[ストップビット]	RS-232C の設定で、転送データの終了ビット数を設定します。
[Xパラメータ]	RS-232C の設定で、XON/XOFF 制御を設定します。
[BOOT 装置の設定]	システムを起動するディスク装置を指定します。



RS-232CやBOOT装置の設定は、MS-DOSモードのSWITCHコマンドで設定することもできます。次のように入力してください。

SWITCH 

## ●98環境設定ユーティリティの注意事項

- メモリスイッチを変更した後は、Windows 95を一度終了させ、コンピュータを再起動してください([Windowsの終了]で「コンピュータの電源を切れる状態にする」を選択してください)。再起動する際は、Windows 95を終了後、**HELP**キーを押しながら、リセットスイッチを押し、システムセットアップメニューのメモリスイッチを「保持する」(コンピュータ本体のディップスイッチSW2-5をON)にしてください(コンピュータ本体のディップスイッチSW2-5をONにしないと、変更したメモリスイッチの内容は保持されません)。

# 第5章 ハードウェアの利用

本章では、本機添付のボードや別売の周辺機器の利用方法および注意事項について説明します。

## 5.1 サウンド機能を利用する

本機では、本体内蔵のサウンド機能、またはオプションのサウンドボードや周辺機器を増設して、Windows 95上でマルチメディア機能を利用することができます。利用できるマルチメディアの各機能、必要な周辺機器について次の表に示します。

機種	項目	ウェーブフォームデータの録音、再生	MIDIデータの再生	MIDIデータの録音、再生
PC-9821Na12		○	○	○注1
PC-9821Nb10		○	×	△注2

○：本体内蔵のサウンド機能で利用できます。

△：オプション機器の増設で利用できます。

×：利用できません。

**注1** 外部MIDI音源\*を使用する場合はMIDI/JOYSTICK変換ケーブルA/B (PC-9821N-K07、PC-9821N-K08)をプリンタコネクタに接続することにより、利用できます。

**注2** ローランド(株)製Sound Canvas SCP-55などの増設により利用できます

\* 外部MIDI音源は、ローランド(株)製のSC-55、CM-300、CM-500などのGENERAL MIDI規格対応音源の使用を推奨します。



- ・MIDIデータの録音を行うには、別途アプリケーションが必要です。
- ・MIDIデータの再生をFM音源で行う場合、同時に再生できる音の数が限られているため、再生できないデータがあります。
- ・MIDIデータの再生をFM音源で行う場合、外部MIDI音源をつないだ場合よりも音質が悪くなります。
- ・サウンドボード (PC-9801-86) を利用する場合、本体内蔵スピーカーからオーディオCDの音がでなくなります。
- ・98NOTEメニューのマイクボリュームに関する設定は、Windowsでは無効になります。



サウンドボードなどの新しいハードウェアを増設する場合は、[コントロールパネル]の[ハードウェア]アイコンを起動して、ハードウェアのセットアップが必要です。ハードウェアのセットアップについては、「Microsoft Windows 95ファーストステップガイド」を参照してください。

## 5.2 PCカードを利用する

### ■32ビットまたは16ビットPCカードサポートを選択する

Windows 95上でPCカードを使用する方法は、32ビットPCカードサポート(以降、32ビット)と16ビットPCカードサポート(以降、16ビット)の2種類あります。どちらのPCカードサポートを利用するかは、使用するPCカードにより異なります。

- ・ NEC製品のPCカード(PC-9801N-J01を除く)のみを使用する場合  
32ビットPCカードサポート
- ・ 販売元からWindows 95用ドライバが提供されているPCカードを使用する場合  
32ビットPCカードサポート
- ・ 販売元からWindows 95用ドライバが提供されていないPCカード(PC-9801N-J01を含む)を使用する場合  
16ビットPCカードサポート

Windows 95用ドライバの有無は、PCカードの販売元にお問い合わせください。



- ・ 16ビットでPCカードを使用する場合は、ハイパーターミナルなどの32ビットアプリケーションからPCカードを使用できない場合があります。
- ・ 16ビットと32ビットの両方を同時に利用することはできません。

### ■32ビットでPCカードを利用する

#### (1) PCカードを利用するための手順



本機では、購入時に32ビットPCカードサポートに設定されているため、通常は以下の手順は必要ありません。16ビットPCカードサポートから32ビットPCカードサポートに変更する場合に以下の手順を行ってください。

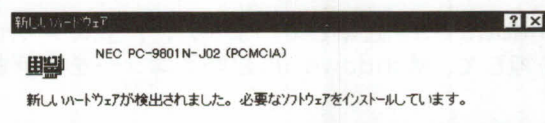
PCカードサポートを16ビットから32ビットに変更する場合は、以下の操作を行ってWindowsのヘルプを参照してください。

- ①Windows 95を起動します。
- ② [スタート] ボタンをクリックしてメニューを表示します。
- ③ [ヘルプ] を起動します。
- ④ [目次] の画面で [トラブルシューティング] を選択します。
- ⑤表示された項目から [PCカード(PCMCIA)に関する問題] を選択します。
- ⑥ [PCカードを挿入しても自動的にインストールされません] を選択します。

以降は、[ヘルプ] の指示にしたがって操作を行うと、32ビットでPCカードをご利用になれます。

## (2)PCカードを初めて使用する

本機にPCカードを挿入すると、次のダイアログボックスが表示され、各PCカードごとに必要な設定が自動的に行われます。



この作業には数十秒かかりますので、設定が終了するまでしばらくお待ちください。

なお、同じPCカードを挿入した場合、2回目以降は上記の画面が表示されません。

## ■16ビットでPCカードを利用する

16ビットでPCカードをご利用になる場合は、「PCカードサポートソフトウェア」をインストールする必要があります。

### (1)PCカードサポートソフトウェアインストールディスクの作成

次の手順であらかじめ「PCカードサポートソフトウェアインストールディスク」(以降「インストールディスク」)を作成して下さい。

以下の手順では、次のものがが必要です。準備しておいてください。

・2HDフロッピーディスク1枚

このフロッピーディスクには、あらかじめ「インストールディスク」と書いたラベルを貼っておいてください。

- ①本機の電源をONにします。「Windows 95を起動しています...」というメッセージが表示されますので、**(F8)**キーを押して、Windows 95起動メニューを表示させます。
- ②Windows 95起動メニューから、「コマンドプロンプトのみ」を選択します。
- ③コマンドプロンプトから次のように入力します。
 

```
CD ¥PCCARD ↵
CPCRCDFG <フロッピーディスクドライブ名>:↵
```
- ④画面に表示されるメッセージにしたがって、フォーマットしてよい2HDフロッピーディスク(「インストールディスク」)をフロッピーディスクドライブにセットしてください。
- ⑤何かのキーを押すと、フロッピーディスクのフォーマットを開始します。フォーマットした後、「インストールディスク」の作成が行われます。
 

なお、インストールの作業を行う前に、「インストールディスク」のREADME.PCCファイルをよくお読みください。

## (2) 「16ビット PCカードサポートソフトウェア」をインストールする

Windows 95上で、WINSTCRD.EXEは使用できません。以下の操作を行ってください。

- ①本機の電源をONにして「Windows 95を起動しています. . .」のメッセージが表示されたら、**[F8]**キーを押して、Windows 95起動メニューを表示させます。
- ②Windows 95起動メニューから、「コマンドプロンプトのみ」を選択します。
- ③「インストールディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。
- ④コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントドライブとディレクトリを「インストールディスク」が挿入されているドライブの「WINDOWS」ディレクトリに変更します。

```
<フロッピーディスクドライブ名>: 
CD ¥ WINDOWS 
```

- ⑤「インストールディスク」にある以下のファイルをWindows 95がインストールされているドライブの「WINDOWS」ディレクトリにコピーします。

```
SSWINCS.DLL      CARDVIEW.EXE   CARDVIEW.HLP
CARDVIEW.INI    CARDTOOL.EXE  CARDTOOL.HLP
WCARDCFG.DAT   SSVRDD.386
```

```
COPY /Y *.* <Windows 95のドライブ名>: ¥WINDOWS 
```

- ⑥コマンドプロンプトから次のように入力して、INSTCARD.EXEを起動し、「PCカードサポートソフトウェア」をインストールします。インストールが終了してもリセットスイッチを押さないでください。

```
CD ¥ 
INSTCARD 
```

- ⑦テキストエディタ(EDIT.EXEなど)を使用して、SYSTEM.INIファイルの[386Enh]セクションに、以下の行を追加します。

SYSTEM.INIファイルは、Windows 95がインストールされているドライブの「WINDOWS」ディレクトリにあります。

```
[386Enh]
```

```
:
```

```
DEVICE=<Windows95のドライブ名>: ¥WINDOWS¥SSVRDD.386 ←この行を追加
```

- ⑧リセットスイッチを押して、システムを再起動させてください。  
「16ビット PCカードサポートソフトウェア」がご利用できます。

PC-9801N-J01/J05を使用する場合は、「(5)16ビットでPC-9801N-J01/J05を利用する」の操作を行ってください。

### (3) 「16ビット PCカードサポートソフトウェア」を削除する



PC-9801N-J01/J05を使用している場合は、この操作を行う前に「(6)「16ビット PCカードサポートソフトウェア」を削除する場合のご注意」の操作を行ってください。

Windows 95上で、WCARDCFG.EXEは使用できません。32ビットでPCカードを利用する設定を行うと、自動的に「16ビット PCカードサポートソフトウェア」は使用できなくなります。「■32ビットでPCカードを利用する」の操作を行ってください。

再度「16ビット PCカードサポートソフトウェア」を利用するときは、「(4)「16ビット PCカードサポートソフトウェア」を登録する」の操作を行います。

### (4) 「16ビット PCカードサポートソフトウェア」を登録する

Windows 95上で、WCARDCFG.EXEは使用できません。以下の操作を行ってください。



「16ビット PCカードサポートソフトウェア」を登録すると、32ビットでPCカードは使用できなくなります。

- ①Windows 95を起動します。
- ② [スタート] ボタンをクリックしてメニューを表示します。
- ③ [ヘルプ] をクリックして [トピックの検索 Windowsのヘルプ] を起動します。
- ④ [キーワード] の画面で「PC」と入力します。
- ⑤表示された項目から「使用できないようにする」を選択します。  
32ビットでPCカードを使用できないようにすると、「16ビット PCカードサポートソフトウェア」が使用できます。

以降は、「Windowsのヘルプ」の指示にしたがって、操作を行うと「16ビット PCカードサポートソフトウェア」がご利用できます。

### (5) 16ビットでPC-9801N-J01/J05を利用する

モデムカード(PC-9801N-J01)とFAXモデムカードセット(PC-9801N-J05)を利用するには、「(2)「16ビット PCカードサポートソフトウェア」をインストールする」の設定を行った後、以下の操作を行ってください。

- ①本機の電源をONにして「Windows 95を起動しています...」のメッセージが表示されたら、**[F-8]**キーを押して、Windows 95起動メニューを表示させます。
- ②Windows 95起動メニューから、「コマンドプロンプトのみ」を選択します。
- ③コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントディレクトリを、Windows 95がインストールされているドライブの「¥WINDOWS¥SYSTEM」ディレクトリに変更します。

CD ¥WINDOWS¥SYSTEM 


- ④「¥WINDOWS¥SYSTEM」ディレクトリにある以下のファイルの名前を変更して、保存しておきます。

COMM.DRV

例「COMM.DRV」のファイル名を「COMM.95」に変更します

REN COMM.DRV COMM.95 

- ⑤「PCカードサポートソフトウェア インストールディスク」（以降「インストールディスク」）をフロッピーディスクドライブにセットします。
- ⑥コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントドライブとディレクトリを「インストールディスク」が挿入されているドライブの「WINDOWS」ディレクトリに変更します。

<フロッピーディスクドライブ名>: 

CD ¥WINDOWS 

- ⑦「インストールディスク」にある以下のファイルを、Windows 95がインストールされているドライブの「¥WINDOWS¥SYSTEM」ディレクトリにコピーします。

COMM.DRV VCD.386 COMBUFF.386 NECCOMM.DRV

COPY COMM.DRV <Windows 95のドライブ名>¥WINDOWS¥SYSTEM 

COPY VCD.386 <Windows 95のドライブ名>¥WINDOWS¥SYSTEM 

COPY COMBUFF.386 <Windows 95のドライブ名>¥WINDOWS¥SYSTEM 

COPY NECCOMM.DRV <Windows 95のドライブ名>¥WINDOWS¥SYSTEM 

- ⑧テキストエディタ(EDIT.EXEなど)を使用して、SYSTEM.INIファイルの[386Enh]セクションを次のように編集します。

SYSTEM.INIファイルは、Windows 95がインストールされているドライブの「WINDOWS」ディレクトリにあります。

```
[386Enh]
:
DEVICE=*VCD
:
```

↓

```
[386Enh]
:
;DEVICE=*VCD
DEVICE=<Windows 95のドライブ名>¥WINDOWS¥SYSTEM¥VCD.386
DEVICE=<Windows 95のドライブ名>¥WINDOWS¥SYSTEM¥COMBUFF.386
```

- ⑨SYSTEM.INIファイルの最後に[DispatchComm]セクションを追加します。
- 追加内容は、ドライブAの「¥WIN31」ディレクトリにあるSYSINI.DATファイルを参照してください。

PC-9801N-J05をCOM4でご使用の場合は、SYSTEM.INIファイルの[DispatchComm]セクションを、次のように修正します。

```
[DispatchComm]
:
COMM4.DRV=<Windows 95のドライブ名>:¥
```



```
[DispatchComm]
:
COMM4.DRV=<Windows 95のドライブ名>:¥WINDOWS¥SYSTEM¥FAXCOMM.DRV
```



FAXCOMM.DRVはPC9801N-J05に添付されています。Windows 95がインストールされているドライブの¥WINDOWS¥SYSTEMにない場合はコピーしておいてください。

⑩再起動後、PC-9801N-J01/J05が有効になります。

## (6) 「16ビット PCカードサポートソフトウェア」を削除する場合のご注意



「(5) 16ビットでPC-9821N-J01/J05を利用する」の手順を行った場合は、「16ビットサポートソフトウェア」を削除する前に、必ず次の手順を行ってください。

- ①本機の電源をONにして「Windows 95を起動しています…」のメッセージが表示されたら[F8]キーを押して、Windows 95起動メニューを表示させます。
- ②Windows 95起動メニューから「コマンドプロンプトのみ」を選択します。
- ③コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントディレクトリを、Windows 95がインストールされているドライブの「¥WINDOWS¥SYSTEM」ディレクトリに変更します。

```
CD ¥WINDOWS¥SYSTEM
```

- ④「¥WINDOWS¥SYSTEM」ディレクトリにある以下のファイルの名前を変更して、保存しておきます。

```
COMM.DRV
```

例 「COMM.DRV」のファイル名を「COMM.31」に変更します

```
REN COMM.DRV COMM.31
```

- ⑤「(5) 16ビットでPC-9801N-J01/J05を利用する」で変更した、以下のファイルの名前を元に戻します。

```
COMM.95
```

例 「COMM.95」のファイル名を「COMM.DRV」に変更します

### REN COMM.95 COMM.DRV

⑥テキストエディタ(EDIT.EXEなど)を使用して、SYSTEM.INIファイルの[386Enh]セクションを次のように編集します。

SYSTEM.INIファイルは、Windows 95がインストールされているドライブの「WINDOWS」ディレクトリにあります。

```
[386Enh]
:
:DEVICE=*VCD
DEVICE=<Windows 95のドライブ名>:¥WINDOWS¥SYSTEM¥VCD.386
DEVICE=<Windows 95のドライブ名>:¥WINDOWS¥SYSTEM¥COMBUFF.386
```

↓

```
[386Enh]
:
:DEVICE=*VCD
:
```

## 5.3 ジョイスティックを利用する

PC-9821Na12に関連する内容です

本機ではジョイスティックポートを標準で装備しています。別売のジョイスティックを接続することにより、Windows 95上でジョイスティックが利用できます。

なお、本機のジョイスティックポートは、サウンドボード(PC-9801-26、PC-9801-73、PC-9801-86)のジョイスティックポートとの互換性はありません。

また、ジョイスティックを使用する場合は、MIDI/JOYSTICK変換ケーブルA/B(PC-9821N-K07、PC-9821N-K08)をプリンタコネクタに接続することにより、利用できます。

ジョイスティックの設定を変更する場合は、[コントロールパネル]の[ジョイスティック]を起動して設定してください。

## 5.4 ドッキングステーション、および拡張バス変換コネクタを利用する

PC-9821Na12に関連する内容です。

### ●PCカードサポートソフトウェアの使用についてのご注意

本機でドッキングステーション(PC-9821N-U04/U05)、または拡張バス変換コネクタ(PC-9821N-U07)を利用する場合、PCカードサポートソフトウェアの使用方法については、必ず本機添付の「PCカードサポートソフトウェアマニュアル」を参照してください。同名のマニュアルが上記製品にも添付されていますが、内容が一部異なります。

## 5.5 周辺機器用のドライバを利用する

本機には、周辺機器を利用する際に必要なドライバが添付されています。ドライバは以下の場所に、種類に応じて分類し、格納しています。

Windows 95がインストールされているハードディスク(Aドライブ)の  
[DRIVERS] [DRIVERS2] フォルダ

ドライバの機能やセットアップ方法およびお問い合わせ先については、各ドライバのREADMEファイルをご覧ください。

---

# 第6章 インターネットの利用

---

本章では、本機でインターネットを利用する方法や注意事項について説明します。



FAXモデム内蔵モデルをお使いの場合は、この章を読む必要はありません。FAXモデム内蔵モデル添付の「インターネットスタートガイド」を参照して、インターネットをご利用ください。

---

---

## 6.1 インターネット接続の設定をする

### ■接続するための準備

本機でインターネットに接続するには、次の準備が必要です。

#### ・モデムの準備

本機でインターネットを利用するには別売のモデムやモデムカード（以降、モデム）が必要です。また、Windows 95でモデムが使えるように設定する必要があります。モデムの設定方法については、「モデムを設定する」で説明します。

#### ・プロバイダとの契約

プロバイダとは、インターネットにあなたのコンピュータをつなげてくれる会社です。あなたのコンピュータはプロバイダを通じてインターネットと接続されます。プロバイダと契約すると、プロバイダからインターネット接続に必要な情報（IPアドレス、電子メールアドレスなど）を入手できます。

プロバイダは、それぞれ独自のサービス内容や料金体系をもっています。ご利用状況に合ったプロバイダと契約してください。

なお、本機にはNECのプロバイダ「mesh」と簡単に契約するためのソフト「meshオンラインサインアップ」が用意されています。「meshオンラインサインアップ」については、「NECのインターネットサービス「mesh」と契約する」で説明します。

## ■モデムを設定する

### (1)モデムを接続する

本機とモデム、モデムと電話回線を接続します。接続方法については、「ガイドブック」およびモデムに添付のマニュアルを参照してください。

### (2)モデムを設定する

Windows95でモデムが使えるように設定します。

- ①本機の電源をONにして、Windows 95を起動します。



モデムカードをお使いの場合は、本機でPCカードを使うように設定する必要があります。くわしくは、「第5章 ハードウェアの利用」およびカード添付のマニュアルを参照してください。

- ② [スタート] メニューの [設定] から [コントロールパネル] を起動します。
- ③ [コントロールパネル] から [モデム] を起動します。
- ④ [モデムウィザード] が起動します。画面の指示にしたがって、お使いのモデムを設定してください。
- ⑤ [モデムウィザード] の途中で [所在地情報] 画面が表示された場合は次の設定をします。
  - ・国番号：リストから「日本(81)」を選択します。
  - ・市外局番：住んでいる場所の市外局番を入力します。
  - ・外線発信番号：特に設定する必要はありません。
  - ・ダイヤル方法：プッシュホン回線の場合は「トーン」を、ダイヤル回線の場合は「パルス」を選択します。
- ⑥ 「モデムは正常にセットアップされました」の画面が表示されたら、[完了] ボタンを選択してください。  
再起動するかどうかのメッセージが表示された場合は、[はい] ボタンを選択して、Windowsを再起動してください。

## ■NECのインターネットサービス「mesh」と契約する

ここでは、「meshオンラインサインアップ」でのオンラインサインアップの方法について説明します。



mesh以外のプロバイダと契約する場合は、ここで説明している手順を行う必要はありません。プロバイダと契約し、各種情報を入手したら、「接続するための設定を行う～インターネットセットアップウィザード」に進んでください。

### (1)オンラインサインアップの準備

あなたのコンピュータから、回線を使って、NECのプロバイダ「mesh」と契約する方法をオンラインサインアップといいます。

オンラインサインアップは、次の条件を満たしている方に限らせていただきます。

- ・18歳以上の方
- ・本人名義のクレジットカードでmesh利用料金が決済できる方  
使用できるカードは以下のものです。  
VISA JCB DC UC 日本信販 MC AMEX ダイナース オリエント 地方銀行発行のクレジットカード
- ・mesh契約約款に同意される方



次の場合には、本機添付の「meshウェルカムキット」の裏面の契約申込書に必要事項に記入の上、お申し込みください。

- ・18歳未満の方
- ・本人名義のクレジットカードをお持ちでない方
- ・オンラインサインアップがうまくいかなかった方

オンラインサインアップの前に次のものを準備してください。

- ・クレジットカード（本人名義のもの）
- ・本機に添付の「meshウェルカムキット」
- ・メモと筆記用具

### (2)オンラインサインアップの起動

- ① Windows 95を起動します。
- ② [スタート]メニューから[プログラム]をポイントし、[コミュニケーション]にある[mesh オンラインサインアップ]を選択します。  
[mesh オンラインサインアップ]が起動します。
- ③ 画面のメッセージをよくお読みになったあと、[継続]ボタンをクリックしてください。
- ④ 「最新の契約約款、利用料金表、サービス内容をご覧ください」というメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックしてください。

meshに関する次の情報が表示されます。

- ・ 契約約款 「C&Cインターネットサービス契約約款」が表示されます。
- ・ 利用料金表 meshでの料金体系が表示されます。
- ・ サービス内容 meshが提供するサービス内容です。
- ・ アクセスポイント meshに接続するためのアクセスポイント（電話をかける場所）の一覧です。最寄りのアクセスポイントの電話番号をあらかじめメモしておいてください。

それぞれの情報を表示するには、各情報のタブをクリックします。各画面で画面のスクロールボタンをクリックすると文章の上下の内容が表示されます。よくお読みください。



「最新表示」ボタンをクリックすると、「通信設定」の画面が表示されます。お使いのモデムに関する各項目を入力して、「設定終了」ボタンをクリックすると、meshと通信して、最新の情報を入手できます。

### (3)各種情報項目の入力・設定

#### ・ サインアップの開始

- ①各種の情報を読み終えたら、「サインアップ開始」ボタンをクリックします。
- ②次の画面が表示されます。

この画面で、サインアップのための次の情報を入力します。

- ・ 個人情報
- ・ カード情報や使用機種
- ・ 回線・メールアカウント
- ・ 通信設定

次の項目に移るには、その項目をマウスでクリックするか、または、キーボードの **TAB** キーを押してください。

#### ・ 個人情報

氏名、住所、電話番号などを入力します。

画面下部のガイドにしたがって、すべての項目を入力してください。すべて入力したら、[カード情報等] タブをクリックします。

#### ・ カード情報等の入力

カード情報や入会方法、使用機種などを入力します

画面下部のガイドにしたがって、すべての項目を入力してください。

なお、「入会方法」は以下のように設定します。

- ・ 会員種別：リストから優待会員を選択します
- ・ 優待会員用ID：添付の「meshウェルカムキット」を参照して、IDを半角で入力します。
- ・ パスワード：添付の「meshウェルカムキット」を参照して、IDを半角で入力します。

すべて入力したら、[回線・メールアカウント] タブをクリックします。

#### ・ 回線・メールアカウントの入力

回線・メールアカウントを入力します。

画面下部のガイドにしたがって、すべての項目を入力してください。

すべて入力したら、[通信設定] タブをクリックします。

#### ・ 通信設定の入力

通信する際のモデム設定を入力します。

モデムのポートや回線の種別、通信速度などを、お使いのモデムに合わせて設定してください。また、モデムコマンドは、ほとんどの場合、既定値のままで動作可能ですが、正常に動作しない場合は、モデムに添付のマニュアルを参照して設定してください。

#### ・ 設定の終了

すべての項目を入力したら、[設定終了] ボタンをクリックします。

#### ・ 契約約款同意の再確認

[mesh契約約款同意の再確認] 画面が表示されます。契約約款に同意する場合は [はい] ボタンをクリックします。

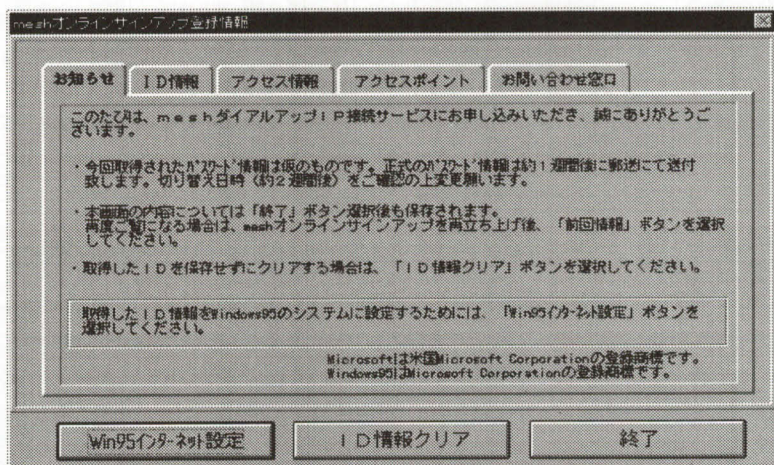
通信状態画面が表示されますので、しばらくお待ちください。

## (4)情報の入手

インターネット接続に必要な情報を入手します。

- ①しばらくすると[各種情報表示]画面が表示されますので[OK]ボタンをクリックしてください。

meshに関する各種情報が表示されます。



この画面は、オンラインサインアップ終了後に[mesh オンラインサインアップ]を再起動して、[前回情報]ボタンをクリックしても表示されます。



[ID情報クリア]ボタンをクリックとオンラインサインアップで入手した情報をハードディスクから削除してしまいます。このボタンは、あなたの個人情報やIDなどを第三者に見られないようにするためのものです。不用意にクリックしないよう注意してください。また、このボタンを使用する場合は、使用前に、ID情報などをメモしておいてください。

- ② [ID情報] タブをクリックし、[登録情報]に表示されている次の内容をメモしてください。

- ・「ユーザー名」
- ・「パスワード」
- ・「メールアドレス」
- ・「メールパスワード」

- ③ [アクセス情報] タブをクリックし、表示されている次の内容をメモしてください。

- ・ Domain Name Server  
"/" (スラッシュ)で区切られて2つ分表記されています。
- ・ Mail Server(MailGateway)

- ④ [アクセスポイント] タブをクリックし、表示されている次の内容をメモしてください。

- ・ 最寄りのアクセスポイントの電話番号

## (5) オンラインサインアップの終了

これでオンラインサインアップは終了です。

次にインターネットに接続するための設定を行います。

表示されている画面で [Win95インターネット設定] ボタンをクリックすると、[インターネットセットアップウィザード] が起動します。

「接続するための設定を行う～インターネットセットアップウィザード」に進んでください。

## ■接続するための設定を行う～インターネットセットアップウィザード

meshのオンラインサインアップなどで、プロバイダから必要な情報を入手したら、インターネットに接続するための設定を行います。設定は [インターネットセットアップウィザード] で行います。

### 準備するもの

[インターネットセットアップウィザード] では次の情報が必要になります。これらの情報はプロバイダと契約すると、プロバイダから提供されます。あらかじめ用意しておいてください。

- ・ プロバイダの名前
- ・ プロバイダのアクセスポイントの電話番号
- ・ あなたのID (ユーザー名) とパスワード
- ・ DNSサーバーアドレス
- ・ 電子メールのアドレスおよびメールサーバーのアドレス

### ●インターネットセットアップウィザードの起動

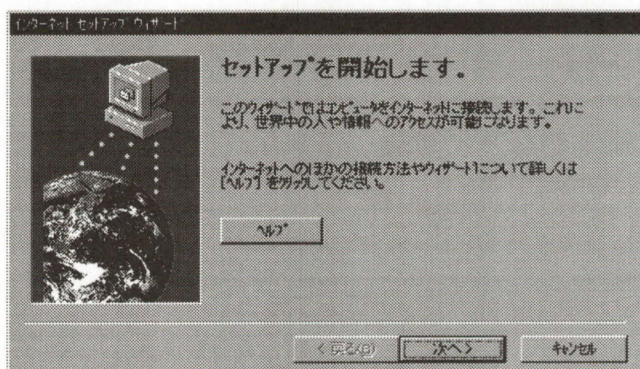
- ① Windows 95を起動します。
- ② [スタート] メニューから [プログラム] をポイントし、[アクセサリ] の [インターネットツール] にある [インターネットセットアップウィザード] をクリックします。



[mesh オンラインサインアップ] から [インターネットセットアップウィザード] を起動するには、次の手順で行います。

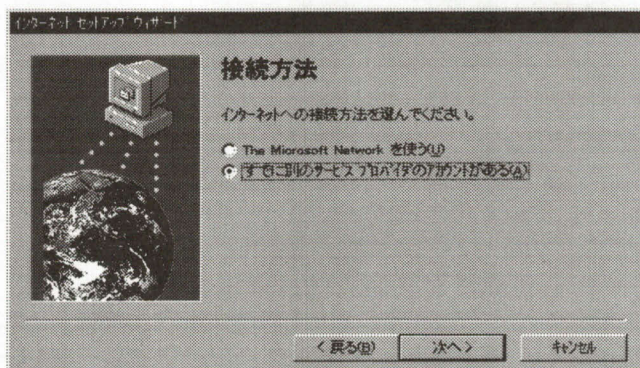
- ① [mesh オンラインサインアップ] の [mesh オンラインサインアップ登録情報] 画面で、[Win95インターネット設定] ボタンをクリックします。
- ② [Win95インターネット設定] 画面が表示されます。内容をよくお読みください。接続するための設定を行う場合は [OK] ボタンをクリックします。

- ③ [インターネットセットアップウィザード] が起動します。[次へ] ボタンをクリックしてください。

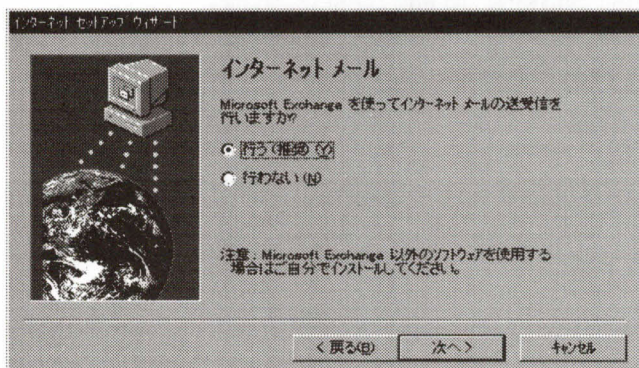


これ以降で、前の画面に戻って設定を変更したい場合は、[戻る] ボタンをクリックしてください。

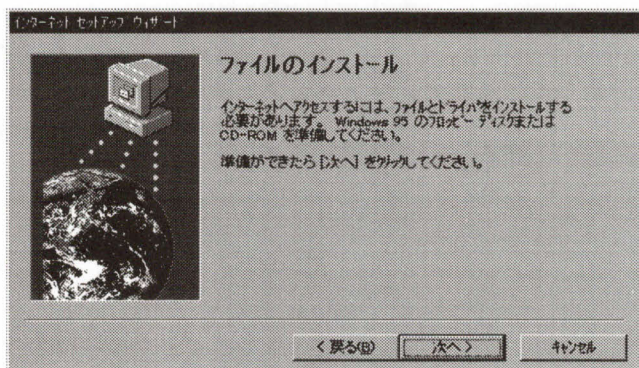
- ④ [接続方法] 画面が表示されます。ここで [すでに別のサービスプロバイダのアカウントがある] を選択して、[次へ] ボタンをクリックします。



- ⑤ [インターネットメール] の画面が表示されます。ここでMicrosoft Exchangeを使ってインターネットメールの送受信を行う場合は[行う(推奨)]を選択します。[次へ] ボタンをクリックします。



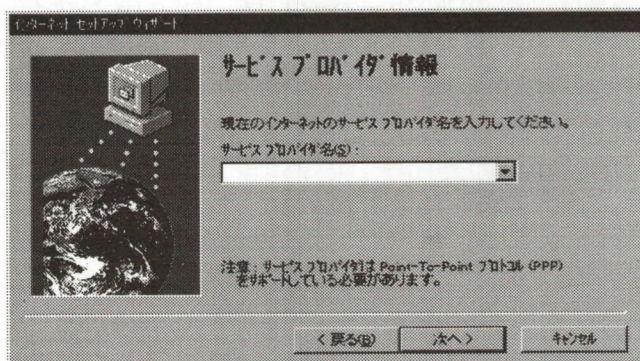
- ⑥ [ファイルのインストール] 画面が表示されます。そのまま[次へ] ボタンをクリックしてください。ファイルのインストールがはじまります。



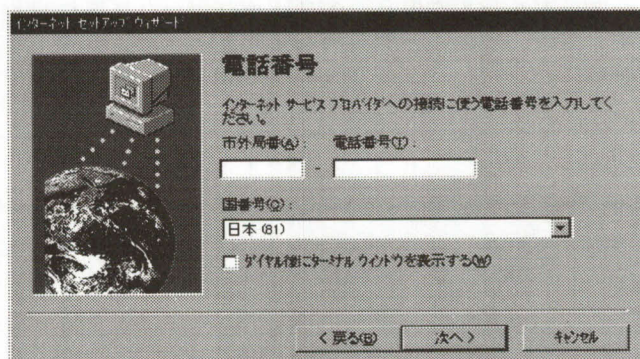
[ファイルのインストール] 画面は、必要なファイルがすでにインストールされている場合は表示されません。

- ⑦ [モデムの選択] 画面が表示された場合は、下矢印ボタンをクリックして、お使いのモデムを選択してください。選択したモデムが表示されているのを確認して、[次へ] ボタンをクリックします。

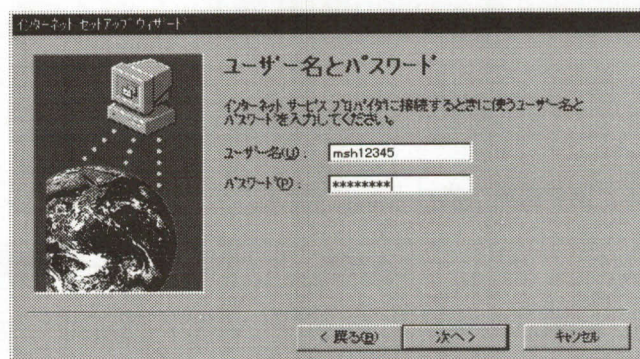
- ⑧ [サービスプロバイダ情報] 画面が表示されたら、ご利用のプロバイダの名称を入力してください。入力したら [次へ] ボタンをクリックします。



- ⑨ [電話番号] の画面が表示されたら、契約しているプロバイダのアクセスポイントの電話番号を、市外局番と市内局番に分けて入力します。また、[国番号] には「日本」を選択します。入力したら、[次へ] ボタンをクリックします。



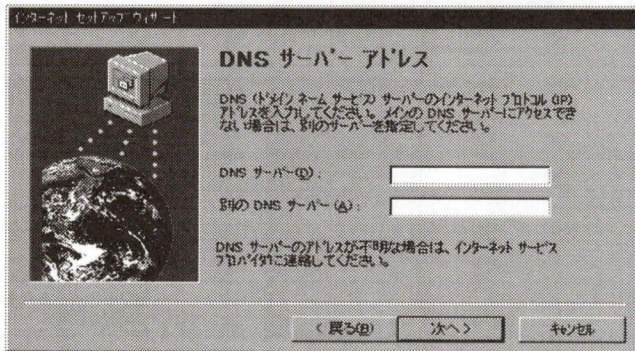
- ⑩ [ユーザー名とパスワード] 画面が表示されたら、プロバイダから提供されたあなたのID (ユーザー名) とパスワードを入力してください。入力したら、[次へ] ボタンをクリックします。



(画面のユーザー名は架空のものです。)

- ⑪ [IPアドレス]画面が表示されたら、[インターネットサービスプロバイダが自動的に割り当てる]が選択されていることを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

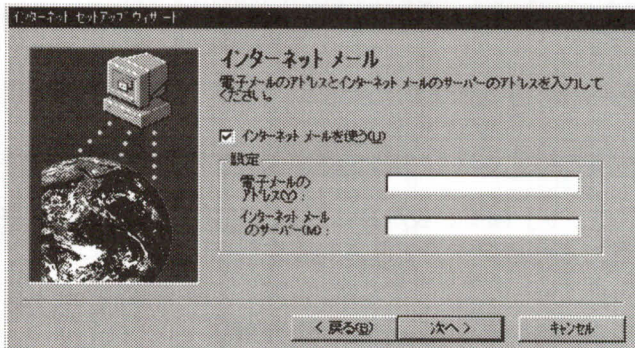
- ⑫ [DNSサーバーアドレス] 画面が表示されたら、プロバイダから指定されたDNSサーバーのIPアドレスを入力してください。[meshオンラインサインアップ]でサインアップした場合は、[別のDNSサーバー]には、オンラインサインアップで入手したDomain Name Serverの2つ目のアドレスを入力します。



- ⑬ [インターネットメール] 画面が表示されます。インターネットメールを利用する場合は [インターネットメールを使う] のチェックボックスをクリックして、チェックをつけます。また、次のことを入力します。

[電子メールのアドレス] : プロバイダから提供されたメールアドレス]

[インターネットメールのサーバー] : プロバイダから提供されたメールサーバーのアドレス



入力したら、[次へ] ボタンをクリックします。

- ⑭ [Exchangeのプロファイル] 画面が表示された場合は、そのまま [次へ] ボタンをクリックします。
- ⑮ [セットアップ完了] 画面が表示されます。[完了] ボタンをクリックしてください。
- ⑯ これで設定は完了です。「Windowsを再起動します」のメッセージが表示された場合は、[はい] ボタンをクリックしてください。  
Windowsが自動的に再起動します。

これでインターネットに接続するための設定が完了しました。次にインターネットに実際に接続します。



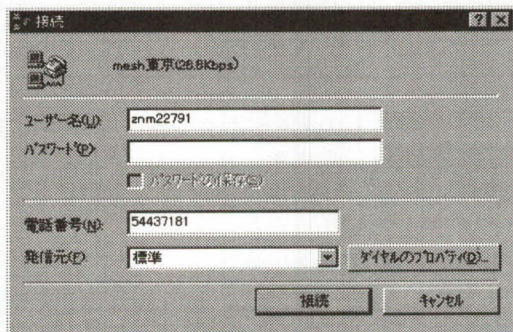
一度、[インターネットセットウィザード]で設定を行っている場合、[Windowsを再起動します]のメッセージは表示されません。

## 6.2 インターネットに接続する

インターネットに接続するための設定が完了したら、実際に接続してみましょう。ここではインターネットに接続して、NECのホームページを見ます。

### (1) インターネットエクスプローラの起動

- ① [スタート]メニューから[プログラム]をポイントし、[アクセサリ]の[インターネット ツール]にある[インターネットエクスプローラ]をクリックします。または、デスクトップにある[インターネット]をダブルクリックします。[インターネットエクスプローラ]が起動して、[接続]画面が表示されます。



ダイヤルのプロパティの設定を1度も行っていない場合は、ここで[ダイヤルのプロパティ]ボタンをクリックします。

- ・ [所在地情報]画面が表示された場合は、[国番号]に「日本」を、[市外局番]に、ご自分の市外局番を入力し、[OK]ボタンをクリックします。
- ・ [ダイヤルのプロパティ]画面が表示された場合は、画面に表示されている内容が正しいかどうか確認して、[OK]ボタンをクリックします。
- ・ [ダイヤルのプロパティ]の画面が[インターネットエクスプローラ]の画面の後ろにかくれて、見えなくなった場合は、タスクバーに表示されている[接続]をクリックしてください。

- ② [接続]画面で、パスワードを入力してください。入力したら、[接続]ボタンをクリックします。

しばらくすると接続が完了し、NECのホームページが表示されます。

以降は、マウスポインタが手の形になるところをクリックすれば、いろいろなページが表示されます。インターネットをお楽しみください。




Windows 95起動時に[Windowsパスワードの入力]画面が表示されない場合、および表示されてもユーザ名、パスワードを入力しないで使用している場合は、[接続]画面の[パスワードの保存]チェックボックスは選択できません。本機では購入時には[Windows 95パスワード]の画面は表示されないようになっているため、インターネットに接続する際の[接続]画面の[パスワードの保存]チェックボックスは選択できません。[Windowsパスワードの入力]画面の設定については、「[パスワード保存]チェックボックスを有効にする」を参照してください。



インターネットエクスプローラのくわしい使い方については、インターネットエクスプローラのヘルプを参照してください。

## (2)インターネットエクスプローラの終了（接続の終了）

ここでは、インターネットエクスプローラの終了方法と、接続の終了について説明します。

- ① [インターネットエクスプローラ] の右上の  ボタンをクリックします。  
[インターネットエクスプローラ] が終了します。
- ② [切断] 画面が表示されますので、[はい] ボタンをクリックします。  
接続が終了しました。

## ■ [パスワードの保存] チェックボックスを有効にする

Windows 95起動時に [Windows 95パスワードの入力] 画面が表示されない場合、および表示されてもユーザ名とパスワードを設定していない場合は、インターネットに接続する際の [接続] 画面の [パスワードの保存] チェックボックスは選択できません。本機では、ご購入時には [Windows 95パスワードの入力] の画面は表示されないようになっていますので、インターネットに接続する際の [接続] 画面の [パスワードの保存] チェックボックスは選択できません。



[Windows 95パスワードの入力] の画面が表示されない場合は、[コントロールパネル] の [ネットワーク] でネットワークコンポーネントの設定を行うと、[Windows 95パスワードの入力] の画面が表示されるようになります。

また、表示されてもユーザ名とパスワードを設定していない場合は、次の手順で、[Windows 95パスワードの入力] の設定をしてください。

- ① Windows 95を起動します。
- ② [Windowsパスワードの入力] 画面が表示されたら、[ユーザー名] に名前を入力します。  
また、[パスワード] を指定する場合は、パスワードを入力します。



パスワードは特に指定する必要はありません。また、ここで入力するパスワードはプロバイダから入手したパスワードとは関係がありません。  
パスワードを指定した場合は、Windows 95を起動するたびに、パスワードの入力画面が表示されますので、パスワードを忘れないようにしてください。

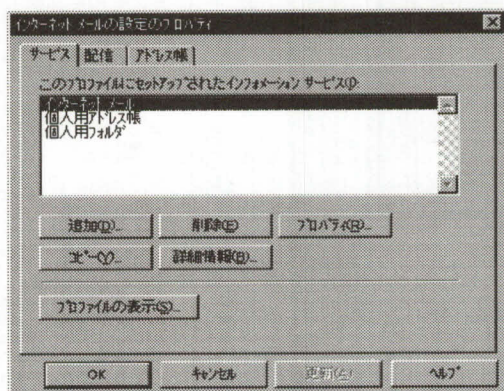
- ③ [Windows パスワードの入力]画面で[OK]ボタンをクリックします。
- ④ 「パスワードをもう一度入力してください」のメッセージが表示されます。  
手順②でパスワードを指定した場合は、もう一度入力して[OK]ボタンをクリックします。  
手順②でパスワードを指定しなかった場合は、そのまま[OK]ボタンをクリックします。  
これで、[接続]画面で、[パスワードの保存]チェックボックスが選択できるようになります。

## ■メールを使うための設定を行う



本機でインターネットメールを使用するには、インターネットセットアップウィザードでインターネットメールを使うよう設定する必要があります。

- ① [スタート]メニューの[設定]にある[コントロールパネル]をクリックします。
- ② [コントロールパネル]から[メールとファックス]をダブルクリックして起動します。
- ③ [インターネットメールの設定のプロパティ]画面で[インターネットメール]を選択して、[プロパティ]ボタンをクリックします。



- ④ [インターネットメール] の [全般] 画面で次のことを入力します。

- ・フルネーム……半角のローマ字であなたの名前を入力します
  - ・パスワード……プロバイダから提供されたメールパスワードを入力します。
- その他の項目は、インターネットセットアップウィザードで設定した内容が入力されていますが、正しく入力されていない場合は、入力しなおしてください。

- ⑤ [接続] タブをクリックして、表示された画面で次の確認をします。

- ・ [モデムを使用して接続] にチェックが付いていること
  - ・ [ダイヤル時に使用する接続] にインターネットセットアップウィザードで選択した接続先が入力されていること
  - ・ [オフラインにして、リモートメールを使用] にチェックが付いていること
- 設定されていない場合は正しく設定しなおしてください。

- ⑥ [OK] ボタンをクリックします。

- ⑦ [インターネットメールの設定のプロパティ] 画面で、[OK] ボタンをクリックします。

メールを使うための設定が完了しました。

メールの送受信はMicrosoft Exchangeを使用します。Microsoft Exchangeを起動するには、デスクトップの[受信トレイ]をダブルクリックしてください。



Microsoft Exchangeのくわしい使い方については、Microsoft Exchangeのヘルプを参照してください。

---



## 第2部

# 他のソフトウェアを利用する

Windows3.1、MS-DOSやOS/2など、別売のソフトウェアを本機で利用するために必要な知識や注意事項について説明しています。

**第1章 MS-DOSを利用する**

**第2章 Windowsを利用する**

**第3章 OS/2を利用する**

**第4章 その他のソフトウェアを利用する**

---

# 第1章 MS-DOSを利用する

---

本章では、別売のMS-DOSを本機でご利用になる場合の設定や、アップグレードの手順について説明します。

---

## 1.1 MS-DOS 6.2/5.0Aの利用

ここでは本機で別売の「MS-DOS6.2」、および「日本語MS-DOS5.0A」(以降MS-DOS 5.0A)を利用する場合に必要なアップグレードの手順について説明します。



Windows 95がインストールされている領域およびMS-DOSをインストールする領域が圧縮されている場合は、その領域を展開してからインストールやアップグレードを行ってください。

Windows 95がインストールされている領域を解放して、MS-DOSをインストールする場合は、領域を解放する前に作業が必要となります。後述の〈参考〉を参照してください。ただし、MS-DOS 6.2およびMS-DOS 5.0A以外のソフトウェアをアップグレードする場合は、Windows 95の領域を解放しないでください。

---

本機で別売のMS-DOS6.2およびMS-DOS5.0Aを利用するには、必ず次の手順でアップグレードを行ってください。

- (1)システムディスクのアップグレード
- (2)インストールしたMS-DOSのアップグレード

ここでは、これらの手順について詳しく説明します。

### (1)システムディスクのアップグレード

以下の手順では、次のものがが必要です。準備しておいてください。

- ・インストールを行うバージョンの「システムディスク」(別売)
- ・2HDフロッピーディスク1枚



Windows 95の領域を解放して、MS-DOSをインストールする場合は、別途フロッピーディスクが必要となります。その際は指示にしたがって用意してください。詳しくは後述の〈参考〉を参照してください。

---

はじめに、「MS-DOSx.xxシステムディスク#1」に対してアップグレードを行います。万一のアクシデントに備えて、システムディスクの複製を作成し、複製に対してアップグレードを行います。

①本機の電源をONにして、「Windows 95を起動しています...」のメッセージが表示されたら、キーボードの[F8]キーを押してWindows 95起動メニューを表示させます。

②Windows 95起動メニューから「コマンドプロンプトのみ」を選択します。

③FORMATコマンドを使って、あらかじめ用意しておいた2HDフロッピーディスクを初期化します。

用意した2HDフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセット後、コマンドプロンプトから次のように入力し、1.25Mバイトでフォーマットします。〈ドライブ名〉には、あらかじめ用意しておいた2HDフロッピーディスクをセットしたフロッピーディスクドライブを指定します。

```
FORMAT <ドライブ名>: /U /M [F8]
```

このフロッピーディスクには、「アップグレード済みシステムディスク#1」と書いたラベルを貼っておいてください。

④DISKCOPYコマンドを使って「システムディスク#1」の複製を作成します。

複製はあらかじめ用意した「アップグレード済みシステムディスク#1」に作成します。

DISKCOPYコマンドの使用方法はコマンドプロンプトで次のように入力して、確認してください。

```
DISKCOPY /? [F8]
```

⑤フロッピーディスクドライブに「アップグレード済みシステムディスク#1」をセットします。

⑥コマンドプロンプトから次のように入力し、アップグレードを実行します。

〈ドライブ名〉には「アップグレード済みシステムディスク#1」をセットしているドライブ名を指定します。

・MS-DOS6.2をアップグレードする場合

```
CD ¥DOS62 [F8]
```

```
UPDOS62 <ドライブ名>: [F8]
```

・MS-DOS5.0Aをアップグレードする場合

```
CD ¥DOS50A [F8]
```

```
UPDOS50A <ドライブ名>: [F8]
```

⑦「アップグレード済みシステムディスク#1」を使って、ハードディスクまたはフロッピーディスクへのインストールを行います。

MS-DOSのインストール方法については、各バージョンのMS-DOSのマニュアルをご覧ください。



「アップグレード済みシステムディスク#1」はこのディスクを作成した環境でのみ使用できます。CD-ROMドライブなどのハードウェア構成を変更すると、正常にMS-DOSをインストールできない場合がありますので、最初からアップグレードをやりなおしてください。

## (2)インストールしたMS-DOSのアップグレード

引き続き、「アップグレード済みシステムディスク#1」を使ってインストールしたMS-DOSを再度アップグレードします。

- ①MS-DOSをインストールしたハードディスク、またはフロッピーディスクから起動します。

DOSシェルの画面が表示された場合は、キーボードの **[F3]** キーを押して終了してください。

- ②コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントドライブをWindows95がインストールされているハードディスクのドライブに変更します。

〈ドライブ名〉にはWindows95のドライブを指定してください。

〈ドライブ名〉:

- ③コマンドプロンプトから次のように入力し、カレントディレクトリを変更した後、アップグレードを実行します。

〈ドライブ名〉にはMS-DOSをインストールしたドライブを指定します。

ハードディスクにインストールした場合はディレクトリ名も指定してください。

・MS-DOS6.2をアップグレードする場合

- ・フロッピーディスクにインストールした場合

CD ¥DOS62

UPDOS62 〈ドライブ名〉:

- ・ハードディスクにインストールした場合

CD ¥DOS62

UPDOS62 〈ドライブ名〉: ¥[ディレクトリ名]

・MS-DOS5.0Aをアップグレードする場合

- ・フロッピーディスクにインストールした場合

CD ¥DOS50A

UPDOS50A 〈ドライブ名〉:

- ・ハードディスクにインストールした場合

CD ¥DOS50A

UPDOS50A 〈ドライブ名〉: ¥[ディレクトリ名]

- ④アップグレードが終了したら、再起動してアップグレードしたMS-DOSをお使いください。

なお、MS-DOS 5.0Aで本機の内蔵CD-ROMドライブを使用する場合は、「1.3 MS-DOS 5.0Aでの本機内蔵CD-ROMドライブの使用」をご覧ください。CD-ROMドライブの設定を行ってください。

## ●参考 Windows 95の領域を解放してMS-DOSをインストールする

ここでは別売のMS-DOSをWindows 95がインストールされている領域を解放してインストールする場合の手順について説明します。

別売のMS-DOSをWindows 95がインストールされている領域を解放してインストールするには、必ず次の手順で行ってください。

### 1. システムディスクのアップグレード

アップグレードに必要なファイルのバックアップ、および「CD-ROM Extensions アップグレードディスク」の作成を行います。「CD-ROM Extensions アップグレードディスク」はMS-DOS 5.0Aで本機内蔵のCD-ROMドライブを使用する場合に必要です。



MS-DOS 5.0Aで本機内蔵のCD-ROMドライブを使用する場合は、別売の「日本語MS-DOS CD-ROM Extensions」が必要です。

MS-DOSでフォーマット済みの2HDフロッピーディスクが必要です。

- ・MS-DOS 6.2、またはMS-DOS 5.0Aをインストールする場合 : 2枚
- ・MS-DOS 5.0Aで本機内蔵のCD-ROMドライブをお使いになる場合 : 1枚

次に手順を説明します。

- ① 「(1)システムディスクのアップグレード」の手順①～⑥を行います。
- ② フロッピーディスクドライブに用意したフロッピーディスクをセットし、コマンドプロンプトから次のように入力します。  
 〈ドライブ名〉にはフロッピーディスクをセットしたドライブを指定します。画面の指示にしたがってフロッピーディスクを入れ替えてください。

- ・MS-DOS6.2をインストールする場合

CD ¥DOS62   
 FBACK62 <ドライブ名>:

- ・MS-DOS5.0Aをインストールする場合

CD ¥DOS50A   
 FBACK50A <ドライブ名>:

MS-DOS 5.0Aで本機内蔵のCD-ROMドライブをお使いになる場合は、さらに次のように入力します(別売の「CD-ROM Extensions」が必要になります)。

CD ¥CDEX 

MAKECFD <ドライブ名>: 

作成したフロッピーディスクに「CD-ROM Extensionsアップグレードディスク」と書いたラベルを貼ります。

- ③ 「(1)システムディスクのアップグレード」の手順⑦を行います。

## 2. インストールしたMS-DOSのアップグレード

引き続き、「アップグレード済みシステムディスク#1」を使ってインストールしたMS-DOSを再度アップグレードします。

- ①MS-DOSをインストールしたハードディスクから起動します。

DOSシェルの画面が表示された場合は、キーボードの **F3** キーを押して終了させます。


- ②フロッピーディスクドライブに「1. システムディスクのアップグレード」の手順②で作成した「バックアップディスク#1」をセットします。

- ③コマンドプロンプトから次のように入力し、カレントドライブを「バックアップディスク#1」をセットしたドライブに変更して、アップグレードに必要なファイルをハードディスクにリストアします。

<ドライブ名1>にはフロッピーディスクのドライブを、<ドライブ名2>にはMS-DOSをインストールしたドライブ名を入力します。

- ・MS-DOS6.2をインストールした場合

<ドライブ名1>: 

FBACK62 <ドライブ名2>: 

<ドライブ名2>: 

- ・MS-DOS5.0Aをインストールした場合

<ドライブ名1>: 

FBACK50A <ドライブ名2>: 

<ドライブ名2>: 

- ④以降は、「(2) インストールしたMS-DOSのアップグレード」の手順③以降を行います。

## 1.2 MS-DOS 6.2での複数台CD-ROMドライブの利用

MS-DOS 6.2上でCD-ROMドライブを複数台同時に使用することができます。ここでは、CD-ROMドライブの複数台接続の設定方法や注意事項を説明します。



次のCD-ROMドライブを接続している場合は、複数台接続の設定はできません。

- ・ 弊社製以外のCD-ROMドライブ
- ・ PC-ODX
- ・ PC-CD60/7



MS-DOS 6.2上で接続できるCD-ROMドライブはSCSI接続が4台まで、CD-ROMドライブベイのCD-ROMドライブを合わせた、最大5台までです。

### ●CD-ROMドライブの複数台接続の設定

CD-ROMドライブの複数台接続の設定は、INSTCDコマンドを使用して行います。INSTCDコマンドは、起動ドライブのCONFIG.SYSファイルとAUTOEXEC.BATファイルにCD-ROMの複数台接続の設定を自動的に行います。

INSTCDコマンドを使用するには、次の条件が全て満たされている必要があります。

- ・ 1台目のCD-ROMドライブが使用可能な設定になっている。
- ・ ハードディスクにインストールされているMS-DOS 6.2から起動している。
- ・ MS-DOS 6.2がインストールされているディレクトリが、環境変数DOSDIRに正しく設定されている。
- ・ AUTOEXEC.BATファイルの中のMSCDEX行のパラメータ「/L:」で指定したドライブ番号が、増設するCD-ROMドライブのドライブ番号を連続して確保できる設定になっている。

INSTCDコマンドを実行するには、コマンドプロンプトから次のように入力します。

```
INSTCD [↵]
```



INSTCDコマンドはWindowsのMS-DOSプロンプトおよびDOSシェルからは実行できません。



ネットワークドライブが存在する場合や、SUBSTコマンドなどで設定した仮想ドライブが存在する場合、INSTCDコマンド実行後に以下の現象が起こることがあります。

- ・ネットワークドライブが使用できなくなる
- ・SUBSTコマンドなどで設定した仮想ドライブが使用できなくなる
- ・CD-ROMドライブが使用できなくなる

このような場合は、次の手順でCD-ROMドライブの接続設定を再度行くと、従来の環境どおりにご利用になれます。

- ①INSTCDコマンドでCD-ROMドライブの接続設定を行う。
- ②SEEDITなどのエディタを使用して、ネットワークドライブや仮想ドライブのドライブ指定やAUTOEXEC.BATファイルの中のMSCDEX行のパラメータ「/L:」のドライブ指定を他のドライブの割り当てと重複しないよう変更する。

## ●CD-ROMドライブの複数台接続の解除

CD-ROMドライブの複数台接続の設定を解除するには、次の手順で行ってください。

- ①SEEDITなどのエディタを使用して、CONFIG.SYSファイルおよびAUTOEXEC.BATファイルのCD-ROMの設定行の先頭に、すべて「REM」を追記し、CD-ROMドライブの接続設定を無効にします。

例 <CONFIG.SYSファイル>

```
REM DEVICE=A:¥DOS¥NECCD.SYS /D:CD_101  
REM DEVICE=A:¥DOS¥NECCDB.SYS /D:CD_B
```

<AUTOEXEC.BATファイル>

```
REM A:¥DOS¥MSCDEX /D:CD_101 /L:Q /D:CD_B
```

- ②リセットスイッチを押して、本機を再起動します。
- ③CUSTOMコマンドで、再度CD-ROMの設定を行います。
- ④SEEDITなどのエディタを使用して、AUTOEXEC.BATファイルの中のMSCDEX行のパラメータ「/L:」にドライブ名を指定します。
- ⑤リセットスイッチを押して、本機を再起動すると、CD-ROMドライブの複数台接続が解除されます。

## ●複数台接続時のCD-ROMアプリケーション使用上のご注意

- ・CD-ROMアプリケーションを使用する場合、複数台のCD-ROMドライブのうち先頭以外のドライブにCD-ROMをセットすると、正常に動作しない場合があります。

この場合には、CD-ROMアプリケーションを先頭のCD-ROMドライブにセットしなおしてお使いください。

- ・CD-ROMアプリケーションによっては、CD-ROMドライブが複数割り当てられた状態では動作しない場合があります。

この場合には、接続しているCD-ROMドライブを1台にするなど、CD-ROMドライブが1台しか割り当てられていない状態にしてください。

## 1.3 MS-DOS 5.0Aでの本機内蔵CD-ROMドライブの利用

PC-9821Na12、PC-9821Nb10/S10F、Nb10/S8に関連した内容です。  
 なお、PC-9821Nb10/5でCD-ROMドライブベイに別売の増設用CD-ROMドライブを取り付けた場合も以下の手順が必要です。

「1.1 MS-DOS6.2/5.0Aの利用」の手順にしたがって、アップグレードした後、以下の操作を行うと、MS-DOS 5.0Aで、本機に内蔵のCD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブベイに取り付けた増設用CD-ROMドライブが利用できるようになります。



CD-ROMドライブを使用するには、あらかじめ別売の「日本語MS-DOS CD-ROM Extensions」(以降「CD-ROM Extensions」)が必要です。



Windows 95がインストールされている領域を解放して、MS-DOSをインストールした場合は後述の〈参考〉を参照してください。

- ①インストールしたMS-DOS 5.0Aを起動します。  
DOSシェルの画面が表示された場合は、キーボードの **f.3** キーを押して終了してください。
- ②MS-DOS 5.0Aをインストールしたドライブに「CD-ROM Extensions」をインストールします。  
インストール方法については、「CD-ROM Extensions」に添付のマニュアルを参照してください。
- ③コマンドプロンプトから次のように入力して、CD-ROMドライブをアップグレードします。  
〈ドライブ名1〉にはWindows95がインストールされているドライブ名を、〈ドライブ名2〉と〈ディレクトリ名〉には、手順②で「CD-ROM Extensions」をインストールしたドライブ名、ディレクトリ名を指定してください。

<ドライブ名1>: ¥CDEX¥UPCDEXT.EXE <ドライブ名2>: ¥<ディレクトリ名> 

終了メッセージが表示されたら「CD-ROM Extensions」のアップグレードは終了です。次回のMS-DOS5.0Aの起動時から、本機に内蔵のCD-ROMドライブがご使用になれます。

## ●参考

Windows 95の領域を解放して、MS-DOS 5.0Aをインストールした場合、MS-DOS 5.0Aで本機内蔵のCD-ROMドライブを使用するには、次の手順で行います。

- ①「MS-DOS 5.0Aで本機内蔵のCD-ROMドライブを利用する」の手順①、②を行った後で「1.1 MS-DOS 6.2/5.0Aの利用」の〈参考〉の手順で作成した、「CD-ROM Extensions アップグレードディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。
- ②コマンドプロンプトから次のように入力して、CD-ROMドライブをアップグレードします。  
<ドライブ名1>には手順①で「CD-ROM Extensions アップグレードディスク」をセットしたフロッピーディスクドライブ名、<ドライブ名2>と<ディレクトリ名>は「CD-ROM Extensions」をインストールしたドライブ名、ディレクトリ名を指定してください。

<ドライブ名1>: ¥UPCDEXT.EXE <ドライブ名2>: ¥<ディレクトリ名> 

終了メッセージが表示されたら、「CD-ROM Extensions」のアップグレードは終了です。

次回のMS-DOS 5.0Aの起動時から、本機に内蔵のCD-ROMドライブがご使用になれます。

---

## 1.4 MS-DOS 6.2の機能

本機で使用できるアップグレードしたMS-DOS 6.2の強化機能は次のとおりです。

### ●POWERコマンド

POWERコマンドは、MS-DOSシステムやアプリケーションソフトの動作を監視して、本機をパワーセーブ（消費電力制御）状態にします。

本機は98NOTEメニューの「省電力の設定」メニューでパワーセーブモードの設定が可能です。POWERコマンドを使用することで、MS-DOSシステムレベルでのパワーセーブが可能になります。なお、機種によっては、POWERコマンドは初期設定で組み込まれている場合があります。



本体の「省電力の設定」の「パワーセーブモード」を{設定しない}にしてご使用ください。

なお、設定方法については別冊の『ガイドブック』をご参照ください。

---

## ・POWERコマンドの組み込み

POWERコマンドを使用するには、CONFIG.SYSファイルに次の一行を追加して本機を再起動します。

```
DEVICE=A:¥DOS¥POWER.EXE
```

POWERコマンドは、UMBメモリに十分な空き容量が存在する場合、組み込み時に自動的にUMBメモリを利用します。

また、POWERコマンドには次のようなスイッチがあります。

```
DEVICE=A:¥DOS¥POWER.EXE [ADV[:MAX|REG|MIN]|STD|OFF][/LOW]
```

### ADV[:MAX|REG|MIN]

アプリケーションソフトやハードウェアのアイドル（何もしていない時間）を検出して、本機をパワーセーブ動作状態にします。MIN、REG、MAXの順にパワーセーブされる度合いが高くなりますが本機の動作速度が遅くなる可能性も大きくなります。動作速度に問題が発生する場合は、MINを指定してください。これらの指定を省略した場合は、REG指定の状態で作動します。

**STD** POWERコマンドの機能を無効にして、システムセットアップメニューの省電力の設定を有効にします。

**OFF** POWERコマンドの機能及びシステムセットアップメニューの省電力の設定を無効にします。

**/LOW** UMBメモリに十分な空き容量がある場合でも、UMBメモリを使用しません。



POWERコマンドは、ADDDRVコマンドでは組み込まないでください。

## ・POWERコマンドの動作の変更

POWERコマンド組み込み後に動作の設定を変更する場合は、コマンドラインから次のように指定します。スイッチの内容は組み込み時と同様です。

```
POWER [ADV[:MAX|REG|MIN]STD|OFF] 
```



POWERコマンドを組み込んでいない場合、コマンドラインからの設定変更はできません。

## ●MAXLINK-LITE

ここでは、MS-DOS 6.2に添付されているマニュアルに記述されている「MAXLINK LITE」の補足事項を説明します。

MAXLINK-LITEは最大115.2Kbpsでの高速通信に対応しています。

## ・MAXLINK.DRVのスイッチ

MAXLINK.DRVのスイッチは次のとおりです。

```
DEVICE=A:¥DOS¥MAXLINK.DRV [/1|/2|/3] [/W] [/E]
```

- /1 本機内蔵シリアルインターフェイスを使用します（デフォルトの値）。
- /2 拡張RS-232C第2回線を使用します。
- /3 拡張RS-232C第3回線を使用します。
- /W 相手のMAXLINKコマンドが実行されるまで待機します。
- /E 相手のドライブをすべて交換可能なドライブとして処理します。

#### ・MAXLINK.EXEのスイッチ

MAXLINK.EXEのスイッチは次のとおりです。

MAXLINK [/1 | /2 | /3] [/S0 | /S5 | /S3 | /S1 | /S9 | /S4]

- /1 本機内蔵シリアルインターフェイスを使用します（デフォルトの値）。
- /2 拡張RS-232C第2回線を使用します。
- /3 拡張RS-232C第3回線を使用します。
- /S0 転送速度を115200bpsに設定します。
- /S5 転送速度を57600bpsに設定します。
- /S3 転送速度を38400bpsに設定します。
- /S1 転送速度を19200bpsに設定します。
- /S9 転送速度を9600bpsに設定します（デフォルトの値）。
- /S4 転送速度を4800bpsに設定します。

### ●高分解能クロックデバイス

HRTIMER.SYSは、MS-DOSで1/100秒単位での時刻の取得／設定を行う場合に使用する高分解能クロックデバイスです。

#### ・HRTIMER.SYSの組み込み

高分解能クロックデバイスを使用するにはCONFIG.SYSファイルに次のような一行を追加して本機を再起動します。

DEVICE=A:¥DOS¥HRTIMER.SYS



HRTIMER.SYSは、ADDDRVコマンドを使用して組み込まないでください。

---

また、オンラインヘルプの注意事項も必ずお読みください。

## 1.5 MS-DOS 5.0Aの機能


本機で使用できるMS-DOS 5.0Aの主な強化機能は次のとおりです。

### ●2HD(1.44Mバイト)フロッピーディスク

本機のフロッピーディスクドライブでは、2HD(1.2Mバイト)、2DD(640Kバイト)フロッピーディスクに加え、2HD(1.44Mバイト)フロッピーディスクの読み書きができます。これらのフロッピーディスクは自動的に種類が判別され、読み書きされます。また、FORMATコマンドやDISKCOPYコマンドも、この機能に対応しています。

### ●FDNCOPYコマンド

FDNCOPYコマンドは、同じ内容のフロッピーディスクを複数枚作成するコマンドです。コマンドプロンプトから、次のような書式で実行してください。

FDNCOPY [(送り側ドライブ名) [(受け側ドライブ名)]] 

〈送り側ドライブ名〉には、コピー元(マスタ)のフロッピーディスクをセットしたドライブ名を指定します。また、〈受け側ドライブ名〉には、コピー先のドライブ名を指定します。

1台のフロッピーディスクドライブでコピーする場合は、〈受け側ドライブ名〉を省略できます。両方のドライブ名を省略した場合は、メニュー画面が表示されます。メニュー画面では画面の指示にしたがって操作してください。



FDNCOPYコマンドは、複数枚のフロッピーディスクにコピーするために拡張メモリやハードディスクを使用します。拡張メモリが使用できない環境や、ハードディスクに空き容量がない場合は、その旨のメッセージが表示されますのでDISKCOPYコマンドを使用してください。

また、ASSIGN、JOIN、SUBSTコマンドで置き換えたドライブに対しては、FDNCOPYコマンドは使用できません。

### ●RS-232Cインターフェイスの利用

本機は、RS-232Cインターフェイスで19200bpsの通信速度が利用でき、SWITCHコマンドとSPEEDコマンドのボーレートの選択肢に「19200」が追加されます。SWITCHコマンドとSPEEDコマンドの詳細については、MS-DOS5.0Aに添付の『MS-DOS 5.0A ステップアップマニュアル』を参照してください。

### ●マルチメディア機能を利用する

ここでは、マルチメディアアプリケーションの利用について説明します。MS-DOS 5.0A上でマルチメディアアプリケーションを利用する場合は、マルチメディア対応ドライバ(拡張グラフィックドライバと拡張サウンドドライバ)を、必要に応じてMS-DOS 5.0Aに組み込まなければなりません。

拡張サウンドドライバはPC-9821Na12でご利用になれます。それ以外の機種では拡張サウンドドライバに関する記述は読む必要はありません。

拡張グラフィックドライバを組み込むと、256色を使用したグラフィックが描画できるようになります。また、拡張サウンドドライバを組み込むと、FM音源6音、SSG音源3音、リズム音源6音を使用する音楽演奏や、録音、再生を行うアプリケーションを利用できるようになります。

組み込みには、次の2つの方法があります。

- ・ コマンドプロンプトから常駐プログラムとして組み込む方法(メモリを有効活用できます)
- ・ ADDDRVコマンドやCONFIG.SYSファイルで、デバイスドライバとして組み込む方法

ここでは、それぞれの組み込む手順を説明します。

Windows 3.1が起動している状態であれば、終了させてコマンドプロンプトの状態にしてから、次の手順に従ってください。

#### ・ コマンドプロンプトから常駐プログラムとして組み込む場合

コマンドプロンプトからマルチメディア対応ドライバを組み込む方法と、常駐を解除する方法を説明します。

- ① 拡張グラフィックドライバ(AVGDRV.EXE)を組み込みたい場合は、次のように入力します。入力後は、AVGDRVが組み込まれて常駐します。

AVGDRV 

- ② 拡張サウンドドライバ(AVSDRV.EXE)を組み込みたい場合は、次のように入力します。入力後は、AVSDRVが組み込まれて常駐します。

AVSDRV 

- ③ 組み込んだドライバが必要でなくなれば、組み込んだ逆順に次のように入力して常駐を解除します。

AVSDRV /R 

AVGDRV /R 



- ・ コマンドプロンプトから組み込んだものは、DELDRVを使って解除することはできません。
- ・ 拡張グラフィックドライバと拡張サウンドドライバの組み込み、および解除は、Windows上の [MS-DOSプロンプト] からは行わないでください。Windowsを実行中の場合は、必ず終了させてから行ってください。

拡張グラフィックドライバと拡張サウンドドライバの書式は、次の通りです。

#### 【拡張グラフィックドライバの書式】

AVGDRV [/E] [/C] [/S] [/R]

- /E ドライバの一部をEMSメモリに読み込み、メインメモリの消費を抑えます。
- /C 数値演算コプロセッサを使います。数値演算コプロセッサが実装されている場合にのみ指定できます。
- /S 設定系の機能のみを組み込み、描画系の機能は組み込まれません。
- /R 常駐を解除します。ただし、ADDDRVコマンドやCONFIG.SYSファイルで組み込んだものは解除できません。

### 【拡張サウンドドライバの書式】

AVSDRV [/E] [/F] [/P] [/R]

- /E ドライバの一部をEMSメモリに読み込み、メインメモリの消費を抑えます。
- /F FM音源機能のみを組み込みます。
- /P PCM音源機能のみを組み込みます。
- /R 常駐を解除します。ただし、ADDDRVコマンドやCONFIG.SYSファイルで組み込んだものは解除できません。



拡張グラフィックドライバと拡張サウンドドライバの組み込みにあたって、/Eスイッチを指定する場合は、次の条件を満たしている必要があります。

- ・ あらかじめEMSドライバを組み込んであること
  - ・ ページフレームがC0000H~CFFFFHの連続した64KBであること
  - ・ 連続した4ページ以上のEMSメモリが使用可能なこと
- EMSメモリについては、MS-DOS 5.0Aのマニュアルを参照してください。

### (1) ADDDRVコマンドでデバイスドライバとして組み込む方法

ここでは、マルチメディア対応ドライバを組み込むためのADDDRV定義ファイルとして用意されている「ADDAVD.DEV」を使って、拡張グラフィックドライバ(AVGDRV.SYS)と拡張サウンドドライバ(AVSDRV.SYS)を組み込む方法を説明します。

なお、「ADDAVD.DEV」の記述に次のとおり追加することにより、スイッチ(/E、/F、/P、/C、/S)を指定して組み込むことができます。ただし/Rを指定することはできません。

```
DEVICE=AVSDRV.SYS [/E] [/F] [/P]
DEVICE=AVGDRV.SYS [/E] [/C] [/S]
```

- ① 「AVSDRV.SYS」と「AVGDRV.SYS」のあるディレクトリを、CDコマンドを使って、カレントディレクトリにしてください。
- ② コマンドプロンプトから、次のように入力します。

```
ADDDRV ADDAVD.DEV
```

- ③組み込んだドライバが必要なくなれば、コマンドプロンプトから次のように入力します。

DELDRV 

## (2) CONFIG.SYSファイルで、デバイスドライバとして組み込む方法

CONFIG.SYSファイルに変更を加えることで、マルチメディア対応ドライバを組み込むことができます。

CONFIG.SYSファイルを修正するには、次の2つの方法があります。

### ・CUSTOMコマンドを利用する

CUSTOMコマンドを使ってマルチメディア対応ドライバを組み込みます。

CUSTOMコマンドの詳細については、MS-DOS 5.0Aのマニュアルを参照してください。

- ①CUSTOMコマンドを起動して、「CONFIG.SYSファイルの作成／更新」を選択します。
- ②メニュー画面から「次画面」を選択し、次画面が表示されたら「画面入出力」を選択します。
- ③「拡張グラフィック」「拡張サウンド」の項目が表示されますので、「使用する」「使用しない」を選択してください。

### ・エディタなどを使用する

SEDITコマンドや市販のエディタソフトなどを使用して、CONFIG.SYSファイルの最終行に、次の行を追加してください。

なお、/R以外のスイッチ(/E、/F、/P、/S、/C)を指定して組み込むこともできます。

```
DEVICE=¥DOS¥AVSDRV.SYS [/E] [/F] [/P]
```

```
DEVICE=¥DOS¥AVGDRV.SYS [/E] [/S] [/C]
```

CUSTOMコマンドかエディタなどを使用してCONFIG.SYSファイルに変更を加えたら、MS-DOS 5.0Aを再起動してください。

## ●EMM.SYSを使用する場合の注意

EMM.SYSをご使用の場合は、ページフレームアドレスとしてB000Hを使用できません。

---

## 1.6 固定ディスク起動メニュープログラムについて

本機の固定ディスク起動メニューで自動起動の設定/解除を行うには、次のキーを使用します。

固定ディスク起動メニュープログラムについて、詳しくはMS-DOS 6.2のマニュアルを参照してください。

従 来	本 機
キーボードの <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">スペース</span> キー	キーボードの <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">f・1</span> キー

## 1.7 MS-DOS 3.3Dの利用

PC-9821Na12、PC-9821Nb10/S10F、Nb10/S8ではMS-DOS 3.3Dはご利用になれません。

PC-9821Nb10/5では、CPUモードをLowモードにしてMS-DOS 3.3Dを利用してください。



MS-DOS 3.3Dは次の場合にご利用になれます。

- ・CPUが486-33MHz以下の動作スピードの場合
- ・容量が512Mバイト以下のハードディスクドライブを使用している場合（ハードディスク使用時）

詳しくは、MS-DOS 3.3Dに添付の『ユーザーズガイド』をご覧ください。

ここでは、本機でMS-DOS 3.3Dを利用するために必要な次の作業について説明しています。

(1) 「MS-DOS 3.3Dのシステムディスク#1」をアップグレードする。

(2) 「アップグレード済みMS-DOS 3.3Dシステムディスク#1」でインストールする。

また、本機のCD-ROMドライブベイに別売の増設用CD-ROMドライブを取り付けて使用する場合の設定方法についても説明しています。

### 1.7.1 MS-DOS 3.3Dをアップグレードする

あらかじめ次のものを準備してください

- ・MS-DOS 3.3Dシステムディスク（別売）
- ・2HDフロッピーディスク：1枚

フロッピーディスクには、「アップグレード済み MS-DOS 3.3Dシステムディスク#1」と書いたラベルを貼っておいてください。



Windows 95の領域を解放してMS-DOS 3.3Dをインストールし、本機のCD-ROMドライブベイに別売の増設用CD-ROMドライブを取り付けて使用する場合は、解放する前に後述の〈参考〉の手順を行ってください。



- ・MS-DOS 3.3Dのアップグレードは、MS-DOS 3.3Dをインストール済みのフロッピーディスクおよびハードディスクには行うことができません。
- ・MS-DOS 3.3Dでは、1.44Mバイトのフロッピーディスクは使用できません。

## (1) 「MS-DOS 3.3Dシステムディスク#1」をアップグレードする

- ①本機の電源をONにして、「Windows 95を起動しています...」のメッセージが表示されたら、キーボードの[F8]キーを押してWindows 95起動メニューを表示させます。
- ②Windows 95起動メニューから「コマンドプロンプトのみ」を選択します。
- ③別売の「MS-DOS 3.3Dシステムディスク#1」をフロッピーディスクドライブにセットします。
- ④DISKCOPYコマンドを使用し、「MS-DOS 3.3Dシステムディスク#1」の複製を「アップグレード済みMS-DOS 3.3Dシステムディスク#1」に作成します。  
DISKCOPYコマンドについては、コマンドプロンプトで次のように入力して、確認してください。

DISKCOPY /? 

- ⑤コマンドプロンプトから次のように入力します。  
<ドライブ名>には、「アップグレード済みMS-DOS 3.3Dシステムディスク#1」を挿入したドライブ名を指定します。

CD ¥DOS33D 

UPDOS33D <ドライブ名>: 

- ⑥アップグレードが終了すると、「MS-DOS 3.3Dのアップグレードが終了しました。」というメッセージが表示されます。

## (2) 「アップグレード済みMS-DOS 3.3Dシステムディスク#1」でインストールする

このあとは、「アップグレード済みMS-DOS 3.3Dシステムディスク#1」を使って、フロッピーディスクまたはハードディスクにMS-DOS 3.3Dをインストールしてください。MS-DOS 3.3Dのインストールの方法については、MS-DOS 3.3Dのマニュアルを参照してください。

### 参考「CD-ROM Extensions アップグレードディスク」を作成する


Windows 95の領域を解放してMS-DOS 3.3Dをインストールし、CD-ROMドライブベイに別売の増設用CD-ROMドライブを取り付けて使用する場合は、「CD-ROM Extensions アップグレードディスク」の作成が必要です。それ以外の場合は、この手順は必要ありません。

あらかじめ次のものを用意してください。


- ・フォーマット済みフロッピーディスク1枚  
フロッピーディスクには「CD-ROM Extensions アップグレードディスク」と書いたラベルを貼っておいてください。

- ①用意しておいた「CD-ROM Extensions アップグレードディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。
- ②コマンドプロンプトから次のように入力して、「CD-ROM Extensions アップグレードディスク」を作成します。

<ドライブ名1>にはWindows 95がインストールされているハードディスク名を、<ドライブ名2>には手順①でセットしたフロッピーディスクのドライブ名を指定してください。

<ドライブ名1>: 

CD ¥CDEX 

MAKECFD <ドライブ名2>: 

- ③終了メッセージが表示されると、「CD-ROM Extensions アップグレードディスク」の作成は終了です。フロッピーディスクから「CD-ROM Extensions アップグレードディスク」を取り出してください。

## 1.7.2 MS-DOS 3.3Dでの本機内蔵のCD-ROMドライブの利用

PC-9821Nb10/5でCD-ROMドライブベイに別売の増設用CD-ROMドライブを取り付けて、CD-ROMドライブを使用するには、以下の手順が必要です。

MS-DOS 3.3Dをアップグレードした後、以下の操作を行うとMS-DOS 3.3Dで、CD-ROMドライブベイに取り付けた別売の増設用CD-ROMドライブが利用できるようになります。

あらかじめ、次の用意が必要です。

: 別売の「日本語MS-DOS CD-ROM Extensions」(別売)



Windows 95がインストールされている領域を解放して、MS-DOSをインストールした場合は、後述の〈参考〉を参照してください。

- ①インストールしたMS-DOS 3.3Dを起動します。  
MS-DOSのコマンドメニューを表示中の場合は終了して、コマンドプロンプトを表示させます。
- ②MS-DOS 3.3Dがインストールされているドライブに「CD-ROM Extensions」をインストールします。  
インストール方法については、「CD-ROM Extensions」に添付のマニュアルを参照してください。
- ③コマンドプロンプトから次のように入力して、CD-ROMドライブをアップグレードします。  
<ドライブ名1>にはWindows 95がインストールされているドライブ名を<ドライブ名2>と<ディレクトリ名>には手順②で「CD-ROM Extensions」をインストールしたドライブ名、ディレクトリ名を指定してください。

<ドライブ名1>: ¥CDEX¥UPCDEXT.EXE <ドライブ名2>: ¥<ディレクトリ名> 

- ④終了メッセージが表示されたら、「CD-ROM Extensions」のアップグレードは終了です。次回MS-DOS 3.3Dの起動時から、CD-ROMドライブがご使用になります。

#### 〈参考〉

Windows 95の領域を解放して、MS-DOS 3.3Dをインストールした場合、MS-DOS 3.3Dで本機のCD-ROMドライブベイに別売のCD-ROMドライブを取り付けて使用するには、次の手順で行います。

- ①「MS-DOS 3.3Dで本機内蔵のCD-ROMドライブを利用する」の手順①、②を行った後で「MS-DOS 3.3Dをアップグレードする」の〈参考〉の手順で作成した、「CD-ROM Extensionsアップグレードディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。
- ②コマンドプロンプトから次のように入力して、CD-ROMドライブをアップグレードします。  
〈ドライブ名1〉には手順①でセットしたドライブ名、〈ドライブ名2〉と〈ディレクトリ名〉は「CD-ROM Extensions」をインストールしたドライブ名、ディレクトリ名を指定してください。

〈ドライブ名1〉: ¥UPCDEXT.EXE 〈ドライブ名2〉: ¥〈ディレクトリ名〉

- ③終了メッセージが表示されたら、「CD-ROM Extensions」のアップグレードは終了です。  
次回のMS-DOS 3.3Dの起動時から、CD-ROMドライブがご使用になります。

## 第2章 Windowsを利用する

本章では、別売のWindows 3.1やWindows NTを本機で利用する場合に必要な作業について説明します。

### 2.1 Windows 3.1の利用

本機でMicrosoft Windows 3.1（以降、Windows 3.1）を利用するには、次の手順で、アップグレードや表示解像度、サウンド機能の設定を行ってください。また、本機で使用できるWindows 3.1の強化機能についても説明しています。



・Windows 3.1をインストールする前に、アップグレード済のMS-DOS 6.2、5.0Aのいずれかをインストールしてください。アップグレードの手順は、「1.1 MS-DOS 6.2/5.0Aの利用」を参照してください。なお、Windows 95の領域は解放しないでください。

#### ■Windows 3.1のアップグレード

Windows 3.1をアップグレードする手順について説明します。

- ①Windows 3.1をハードディスクドライブにインストールします。  
Windows 3.1のインストール方法は、Windows 3.1に添付の『お使いになる前に』をご覧ください。
- ②インストール途中でセットアップ方法を選択する画面が表示されます。ここで[カスタムセットアップ]を選択します。



セットアップの際に、[入門セットアップ]や[標準セットアップ]を選択すると、自動的に解像度が選択されますので、これらのセットアップ方法は選択しないでください。

- ③システムのハードウェア、ソフトウェア構成を選択する画面が表示されたら、ディスプレイの項目で[640×400 16色 12ドット]または、[640×400 16色 16ドット]を選択します。



[スワップファイルの設定] ダイアログボックスで [BIOSを経由しないでスワップファイルを利用] に×印がついている (選択されている場合)、マウスでこのチェックボックスをクリックするなどして、×印を消してください。また、Windows 3.1をインストール、アップグレードした後も、このチェックボックスは選択しないでください。

選択した状態ではWindows 3.1をインストールする、またはWindows 3.1を使用すると、正常に動作しない場合があります。

④Windows 3.1のインストールが終了したら、一度電源をOFFにします。

⑤内蔵ハードディスクからWindows 95を起動します。

[スタート] メニューの [Windowsの終了] をクリックし、「MS-DOSモードでコンピュータを再起動する」を選択してMS-DOSモードを起動します。

⑥コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントディレクトリをWindows 95がインストールされているドライブの「WIN31」ディレクトリに変更します。

CD ¥WIN31

⑦コマンドプロンプトから次のように入力して、Windows 3.1をアップグレードします。

<ドライブ名>、<ディレクトリ名>にはWindows 3.1をインストールしたドライブとディレクトリを入力します。

UPWIN <ドライブ名>:¥<ディレクトリ名> 

⑧アップグレードを終了後、本機を再起動してください。

## ■表示解像度の設定

本機はウィンドウアクセラレータを内蔵しています。内蔵のウィンドウアクセラレータに対応したディスプレイドライバを使用することで、高解像度、多色表示を利用できます。

### ●解像度の種類

本機内蔵のウィンドウアクセラレータでは、次の解像度が使用できます。

解像度	表示色
640×480	26万色中256色
640×480	6万5千色
640×480	1677万色 注1
800×600	26万色中256色 注3
800×600	6万5千色 注3
1024×768	26万色中256色 注1 注2 注3

注1 ウィンドウアクセラレータのデザイン機能により実現します。

注2 別売のCRTディスプレイを接続した場合に表示できます。このとき、本機のカラー液晶ディスプレイには、なにも表示されなくなります。

注3 PC-9821Nb10/5では別売のCRTディスプレイを接続した場合に表示できます。このとき、本機のカラー液晶ディスプレイには、なにも表示されなくなります。

## ● ディスプレイドライバの組み込み

MS-DOSのコマンドプロンプトから、WindowsディレクトリのSETUPコマンドを起動して、ディスプレイドライバを組み込みます。

ディスプレイドライバを組み込む方法の詳細は、『Microsoft Windows 3.1 機能ガイド』の「第14章 セットアップによるWindowsの利用環境の変更」をご覧ください。

## ● マイクロソフト社製Microsoft Windows 3.1で内蔵ウィンドウアクセラレータを使用する場合の注意

マイクロソフト社製Windows 3.1のSETUPコマンド実行時のディスプレイの項目で、内蔵アクセラレータボード対応のドライバを選択した場合、フロッピーディスクを差し替える旨のメッセージが表示されます。このとき、指定のフロッピーディスクをセットしてもセットアップを継続できない場合は、次のフロッピーディスクと差し替えてください。

画面のメッセージ	セットするフロッピーディスク (マイクロソフト社製の場合)
Microsoft Windows 3.1 DISK #1	Windowsディスク #2
Microsoft Windows 3.1 DISK #3	Windowsディスク #2
Microsoft Windows 3.1 DISK #8	Windowsディスク #4
Microsoft Windows 3.1 DISK #11	Windowsディスク #9

## ■ サウンド機能の設定

ここでは、Windows 3.1でのサウンド機能の利用方法について説明します。

### ● サウンドドライバの組み込み

次の手順でサウンドドライバを組み込んでください。



次のドライバが組み込まれている場合は、あらかじめ削除してください。

- ・ NECサウンドボード (PC-9801-26K) MIDI
- ・ NECサウンドボード (PC-9801-73) Wave & MIDI
- ・ NECサウンドボード (PC-9801-86) Wave & MIDI

削除の手順は以下のとおりです。

- ① [コントロールパネル] の [ドライバ] をダブルクリックします。
- ② 表示されたダイアログボックスで上記のドライバを選択し、[削除] ボタンをクリックし削除します(Windowsの再起動は行わないでください)。
- ③ Windowsを終了します。

- ①Windows 3.1を起動します。
- ② [メイン] グループの [コントロールパネル] から [ドライバ] アイコンを選択します。
- ③ [ドライバの設定] ダイアログボックスの [追加] ボタンをクリックします。
- ④ [一覧にない、または更新されたドライバ] をクリックして選択し、 [OK] ボタンをクリックします。
- ⑤ [ドライバの組み込み] ダイアログボックスが表示されたら、次のように指定します。  
次のように入力し、 [OK] ボタンをクリックします。

〈Windows 95のドライブ名〉:¥WIN31

- ⑥ 「NEC PCM Sound Driver」を選択し、 [OK] ボタンをクリックします。
- ⑦ [現在のものを使う] をクリックします。

[システム設定の変更] ダイアログボックスが表示されます。

・ PC-9821Na12をお使いの場合

[再起動しない] をクリックします。手順⑧に進んでください。

・ PC-9821Nb10をお使いの場合

[再起動する] をクリックします。

Windows 3.1が再起動し、サウンド機能が使用できるようになります。これで、この手順は終了です。⑧以降の操作は必要ありません。

- ⑧同様の手順で以下のドライバを組み込みます。

- ・ [NEC OPL Synthesizer Driver]
- ・ [NEC MIDI Driver]
- ・ [NEC Mixer Driver]

[システム設定の変更] ダイアログボックスで [再起動しない] をクリックします。

[終了] をクリックし、ドライバの組み込みを終了します。

[アクセサリ] グループの [メモ帳] を起動して、「SYSTEM.INI」ファイルの次の行を削除します。

```
[386Enh]
device=vsbd.386
```

- ⑨Windows 3.1を再起動すると、サウンド機能が使えるようになります。

## ●音量の調節

サウンドの音量調節を行うツールとして、[ボリュームコントロール] (VOLUME.EXE) があります。

[ファイルマネージャ] でマウスポインタをWindowsディレクトリのVOLUME.EXEに合わせ、ダブルクリックしてボリュームコントロールユーティリティを起動し、音量を調整してください。

ボリュームコントロールユーティリティの使用方法は、 [ボリュームコントロール] のヘルプをご覧ください。



- ・ボリュームコントロールユーティリティでは、サウンドボード (PC-9801-86) の音量調節はできません。詳しくは [ボリュームコントロール] のヘルプをご覧ください。
- ・98NOTEメニューのマイクボリュームに関する設定は、Windows 3.1上では無効になります。

## ■Windows 3.1の強化機能

ここでは、アップグレードしたWindows 3.1の強化機能について説明します。

### ●CRTディスプレイのパワーマネジメント機能

CRTディスプレイの省電力の機能を利用するには、次の手順で設定します。



パワーマネジメント機能に対応していないCRTディスプレイでは、この機能は利用できません。

- ① [メイン] グループの [コントロールパネル] から、 [画面のデザイン] アイコンを選択します。  
 [画面デザインの設定] ダイアログボックスが表示されます。
- ② スクリーンセーバーとして、 [パワーマネジメント] を選択します。  
 なお、この機能が働くまでの時間は、 [実行までの待ち時間] で設定できます。
- ③ [設定] ボタンをクリックします。  
 [パワーマネジメントの設定] ダイアログボックスが表示されます。
- ④ 使用する動作モードを選択し、 [OK] ボタンをクリックします。
  - ・ CRT表示OFFモード  
 ディスプレイの「サスペンドモード」に対応しています。
  - ・ CRT電源OFFモード  
 ディスプレイの「オフモード」に対応しています。
  - ・ CPU節電&CRT電源OFFモード  
 CRTディスプレイと本体の両方を節電します。「CPU節電」はごく短い時間の間隔でCPUの動作・停止を繰り返すことで節電します。



[CRT電源OFFモード] は [CRT表示OFFモード] より、さらに消費電力を削減することができますが、画面が再表示されるまでの時間が遅くなる場合があります。また、 [CRT電源OFFモード] は、CRT電源OFFモード機能に対応したCRTディスプレイでのみ利用することができます。

- ⑤ [画面デザインの設定] ダイアログボックスに戻りますので、 [OK] ボタンをクリックしてください。

## ●19200bpsの通信速度の利用

Windows 3.1で19200bpsの通信速度を利用するには、次の設定を行います。



- ・ Windows 3.1上では19200bpsまでの通信速度が利用可能です。
- ・ RS-232Cでの通信は、CPUなどの通信先のハードウェア性能や利用するアプリケーションソフト、またはマルチタスクで使用しているかなどの条件によって大きく影響されます。このため、19200bpsで安定した通信ができない場合があります。
- ・ Windowsの[アクセサリ]グループにある[イメージスキャナ]で指定できるデータ転送速度は9600bpsまでです。19200bpsでのデータ転送はできません。
- ・ COM4のシリアルポートを指定した場合には、75bps、150bpsの通信速度は使用できません。



MS-DOSのSPEEDコマンドとSWITCHコマンドでも、従来の通信速度に加えて19200bpsを指定することができます。指定方法は、他の通信速度と同じですので、MS-DOSのマニュアルを参照してください。

### ・シリアルポート (コントロールパネル)

シリアルポートの通信条件を設定する場合に使用します。

- ① [メイン] グループの [コントロールパネル] を選択し、 [シリアルポート] を選択します。  
[シリアルポートの設定] ダイアログボックスが表示されます。
- ② 設定を変更するポートを選択して [設定] ボタンをクリックし、設定を行います。

### ・カードファイル

カードファイルに記入した電話番号に電話をかける場合に使用します。

- ① [アクセサリ] グループの [カードファイル] を選択し、 [カード] メニューを選択します。
- ② [自動ダイヤル] コマンドを選択します。  
[自動ダイヤル] ダイアログボックスが表示されます。
- ③ [詳細設定] ボタンをクリックして、設定を行います。

### ・ターミナル

他のコンピュータと接続して情報交換(パソコン通信など)を行う場合に使用します。

- ① [アクセサリ] グループの [ターミナル] を選択し、[設定] メニューを選択します。
- ② [通信条件] コマンドを選択します。
- ③ [通信条件の設定] ダイアログボックスで設定を行います。

## ■ Windows 3.1の注意事項

### ● スワップファイルを利用する場合のご注意

Windowsをエンハンスドモードで実行する場合、情報を一時的にメモリからハードディスクに移し、メモリの空き容量を確保します。その際、情報をスワップファイルに格納します。

スワップファイルの設定は、コントロールパネルの[エンハンスドモード]アイコンで行います。[スワップファイルの設定]ダイアログボックスの「最大のサイズ」、「望ましいサイズ」に表示される容量はハードディスクの空き容量だけで決定されるわけではありません。

「最大のサイズ」はハードディスクの空き容量に依存しますが、「望ましいサイズ」はコンピュータに実装されているメモリが少ない場合や、Windowsを起動する前に大量のメモリを消費している場合、ハードディスクの空き容量に関係なく、「望ましいサイズ」の容量は増加しません。

「新しいサイズ」には、指定したドライブの空き容量分を確保することができますが、メモリ容量が少ない場合には「望ましいサイズ」以上の値を指定しても、実際には「望ましいサイズ」に表示された容量分のみをスワップファイルとして使用します。

## 2.2 Windows 3.1（英語版）の利用

本機でMicrosoft Windows 3.1（英語版）（以降、Windows（英語版））を利用するには、次の作業が必要です。

- ・アップグレードディスクを作成する
- ・Windows（英語版）をインストールする
- ・Windows（英語版）をアップグレードする

また、本体内蔵サウンドを利用するには、さらに次の作業が必要です。

- ・サウンドドライバを組み込む
- ・サウンドの音量を調節する

### ■Windows（英語版）をアップグレードする

Windows（英語版）をアップグレードする作業について説明します。



Windows 3.1（英語版）をインストールする前に、「(1) アップグレードディスクの作成」を行った後で、アップグレード済のMS-DOS 5.0Aをインストールしてください。アップグレードの手順は、「1.1 MS-DOS 6.2/5.0Aの利用」を参照してください。

#### (1) アップグレードディスクの作成


以下の手順では、次のものがが必要です。あらかじめ準備しておいてください。

- ・1.2Mバイトフォーマット済みのフロッピーディスク1枚  
このフロッピーディスクには、あらかじめ「Windows（英語版）UpgradeDisk」と書いたラベルを貼っておいてください。

- ①内蔵ハードディスクからWindows 95を起動します。
- ② [スタート] メニューの [Windowsの終了] をクリックし、 [MS-DOSモードでコンピュータを再起動する] を選択して、MS-DOSモードを起動します。
- ③コマンドプロンプトから次のように入力し、カレントディレクトリをEWIN31 ディレクトリに変更します。

CD ¥EWIN31 


- ④準備した「Windows(英語版)UpgradeDisk」をフロッピーディスクドライブにセットします。
- ⑤カレントディレクトリが正しいことを確認し、コマンドプロンプトから次のように入力します。  
<ドライブ名>には「Windows(英語版)UpgradeDisk」をセットしたフロッピーディスクドライブ名を指定します。

COPY \*.\* <ドライブ名>: 

これでアップグレードディスクが作成されました。

## (2)Windows (英語版) をインストールする

次の手順でWindows (英語版) をインストールしてください。

- ①Windows (英語版) に添付されている『Installation Guide』に従ってインストールを行います。  
『Select the hardware environment』の前まで作業を進めてください。
- ②『Select the hardware environment』の [Display] 選択時に、[Other (Requires disk provided by a hardware manufacturer)] を選択します。
- ③「Windows(英語版)UpgradeDisk」をフロッピーディスクドライブにセットし、キーを押します。
- ④表示されたディスプレイの一覧から、ディスプレイを選択してください。
- ⑤以降は、『Installation Guide』を参照しながら、画面の指示に従ってインストールを完了してください。



Windows (英語版) をインストールすると、ドライブの割り当ては次のようになります。

- ・内蔵フロッピーディスクドライブ : A (ドライブ)
- ・内蔵ハードディスクドライブ : C、D、…… (ドライブ)


## (3)Windows (英語版) をアップグレードする

「(1)アップグレードディスクを作成する」で作成した「Windows(英語版) UpgradeDisk」を使って、Windows (英語版) をアップグレードします。

- ①Windows (英語版) をインストールしたドライブからMS-DOSを起動し、コマンドプロンプトの状態にしてください (ここではDドライブから起動するものとします)。

D: ¥>

- ②「Windows(英語版)UpgradeDisk」を、フロッピーディスクドライブにセットします。そのあとで、フロッピーディスクドライブをカレントドライブにします。

D: ¥>A: 

A: ¥>

- ③カレントドライブが正しいことを確認し、コマンドプロンプトから次のように入力します。

<ドライブ名>、<ディレクトリ名>には、Windows (英語版) がインストールされているドライブ名とディレクトリ名を指定します。

A: ¥>UPEWIN <ドライブ名>:¥<ディレクトリ名> 

アップグレードが終了すると、「アップデートが終了しました。システムの再起動を行ってから英語版Windowsを起動してください。」のメッセージが表示されます。

- ④「Windows(英語版)UpgradeDisk」をドライブから取り出してから本機のリセットスイッチを押して、システムを再起動してください。

作業はこれで終了です。アップグレードしたWindows(英語版)をお使いください。

## ■本機内蔵のサウンド機能を使用する

Windows(英語版)で本機内蔵のサウンド機能を利用するには、サウンドドライバを組み込む必要があります。

また、サウンドの音量調節を可能にするためにも設定が必要です。

ここでは、それぞれの手順について説明します。



次のドライバが組み込まれている場合は、あらかじめ削除してください。

- ・[NEC Soundboard (PC-9801-26K) MIDI]
- ・[NEC Soundboard (PC-9801-73) Wave&MIDI]
- ・[NEC Soundboard (PC-9801-86) Wave&MIDI]

削除の手順は次のとおりです。

- ①Windows(英語版)を起動します。
- ②[Control Panel]の[Drivers]を起動します。
- ③表示されたダイアログボックスで上記のドライバを選択し、[Remove]ボタンをクリックします。
- ④Windows(英語版)を終了します。

### (1)サウンドドライバを組み込む

- ①Windows(英語版)を起動します。
- ②[Control Panel]の[Drivers]をダブルクリックします。
- ③[Add]ボタンをクリックします。
- ④表示されたダイアログボックスで[NEC PCM Sound Driver]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。
- ⑤新しいドライバと既存のドライバのどちらを使用するか選択するダイアログボックスで、「Current」を選択します。
- ⑥Windowsを再起動するかどうか選択するダイアログボックスが表示されます。

・PC-9821Nb10をお使いの場合

手順⑦に進みます。

・PC-9821Na12をお使いの場合

再起動せずに②～⑤と同様の手順で以下のドライバを組み込みます。

[NEC OPL Synthesizer Driver]

[NEC MIDI Driver]

[NEC Mixer Driver]

ドライバの組み込みが終了したら再起動する前に、[Accessories]グループの[Notepad]を起動して、Windows(英語版)がインストールされているディレクトリの下にある「SYSTEM.INI」ファイルの次の行を削除します。

[386Enh]  
device=vsbd.386

⑦設定を有効にするために、本機を再起動してください。

## (2)サウンドの音量を調節する

- ① [File Manager] を起動してください。
- ② Windows (英語版) がインストールされているディレクトリの下に「VOLUME.EXE」というファイルがあります。マウスポインタを「VOLUME.EXE」に合わせてダブルクリックして起動し、音量を調節してください。

## 2.3 Windows NT 3.51の利用

本機に Microsoft® Windows NT® Workstation 3.51\* (以降Windows NT) をインストールする場合、基本のセットアップ以外にいくつかのモジュールをアップデートする必要があります。ここではセットアップについての手順を説明します。

\* Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 3.51

セットアップでは、次のものがが必要です。あらかじめ用意しておいてください。

・ 1.44 M バイトフォーマット済みのフロッピーディスク 2枚

フォーマット時にシステムの転送は行なわないでください。

フロッピーディスクには、それぞれ次のラベルを貼っておいてください。

Windows NT 修復ディスク

Windows NT 3.51 アップデートディスク



ドライバのインストールを行う場合は、Administrators権限を持ったユーザーで行ってください。

本機に添付されているドライバは、本機専用ドライバです。他機種では使用しないでください。

セットアップ時のディスプレイの設定は「解像度 640×400、ノーマルモード16色」で行ってください。

本機でMicrosoft® Windows NT® Server 3.51\*\* はご利用いただけません。

\*\* Microsoft® Windows NT® Server Operating System Version 3.51

本機で Windows NTをセットアップするには、次の手順で行います。

- (1) 「Windows NT 3.51 アップデートディスク」を作成する
- (2) Windows NT をセットアップする
- (3) Windows NT のパワーアップ
  - ①内蔵アクセラレータを利用する
  - ②FAXモデムカードを利用する
- (4) Windows NT 3.51 アップデートサービスService Pack 4を利用する

## (1) 「Windows NT 3.51 アップデートディスク」を作成する

ここでは、「Windows NT 3.51 アップデートディスク」の作成を行います。

内蔵ハードディスクには Windows NTのドライバがコピーされています。これらのドライバをフロッピーディスクにコピーします。

Windows NTのドライバがコピーされている内蔵ハードディスクのドライブをドライブA、フロッピーディスクドライブをドライブBとして説明します。お使いの環境と異なる場合は、読みかえてください。

- ①Windows 95の[MS-DOSプロンプト]を起動します。
- ②用意しておいた「Windows NT 3.51 アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。
- ③MS-DOS プロンプトから次のように入力します。

```
A: <img alt="floppy icon" data-bbox="268 321 293 336"/>  
CD ¥NT351 <img alt="floppy icon" data-bbox="376 339 401 354"/>
```

- ⑤カレントディレクトリが NT351であることを確認し、コマンドプロンプトから次のように入力します。このとき、フロッピーディスクのドライブ名にコロン「:」を付けしないでください。

```
CDNTUP B <img alt="floppy icon" data-bbox="366 428 391 443"/>
```

- ⑥画面の表示にしたがって、モジュールをコピーします。
- ⑦作成したフロッピーディスクは、今後 Windows NTをセットアップする際必要となりますので、なくさないようにしてください。

## (2) Windows NTをセットアップする

本機に Windows NTをセットアップします。セットアップを行う場合以下の点に注意してください。

ディスプレイの設定は「解像度 640×400、ノーマルモード 16色」で行ってください。

それ以外については、マニュアルを参照してWindows NTをセットアップしてください。

## (3) Windows NTのパワーアップ

### (3)-① 内蔵アクセラレータを利用する

本機では、「Windows NT 3.51 アップデートディスク」に含まれているディスプレイドライバを使って、以下の画面モードが利用できます。

機種	解像度	表示色
PC-9821Na12/S10F、Na12/S8 PC-9821Nb10/S10F、Nb10/S8、Nb10/5	640 × 480	256色、64K色、16M色
内蔵アクセラレータ	800 × 600 注1	256色、64K色
(CIRRUS LOGIC 社製 GD7548)	1024 × 768 注2	256色

注1 PC-9821Nb10/5では、カラー液晶ディスプレイには何も表示されません。

別売のCRTディスプレイでのみ表示されます。

注2 本機のカラー液晶ディスプレイには、何も表示されません。別売のCRTディスプレイでのみ表示されます。

設定は次の手順で行います。

ここでは、フロッピー ディスクドライブをドライブBとして説明します。実際と異なる場合は、読みかえてください。

①[メイン]グループにある[コントロールパネル]の[ディスプレイ]を起動します。

②[ディスプレイの変更] ボタンを選択します。

③[変更] ボタンを選択します。

④[その他] ボタンを選択します。

ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするように指示されます。

⑤「Windows NT 3.51 アップデート ディスク」をフロッピー ディスクドライブにセットします。

フロッピーディスクを入れたドライブのCIRRUSディレクトリを指定して、[OK] ボタンを押します。

B:¥CIRRUS 

⑥[組み込む] ボタンを選択します。

⑦[はい] ボタンを選択します。

既存のドライバが存在する場合は、既存のドライバを使用するかどうかを聞いてくるので、[新しいドライバ] ボタンを選択します。

ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするように指示されます。

⑧ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするよう指示するメッセージが表示されたら、ドライブ名とディレクトリ名を確認します。

B:¥CIRRUS を指定して[続行] ボタンを押します。

⑨ドライバ組み込み結果が表示されるので、[OK] ボタンを押します。

⑩ドライバ起動に関するメッセージが表示されるので、[OK] ボタンを押します。

⑪「新しい設定を有効にするにはWindows NT を終了して再起動する必要があります」というメッセージが表示されるので、フロッピーディスクドライブより「Windows NT 3.51 アップデートディスク」を取り出し、[再起動する] ボタンを選択します。

### (3)-② FAXモデムカードを利用する

FAXモデム内蔵モデルに内蔵されている「FAXモデムカード(PC-9801N-J15)」をお使いになる場合、ドライバ、リモート アクセス サービスの設定以外に、Windows NTのMODEM.INFを編集する必要があります。またモデムカードの IRQ を変更する場合、レジストリを編集する必要があります。ここでは、MODEM.INFの編集方法、レジストリの編集方法について説明します。ドライバ、リモート アクセス サービスの設定については、Windows NTのマニュアルを参照してください。



- ・ MODEM.INF、レジストリの編集を行う場合は、Administrators権限を持ったユーザーで行ってください。
- ・ レジストリの編集前に、Windows NTのRDISK.EXEを使用して、修復ディスクの作成を行うことをお勧めします。誤ったレジストリによるWindows NTの誤動作が発生した場合、システムを復旧することができます。RDISK.EXE、システムの復旧については、Windows NTのマニュアルを参照してください。
- ・ MODEM.INFの編集後、Microsoft Windows NT 3.51アップデートサービス「Service Pack 4」を適用する場合、本章の「Windows NT 3.51アップデートサービスService Pack 4を利用する」を参照してください。
- ・ MODEM.INF編集後にネットワークの設定を行った場合、MODEM.INFの編集内容が元に戻る可能性があります。その場合は、バックアップしたMODEM.INFを使用するか、再編集してください。

#### ・ MODEM.INF の編集

本機で、「FAXモデムカード」をお使いになる場合、次の記述をMODEM.INFに追加します。

- ①Windows NTのコマンドプロンプトから、次のようにメモ帳を起動します。

```
CD %systemroot%\system32\cmd /c notepad
```

- ②カレントディレクトリがRASディレクトリであることを確認して、次のように入力しメモ帳を起動します。

```
NOTEPAD modem.inf
```

- ③メモ帳に MODEM.INF が表示されたら、キーボードの[CTRL]+[HELP] を押し、MODEM.INFの最後に移動します。

- ④次の内容を、間違えないように入力します。

なお三角「△」記号は、スペース（空白）一つ分をさします。

```
;-----  
[NEC PC-9801N-J15]  
CALLBACKTIME=10  
DEFAULTOFF=  
MAXCARRIERBPS=28800  
MAXCONNECTBPS=115200  
<speaker_on>=M1  
<speaker_off>=M0
```

```

<hwflowcontrol_on>=&K3
<hwflowcontrol_off>=&K0
<compression_on>=%C3
<compression_off>=%C0
<protocol_on>=¥¥N3
<protocol_off>=¥¥N0
<autodial_on>=ATDT
<autodial_off>=ATX3D

DETECT_STRING=ATI3<cr>
DETECT_RESPONSE=NEC△△ PC-9801N-J15

COMMAND_INIT=AT&F△S0=0△S2=256△S7=50<speaker><cr>
COMMAND_INIT=AT<speaker><compression><hwflowcontrol><protocol><cr>

COMMAND_LISTEN=ATS0=1<cr>
COMMAND_DIAL=<autodial><phonenumber><cr>

```

- ⑤入力後、追加した内容に間違いがないことを確認して、メモ帳の[ファイル]-[上書き保存]を選択しMODEM.INFを保存します。
- ⑥メモ帳を終了します。
- ⑦編集したMODEM.INFのバックアップを行います。コマンドプロンプトから次のように入力してください。

```
COPY modem.inf modem.up
```

- ⑧コマンドプロンプトを終了して、Windows NTを再起動します。

以上でMODEM.INFの編集は終了しました。次回起動時より「FAXモデムカード」を利用できます。

### ・レジストリの編集

FAXモデムカードのIRQを変更する場合は、次のレジストリエントリを変更します。

他の拡張ボードとIRQの競合が生じた場合は、拡張ボードのIRQを変更するか、下記の方法で対応してください。

- ①Windows NTのコマンドプロンプトから、次のように入力しレジストリエディタを起動します。

```
regedt32
```

- ②レジストリを次のように編集します。

¥HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Pcmcia¥DataBase¥NEC の下に、キー：PC-9801N-J15を作成し、キーの値を下記の通り設定します。

値の名前	データタイプ	文字列
InterruptNumber	REG_DWORD	この値を変更します。注1 (例：0x0a)

注1：FAX モデムカードで使用できるIRQ 0x3、0x5、0x6、0xa、0xc (16進)

変更するIRQは、他のボードと重複しない値を指定してください。

③レジストリエディタを終了して、Windows NT を再起動します。

## (4) Windows NT 3.51 アップデートサービス Service Pack 4 を利用する

本機で Microsoft® Windows NT® 3.51アップデートサービス「Service Pack 4」(以下 Service Pack 4)を適用する場合、特別な手順はありません。Service Pack 4 中にある「README.TXT」を参照して適用してください。ただし、MODEM.INFを「FAXモデムカード」用に編集している場合は、次の点に注意してください。

- ・ Service Pack 4 を適用すると、MODEM.INF ファイルが上書きされます。MODEM.INF を「FAXモデムカード」用に編集している場合は、Service Pack 4 を適用する前に必ず MODEM.INF をフロッピー ディスクなどにバックアップしてください。このとき、バックアップする MODEM.INF の名前を、MODEM.ORG にはしないでください。
- ・ Service Pack 4 を適用後、新しい MODEM.INF には「FAXモデムカード」の記述はありませんので、「FAXモデムカードを利用する」を参照して再編集するか、バックアップしたMODEM.INF を使用してください。

Microsoft® Windows NT® 3.51アップデート サービス「Service Pack 4」についての詳しい内容に関するお問い合わせは、NECパソコンインフォメーションセンターか、NECパソコン情報FAXサービスへお願いします。



弊社製以外のWindows NT 並びに Service Pack をご利用の方は、各 OS メーカーにお問い合わせください。

---

# 第3章 OS/2を利用する

本章では、OS/2を本機で利用する場合に必要な作業について説明します。

## 3.1 日本語MS OS/2 Ver1.21Bの利用

日本語MS OS/2 Ver1.21Bをご利用になる場合、内蔵ハードディスクは容量が540Mバイト以下のものをご利用ください。  
PC-9821Na12、PC-9821Nb10/S10F、Nb10/S8では日本語MS OS/2 Ver1.21Bは、ご利用になれません。

日本語MS OS/2 Ver1.21Bを本機でお使いになる場合は、アップグレードが必要です。アップグレードは、次の2通りの方法で実行することができます。

- ・OS/2 Ver1.21Bのインストール前に、「OS/2システムディスク」に対して実行する
- ・OS/2 Ver1.21Bのインストール後に、インストール先のハードディスクに対して実行する

ここでは、それぞれの手順について説明します。

以降の手順では次のものがが必要です。あらかじめ準備しておいてください。

- ・1.2Mバイトフォーマット済フロッピーディスク：1枚
- フロッピーディスクには「システムディスク#2(複製)」と書いたラベルを貼っておいてください。

### (1)システムディスクのアップグレード

- ①内蔵ハードディスクからWindows 95を起動します。  
[スタート]メニューの「Windowsの終了」をクリックし、「MS-DOSモードでコンピュータを再起動する」を選択して、MS-DOSモードを起動します。
- ②フロッピーディスクドライブに「システムディスク#2」をセットします。
- ③DISKCOPYコマンドを使用し「システムディスク#2」の複製を「システムディスク#2(複製)」に作成します。
- ④コマンドプロンプトから次のように入力し、ファイルの上書きコピーを行います。  
〈FDドライブ名〉には「システムディスク#2(複製)」をセットしたフロッピーディスクドライブのドライブ名を指定します。

COPY 〈Windows 95のドライブ名〉:¥OS2¥121B¥DISKX01.SYS 〈FDドライブ名〉:☑

- ⑤フロッピーディスクを取り出します。

これで、システムディスクに対するアップグレード作業は終了です。  
上記の手順で作成した「システムディスク#2(複製)」を利用して、OS/2をインストールしてください。

## (2)インストール済みハードディスクのアップグレード

- ①「(1)システムディスクのアップグレード」の操作を行います。
- ②OS/2を、フロッピーディスクから起動します。  
このとき2枚目のフロッピーディスクには(1)でアップグレードを行った「システムディスク#2(複製)」を使用します。
- ③インストールコマンドの画面が表示されたら、**[ESC]** キーを押してインストールコマンドを終了します。
- ④コマンドプロンプトから次のように入力します。  
〈ドライブ名1〉には、「システムディスク#2(複製)」をセットしたフロッピーディスクドライブのドライブ名を〈ドライブ名2〉にはOS/2をインストールしたドライブのドライブ名を指定します。  

```
COPY <ドライブ名1>: ¥DISKX01.SYS <ドライブ名2>: Ⓜ
```
- ⑤フロッピーディスクドライブに、「日本語MS OS/2 Ver1.21Bシステムディスク#1」を挿入したあと、コマンドプロンプトから次のように入力します。  

```
A: ¥SHUTDOWN Ⓜ
```
- ⑥シャットダウンが終了したらフロッピーディスクを取り出して、本機を再起動してください。

---

## 3.2 OS/2 J2.11の利用



CD-ROMドライブ内蔵モデルでOS/2 J2.11をご利用になる場合、本体内蔵のCD-ROMドライブを使用することはできません。

### ■ディスプレイの設定

インストール途中またはインストール後のディスプレイドライバのソフトウェア設定は、次の手順で行ってください。



本機に搭載されているウィンドウアクセラレータは利用できません。

## (1)インストール途中のディスプレイ設定

インストール途中で、本機が再起動すると[システム構成]ウィンドウが表示されます。ここで、[ディスプレイ]を選択すると、ディスプレイ一覧が表示され、使用したいディスプレイを選択することができます。



WIN-OS/2を利用する場合、次に示すディスプレイモードは使用しないでください。

- ・ 本体 640×480 256色モード

## (2)インストール後のディスプレイ設定

[システム構成 機能の追加] オブジェクトを選択すると[システム構成]ウィンドウが表示されます。ここで[ディスプレイ]を選択すると、ディスプレイ一覧が表示され、使用したいディスプレイを選択することができます。



WIN-OS/2を利用する場合、次に示すディスプレイモードは使用しないでください。

- ・ 本体 640×480 256色モード

## ■拡張電源管理の設定

本機でOS/2 J2.11の拡張電源管理機能は利用できません。インストール途中の[OS/2の設定とインストール]ウィンドウで[拡張電源管理(APM)]のチェックボックスをクリアしてください。

## 3.3 OS/2 Warp V3-日本語版および OS/2 Warp Connect V3-日本語版の利用

### ■ディスプレイの設定

本機で、OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版をご利用になる場合、インストール途中またはインストール後のディスプレイドライバのソフトウェア設定は、次の手順で行ってください。



本機に搭載されているウィンドウアクセラレータを使用する場合、次の作業が必要です。

- ・ ディスプレイドライバディスクの作成
  - ・ インストールしたOS/2をアップグレードする
- アップグレード手順については「(3) ウィンドウアクセラレータの設定」を参照してください。

## (1) ウィンドウアクセラレータの設定

### ● ディスプレイドライバディスクの作成

「ディスプレイドライバディスク」を作成する手順について説明します。

- ① フロッピーディスクを1枚用意します。1.2Mバイトフォーマットを行い、PC-9821Na12では「NA12DISP」、PC-9821Nb10では「OS2DISP」とボリュームラベルをつけてください。フロッピーディスクには「ディスプレイドライバディスク」と書いたラベルを貼っておいてください。
- ② 内蔵ハードディスクからMS-DOSモードを起動します。Windows95が起動している場合は、[スタート]ボタンを押し、[Windowsの終了]から[MS-DOSモードでコンピュータを再起動する]を選択します。
- ③ コマンドプロンプトより次のように入力します。

CD ¥OS2 

- ④ 用意しておいた「ディスプレイドライバディスク」を、フロッピーディスクドライブへセットします。
- ⑤ カレントディレクトリがOS2であることを確認し、コマンドプロンプトから次のように入力します。

COPY \*.\* <ドライブ名>: /V 

<ドライブ名>には手順④で「ディスプレイドライバディスク」をセットしたドライブ名を指定します。

### ● インストールしたOS/2をアップグレードする

作成した「ディスプレイドライバディスク」を使用して、インストールしたOS/2をアップグレードする手順について説明します。OS/2のインストール方法はOS/2に添付のマニュアルをご覧ください。



本機搭載のウィンドウアクセラレータを使用する場合、OS/2 Warp V3-日本語版またはOS/2 Warp Connect V3-日本語版を、「(2) インストール途中のディスプレイ設定」においてディスプレイの設定を「本体640×400 16色モード」にしてインストールし、その後、次の手順でウィンドウアクセラレータの設定を行ってください。

また、本機の液晶ディスプレイを使用する場合(別売のCRTディスプレイ接続時以外)は、800×600ドット(PC-9821Nb10/5では640×480ドット)より高い解像度を選択しないでください。

- ①インストール完了後、OS/2を再起動後「OS/2ウィンドウ表示」を起動します。
- ②「ディスプレイドライバディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。
- ③コマンドプロンプトで次のように入力します。

C: 

INST C: A: 

(「ディスプレイドライバディスク」をセットしたフロッピーディスクドライブをC、OS/2がインストールされているドライブをAとして説明しています。お使いのシステム構成と異なる場合は読み替えてください。)

- ④「OS/2の終了」を選択し、「ディスプレイドライバディスク」をフロッピーディスクドライブより取り出した後、システムを再起動します。  
OS/2が再起動したら、再び「OS/2ウィンドウ表示」を起動します。
- ⑤コマンドプロンプトより次のように入力します。

DSPINSTL 

- ⑥「ディスプレイドライバのインストール」ウィンドウが表示されます。  
「主ディスプレイ」チェックボックスにチェックマークをつけ「了解」ボタンを押します。
- ⑦ディスプレイドライバの一覧が表示されますので、お使いの機種 of ディスプレイドライバを選択し「了解」ボタンを押します。
- ⑧「ソースディレクトリ」ウィンドウが表示されますので、「ディスプレイドライバディスク」をフロッピーディスクドライブに挿入し、ソースディレクトリをフロッピーディスクドライブに変更し、「インストール」ボタンを押します。
- ⑨ディスプレイドライバのインストールが終了しましたら、「OS/2の終了」を選択し、「ディスプレイドライバディスク」をフロッピーディスクドライブより取り出した後、システムを再起動します。



ディスプレイドライバの解像度を変更する場合は、再度⑤以降の手順を行う必要があります。

## (2)インストール途中のディスプレイ設定

インストール途中で、本機が再起動すると[システム構成]ウィンドウが表示されます。ここで、[ディスプレイ]を選択すると、ディスプレイ一覧が表示され、使用したいディスプレイを選択することができます。



WIN-OS/2を利用する場合、次に示すディスプレイモードは使用しないでください。

・本体 640×480 256色モード

### (3)インストール後のディスプレイ設定

[システム構成 機能の追加] オブジェクトを選択すると [システム構成] ウィンドウが表示されます。ここで [ディスプレイ] を選択すると、ディスプレイ一覧が表示され、使用したいディスプレイを選択することができます。



WIN-OS/2を利用する場合、次に示すディスプレイモードは使用しないでください。

・本体 640×480 256色モード

## ■CD-ROMの設定

OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版をご利用になる場合、CD-ROMドライバのソフトウェア設定は、次の手順で行ってください。

インストール途中で、本機が再起動すると [システム構成] ウィンドウが表示されます。ここで [CD-ROM装置] を選択すると、CD-ROM一覧が表示され、使用したいCD-ROMを選択することができます。



CD-ROMドライブ内蔵モデルで内蔵CD-ROMをご使用になる場合、“その他の専用インタフェースCD-ROM”を選択してください。

## ■サウンドの設定

OS/2 Warp V3-日本語版のみにに関する内容です。

PC-9821Na12をお使いの場合のみ以下の作業が必要です。  
その他の機種をお使いの場合は以下の作業は不要です。

本機でOS/2 Warp V3-日本語版をご利用になる場合、PCMサウンド機能は使用できませんので、組み込まないよう、以下の手順で設定してください。

インストール途中で再起動すると [システム構成] ウィンドウが表示されます。ここで [マルチメディア] を選択すると [装置選択と設定] ウィンドウが表示されます。この際、[システムの装置としてインストールする] に [PC-9821Xシリーズサウンドドライバ] がある場合、[<<除去] を選択してください。

# 第4章 その他のソフトウェア を利用する

本章では、別売のソフトウェアを本機で利用する場合に必要な作業について説明します。

## 4.1 N88-日本語BASIC(86)の利用

### (1) テキスト画面についてのご注意

N88-日本語BASIC(86)\*でテキスト画面を使用する場合、WIDTH命令を使用して、表示する<桁数>を40桁に設定することはできません。

\* PC-9821Nb10では、N88-日本語BASIC(86)(MS-DOS版)およびN88-BASIC(86)、PC-9821Na12ではN88-日本語BASIC(86)(MS-DOS版)、N88-日本語BASIC(86)、N88-BASIC(86)すべて含みます。

### (2) グラフィック画面についての注意

PC-9821Nb10に関連した内容です。

N88-日本語BASIC(86)\*でグラフィック画面を使用する場合、SCREEN命令を使用して、<画面モード>を白黒モードまたは高分解能白黒モードに設定することはできません。

\* N88-日本語BASIC(86)(MS-DOS版)およびN88-BASIC

### (3) N88-日本語BASIC(86) Ver6.3のサウンド機能についてのご注意

PC-9821Na12に関連した内容です。

N88-日本語BASIC(86) Ver6.3のサウンド機能を利用する場合は次の手順が必要です。

- ・ BASICのセットアップユーティリティ (setup.n88) を利用して「サウンド拡張モードの設定」で「拡張ROMモード」を選択してください。

セットアップユーティリティについては、N88-日本語BASIC(86) Ver6.3のマニュアルを参照してください。

### (4) N88-日本語BASIC(86) (MS-DOS版) Ver6.2についてのご注意

N88-日本語BASIC(86) (MS-DOS版) Ver6.2は、Windows 95の [MS-DOSプロンプト] を起動して利用することはできません。Windows 95を終了し、MS-DOSモードを起動してご利用ください。

スタートメニューから [Windowsの終了] をクリックし、 [MS-DOSモードでコンピュータを再起動する] を選択してください。

## 4.2 LAN マネージャ リモートアクセスサービス で38400bpsの通信速度を利用する



Windows 95では、MS LANマネージャリモートアクセスサービスは利用できません。

本機では、MS LANマネージャ 2.1x (以下LANマネージャ) リモートアクセスサービスで38400bpsの通信速度を利用することができます。



- ・本機能を利用するにはあらかじめ、次のソフトウェアがシステムにインストールされていることが必要です。
- ・日本語MS-DOS 5.0A以上  
「1.1 MS-DOS 6.2/5.0Aをアップグレードする」を参照し、インストールとアップグレードを行ってください。
- ・以下のいずれかのLANマネージャ
  - ・日本語MSマルチベンダ LANマネージャ 2.1A  
MS-DOSクライアントパック
  - ・日本語MSマルチベンダ LANマネージャ 2.1A  
サーバパック内のMS-DOS LANマネージャワークステーション
  - ・日本語MSマルチベンダ LANマネージャ 2.1c
- ・LANマネージャリモートアクセスサービス

本機能を利用するには、以下の手順でドライバのインストールを行なってください。ただし、「Microsoft Windows NT Server 3.51」\*添付のMS LANマネージャリモートアクセスサービスを使用する場合、ドライバをインストールする必要はありません。

\* Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 3.51

以下の手順では次のものがが必要です。準備しておいてください。

- ・フォーマット済み2HDフロッピーディスク1枚

①内蔵ハードディスクからMS-DOSを起動します。

Windows 3.1が起動している場合は終了させて、コマンドプロンプトの状態にします。

②フォーマット済みの2HDフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。


③コマンドプロンプトから次のように入力して、ディレクトリを作成します。

MD <フロッピーディスクドライブ名>¥LANMAN 

例：フロッピーディスクドライブがCドライブの場合


MD C:¥LANMAN 

- ④コマンドプロンプトから次のように入力して、アップグレードディスクを作成します。


XCOPY <ドライブ名>¥LANMAN <フロッピーディスクドライブ名>¥LANMAN /S 

<ドライブ名>は、Windows 95がインストールされているハードディスクのドライブ名を指定します。

例：Windows 95がインストールされているのがAドライブで、フロッピーディスクドライブがCドライブの場合

XCOPY A:¥LANMAN C:¥LANMAN /S 

- ⑤作成したフロッピーディスクには、「LAN マネージャアップグレードディスク (機種名)用」と書いたラベルを貼っておきます。(機種名)にはお使いの機種名を書いてください。
- ⑥アップグレードディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、コマンドプロンプトから次のように入力してカレントドライブを変更します。

<フロッピーディスクドライブ名>: 


例：フロッピーディスクドライブがCドライブの場合

C: 

- ⑦コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントディレクトリをLANMANディレクトリに変更します。

CD LANMAN 

- ⑧コマンドプロンプトから次のように入力して、インストールプログラムを実行します。

INSTRAS <ドライブ名>¥<ディレクトリ名> 

<ドライブ名>、<ディレクトリ名>は、LANマネージャがインストールされているハードディスクのドライブ名、ディレクトリ名を指定します。

例：BドライブのLANMAN.DOSディレクトリにLANマネージャをインストールしている場合

INSTRAS B:¥LANMAN.DOS 

- ⑨しばらくすると、自動的にリモートアクセスサービスのセットアッププログラムが起動します。ここで[構成]を選択し、ポートとモデムの再構成を行ってください。

なお、リモートアクセスサービスのインストール/構成方法については、下記のそれぞれのマニュアルをご覧ください。

・ LANマネージャ2.1Aをご使用の場合

「MS LANマネージャリモートアクセスサービス管理者ガイド」

「MS LANマネージャ2.1Aご使用に際して」

・ LANマネージャ2.1cをご使用の場合

「MS LANマネージャリモートアクセスサービス管理者ガイド」

「Microsoft Windows NT Server3.51\* 本製品の内容について」

\* Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 3.51



- ・ PC-9801-101 RS-232C（第2～第3回線用）拡張インターフェイスボードを使用する場合は、インターフェイスボードに添付されているドライバはインストールしないでください。
- ・ PC-9861Kまたは、PC-9801-101拡張インターフェイスボードを使用する場合は、それぞれのインターフェイスボードでサポートされている最高の通信速度までご利用になれます。



Windows上でご利用の場合は、19200bpsより速い通信速度はご利用になれません。



モデムカード 2400（PC-9801N-JO1）またはFAXモデムカード（PC-9801N-JO5）を使用する場合は、次の点に注意してください。

- ・ 活線挿抜機能は使用できない。
- ・ 通信速度は、それぞれのPCカードでサポートされている最高通信速度まで使用できる。

また、FAXモデムカード（PC-9801N-JO5）を使用する前に、次の点に注意し、あらかじめFAXモデムカードセットのFAXモデムカードメニュー（MODEMSET.EXE）を使用して以下の設定を行ってください。

- ・ RS-232C回線番号をCOM2またはCOM3に設定する。

FAXモデムカードメニューの使用方法については、FAXモデムカード添付の『FAXモデムカードセットご使用に際して』をご覧ください。

---

## 4.3 PCカードサポートソフトウェアの利用

MS-DOSまたはWindows3.1でPCカードをご利用になる場合は、「PCカードサポートソフトウェア」をインストールする必要があります。



### (1) PCカードサポートソフトウェアインストールディスクの作成

次の手順で、あらかじめ「PCカードサポートソフトウェアインストールディスク」（以降「インストールディスク」）を作成してください。

以下の手順では、次のものがが必要です。準備しておいてください。

・2HDフロッピーディスク1枚

このフロッピーディスクには、あらかじめ「インストールディスク」と書いたラベルを貼っておいてください。

- ①本機の電源をONにします。「Windows 95を起動しています……」というメッセージが表示されますので、**[F・8]**キーを押して、Windows 95起動メニューを表示させます。
- ②Windows 95起動メニューから、「コマンドプロンプトのみ」を選択します。
- ③コマンドプロンプトから次のように入力します。  
CD ¥PCCARD   
CPCRDCFG <フロッピーディスクドライブ名>: 
- ④画面に表示されるメッセージにしたがって、フォーマットしてよい2HDフロッピーディスク（「インストールディスク」）をフロッピーディスクドライブにセットしてください。
- ⑤何かのキーを押すと、フロッピーディスクのフォーマットを開始します。フォーマットした後、「インストールディスク」の作成が行われます。  
なお、インストールの作業を行う前に、「インストールディスク」のREADME.PCCファイルをよくお読みください。

### (2) PCカードサポートソフトウェアのインストール

「PCカードサポートソフトウェアマニュアル」の「第2章 PCカードサポートソフトウェアのインストール」を参照して、PCカードサポートソフトウェアをインストールしてください。



**付録**

# 付録

本機を利用するための補足情報です。

**付録A** 本機の便利な機能

**付録B** 固定ディスク起動メニュー

# 付録A 本機の便利な機能

## ツール一覧

本機の [スタート] メニューから [プログラム] を選択すると、次のアイコンやフォルダが表示されます。

### ●表の見方

\*があるものは本書で説明している機能です。

☆があるものはFAXモデム内蔵モデルのみの機能です。くわしくはFAXモデム内蔵モデル添付の「インターネットスタートガイド」を参照してください。

その他の機能についてはそれぞれのオンラインヘルプを参照してください。

DOSアプリケーション	DOS AP ショートカットの作成* DOS APの登録*		
NEC ユースフルパック	FD/CD表示* FontAvenueインストール* FontAvenue外字コンバータ* FontAvenue文字セット切り替え* JADE ScanVakzin Limited* NEC ユースフルパック Readme イメージスキャナユーティリティ* カラーイメージユーティリティ* テキストリーダー* 日英辞書引き君(単文変換版)* 日英辞書引き君ヘルプ		
TranXit	TranXit TranXitアップグレード情報 TranXitアンインストール TranXitヘルプ TranXit説明ファイル TranXit登録 ディスク作成		
アクセサリ	FAX(注1)	FAXメッセージの要求 新しいFAXメッセージの送信 送付状エディタ	
	インターネットツール	インターネット エクスプローラ3β	インターネット エクスプローラ3β インターネット セットアップ3β インターネット ヘルプ3β

アクセサリ	インターネットツール	mesh オンラインサインアップ☆ インターネットエクスプローラ インターネットセットアップウィザード* まず初めにご覧ください☆ 英日ちょっと辞書引き君☆
	ゲーム	Hover ソリティア ハーツ フリーセル マインスイーパー
	システムツール	システムモニター スキャンディスク デフラグ ドライブスペース バックアップ リソースメーター 受信トレイ修復ツール
	マルチメディア	98プレーヤー* CD プレーヤー サウンドレコーダー ボリュームコントロール メディアプレーヤー
	98NOTEメニューユーティリティ オンライン登録 ダイアラー ダイヤルアップネットワーク(注2) ハイパーターミナル ヒントとWindows入門 ペイント メモ帳 ワードパッド 外字エディタ 電卓 文字コード表 密度変換ユーティリティ* (注3)	
コミュニケーション	meshオンラインサインアップ* PC-VAN ナビゲータ* PC-VAN ナビゲータヘルプ オンラインサインアップ*	
スタートアップ	スケジューラ for JADE ScanVakzin*	
英日翻訳アダプタ☆	英日ちょっと辞書引き君☆ 英日翻訳エンジン☆ 英日翻訳アダプタのご紹介☆	
Microsoft Exchange MS-DOSプロンプト The Microsoft Network エクスプローラ パソコン用語集 補足説明		

注1：FAXモデム内蔵モデルのみ、購入時に表示されます。その他のモデルの場合、Microsoft FAXを使う設定にすると表示されます。

注2：購入時には表示されません。

注3：PC-9821Nb10/5にはありません。

---

---

# 付録B 固定ディスク起動メニュー

---

---

ここでは、本機で固定ディスク起動メニューを利用する上での必要事項について説明します。

---

## 固定ディスク起動メニュー

「固定ディスク起動メニュー」では、ハードディスクのどの領域（ドライブ）から、システムを起動するかを選択することができます。

本機のご購入時には、「固定ディスク起動メニュー」は表示されずに、内蔵ハードディスクのWindows 95が起動します。

「固定ディスク起動メニュー」を表示させるには、**TAB**キーを押しながら、電源をONにしてください。

操作方法については、画面上に表示されている説明をご覧ください。



